

書

企

號二第

卷四第

(號八十三第計通)

(月二年六十和昭)

伊太利の基礎産業とその戰時對策

情報

ソ聯 本年度ソ聯邦國家豫算  
獨逸 燃燒劑及飛行機煤彈の消  
火

英國 防空室の暖房に就て  
科學諮問委員會の設置

合衆國 都市及農村計畫  
新鮮野菜の供給計畫確立の  
必要  
合衆國の工作機械工業

資料・統計

重要原料資源生産月報

附錄

内外總動員關係記事月報

- 一、列國總動員關係記事月報(歐文資料)
- 二、内外總動員關係記事月報(邦文資料)

院 畫 企



310  
141

## 企 畫 第四卷 第二號 目次

### 特輯記事

伊太利の基礎産業とその戦時對策……………(一)

### 目 次

はしがき……………(二)

### 第一章 農 業……………(五)

- 一 土地完全改良(五)——二 小麦(二二)——三 玉蜀黍(二三)——四 米(二三)——
- 五 馬鈴薯(二四)——六 甜菜(二四)——七 蔬菜(二五)——八 果實(二五)——九 畜
- 産(二六)——十 採油植物(二〇)——十一 國民營養(二三)——十二 農業技術(二四)
- 十三 農業政策(二六)

### 第二章 鑛 業……………(二八)

一 金 屬……………(二八)

- 1 鐵(二九)——2 マンガン(三一)——3 銅(三二)——4 亞鉛及び鉛(三三)——

本誌記事轉載の際には豫め本院に照會の上、企畫院發行「企畫」に  
よる旨を明記し且つ當該刊行物一部寄贈ありたし

企 畫 院

九一〇一九

- 5 錫(三四)——6 ニッケル及びコバルト(三五)——7 アルミニウム(三五)——
- 8 マグネシウム(三六)——9 水銀(三七)——10 其他の金屬(三八)
- 二 非金屬
- 1 硫黄(四〇)——2 アスベスト(四二)——3 鹽(四三)——4 滑石(四三)——
- 5 重晶石(四三)——6 其他の非金屬(四四)
- 第三章 加工工業と原料の戦時確保
- 一 エネルギー(四五)——二 工業(四六)——三 物資貯藏(四九)——四 獨伊經濟提携(五〇)

情報

- ソ 本年度ソ聯邦國家豫算……………(五五)
- 獨 燃燒劑及び飛行機爆彈の消火……………(六一)
- 防空室の暖房に就て……………(六三)
- 科學諮問委員會の設置……………(六六)
- 都市及農村計畫……………(六九)
- 新鮮野菜の供給計畫確立の必要……………(七一)

合衆國 合衆國の工作機械工業……………(七二)

資料・統計

重要原料資源生産月報……………(七四)

附録

- 内外總動員關係記事月報……………(八三)
- 一 列國總動員關係記事月報(歐文資料)……………(八三)
- 二 内外總動員關係記事月報(邦文資料)……………(一六三)

九一〇一九

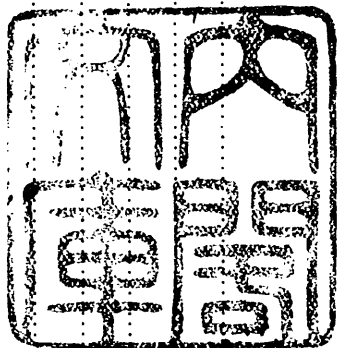
二

- 5 錫(三四)——6 ニッケル及びコバルト(三五)——7 アルミニウム(三五)——
- 8 マグネシウム(三六)——9 水銀(三七)——10 其他の金屬(三八)
- 二 非金屬
- 1 硫黄(四〇)——2 アスベスト(四二)——3 鹽(四三)——4 滑石(四三)——
- 5 重晶石(四三)——6 其他の非金屬(四四)
- 第三章 加工工業と原料の戦時確保
- 一 エネルギー(四五)——二 工業(四六)——三 物資貯蔵(四九)——四 獨伊經濟提

携(五〇)

情

- ソ 本年度 (五五)
- 獨 燃燒劑 (六二)
- 英 防空室 (六三)
- 國 科學諸 (六六)
- 都市及 (六九)
- 新鮮野 (七一)



合衆國 合衆國の工作機械工業 (七二)

資料・統計

重要原料資源生産月報 (七四)

附 録

- 内外總動員關係記事月報 (八三)
- 一 列國總動員關係記事月報(歐文資料) (八三)
- 二 内外總動員關係記事月報(邦文資料) (一六三)

三





伊太利の獨陣營參加の宣戰は英國に幸ひし又獨逸には禍ひとなるやうな結果に立ち至るのみであると、全世界に向つて放送して來た。實際には然し正にその逆であらう。昨年六月十日に伊太利が獨逸の側について立ち上つた時、ヨーロッパ大陸の「自然的」經濟狀態に關する英國の從來の觀念、即ち伊太利は經濟的に脆弱であると云ふ確信は、大衝擊をうけたに違ひない。それにも拘はらず伊太利が愈々思ひ切つた行動に出た時、英國は、それでも脆弱な伊太利の經濟が良くこれに應じ切れないであらうと唱へなければならなかつた。而も英國官邊の宣傳は、對伊戰爭に對して未だになほ從來の論證を以て行はれてゐる。然るに今や、これまで疑ふべからざる一般通念とされてゐたものが、もはや何人も信ぜざる安價な氣休めの言葉となり果てたことは、餘りにも明瞭であると云ふべきであらう。

過去十箇年乃至十五箇年前に於ける伊太利の經濟的發展は英國に於て或る程度まで良く觀察されては居るが、それ以後昨年六月十日の伊太利宣戰に至る迄の、その意義ある經濟發展は認識されて居ない。然しながら實は此の時期に於て、伊太利が今や獨立的經濟體として、英國支配の「世界經濟」から離脱し、世界に於ける一層大なる經濟圏を要求するためのみならず、又必要とあらば一戰をも強行せんために、英帝國に對抗するに至り得るほどの經濟的基礎が作られたのである。今日の伊太利は十年乃至十五年前とは經濟的に全く異つてゐる。否更に五、六年前とすらも異つてゐる。然るに英國に於ける伊太利經濟力に關する觀念は依然として一九二〇——二五年頃の觀念そのまゝである。その當時は、伊太利の經濟發展には、次の事柄で、明かに諸種の困難が認められると思はれてゐた。それは即ち、國際貸借上の諸困難がどうしても脱し切れなかつたこと、明かに役にも立たぬと思はれたところの、當時としては恐ろしく大きな經濟行政機構が打ち立てられて、伊太利が、西歐の資本主義國家に於てならば取るに足らぬと思はれるやう

な「貧弱」な國內原料から、經濟價値を生み出さんと努めたことなど、その他色々であるが、然しさうしたあらゆる努力にも拘はらず、伊太利の所謂「自然的原料貧困」は除去し得られずに、その努力も結局大した效果あるものではなくして、矢張り伊太利は從來通りに、原料の豊富な西歐列強への、就中大英國への經濟的依存を續けて行かざるを得ないであらう、と言ふのが、英國の皮相な考へ方であつたのである。

然しながら實際は、伊太利に於けるファシズム革命の開始このかた、經濟的基礎もまた變化した。外國觀光客の施しに依つて大部分生活してゐた「美と乞食の國」は、計畫的に指導される勞働の國となつた。英國に於ては農業耕地面積が漸次減少して行くのに、伊太利では、會ての荒蕪地に今日穀物が稔るのである。又英國に於ては失業者の數が殆ど會て百萬人を降つたことがないのに、伊太利に於ては、會て良く使用されずに來た幾十萬の勞働者の力は、幾年來の國家的事業計畫及び勞務指導によつて、剩すところなく使用されるに至つたのである。國內のあらゆる原料豫備力及び生産豫備力を實際に動員するためには最新の科學的諸發明が應用され、更に又新たな發明や工夫も行はれた。斯うして結局、ムツソリーニが折々言明した通り、伊太利は、從來重要視されてゐた原料の或るものが不足し乃至劣等なものしかないとは言ふものの、全體としては、一般の通説に反して、原料は決して貧弱ではないと云ふことが明かとなつた。又不足礦産原料があるとは言つても、このことに對しては、採鑛方法が改正されたため、數年前までは手が着け得られなかつた鑛層も採掘し得られるやうになつてゐる。又最後にファシスト政府は、多くの場合、新しい生産部門にして若しアウトルキー政策に特に重要であると思はれるものであれば、それらの部門に於ける極めて過度の勞働力消費をも敢て意としないと言ふことに決定した。斯うしてファシズムは次第に國の經濟的實績を高め、そして國

内自給問題に存在する数々の缺陷をすべて次から次へと除去して行つた。實に斯かる方法をとつたからこそ、伊太利は、かの一九三五—三六年當時、英國の意圖に反して、アビシニヤ征服を貫遂し得る力を獲得したのである。然るに依然として英國では、英國の經濟的獨占に對する伊太利の依存性は結局破れるものではなく、伊太利經濟の過度な内部的緊張と稱せられてゐるものが内面から空洞になり且それと共にフアシズム經濟組織が崩壊の止むなきに立ち至る時に、再び伊太利の對英依存が完全に現はれるに違ひないと考へられてゐる。英國が對獨戰の最初の九箇月間に伊太利に對してとつた態度——誘引と脅迫——も、斯うした觀察に基いてゐることは明かである。

然しなほ伊太利の參戰後も、「伊太利は弱い」と云ふ古くから深く根差した流行觀念は去らず、明かにその觀念を基として、英國の對伊作戦の最も適切な方法に就いての考究が爲されてゐるのである。獨逸に對してと同様、伊太利に對してもまた「消耗戰」と云ふことが英國の結局の標語であるやうに思はれる。即ちそれは、敵が少しでも永く命脈を保たんと欲して、その有する經濟豫備力を漸次消耗し盡すのを待つことである。然しながら既に全く大きな輪廓に於て示される伊太利經濟の諸問題の相貌は、伊太利の經濟が過去十年乃至十五年の間に力と堅實性を獲得したと云ふこと及びその抵抗力が幾層倍にも強くなつてゐると云ふことを明示してゐるのである。

ムツソリーニが曾て言つたやうに、フアシズムにとつて戰時經濟と平時經濟との差異はない、と云ふ認識はそれ以來伊太利の經濟を指導して來た。參戰前九箇月間に伊太利經濟はその力の充實を獲得した。それ迄は自給目的に添ふ國內經濟及び對外經濟の轉換の爲の遠大なる計畫の實現に努力し、この爲必然的に幾年かを要したのであつたが、茲に至つて只管、戰爭を豫期しての直接的任務が成し遂げ得られたのである。いざ戰爭となつた時に伊太利は、伊太利國

民の億出に生々しいかのアビシニヤ戰爭以上の經濟的攻圍の危險に對して、その當時よりも武裝が備つてゐたばかりでなく、自給政策の精華とも正に言ふべき軍備も亦、伊太利に軍事行動の自由を與へる状態に達してゐたのである。

總力戰を意味するこの準備に加へて、戰爭開始と共に更に種々の措置が執られたことは勿論である。然るに今度は世界大戰の時とは違つて、狼狽して事に處する必要はなく、必要とされる變更は速かに且經濟の進行を妨げることなしに、行はれることが出来たのである。

## 第一章 農業

### 一 土地完全改良

内部經濟建設の成果のうち第一に挙げらるべきものは、以前高度に「外國産麵粉への隸從」の状態にあつた伊太利の食糧自由の獲得である。フアシズムの最大目標の一つは、伊太利國民の食糧を確保し、農民の向上を圖ることであつたが、その役割をなしたのは、一九二三年十二月三十日の「土地完全改良」(Bonificati nterale)に關する最初の法律であつた。その五年後更に一九二八年十二月二十四日の所謂ムツソリーニ法によつてその計畫の細目が決定され、これが今なほその實現に向つて努力されつつあるのである。伊太利は一九三五年の制裁を無事に切り抜けたが、この際の經濟裝備の缺陷が明かに認識された。その爲ムツソリーニは一九三六年三月に、國民に向つて、そのアウトルキイ計畫に關する演説を行つたのであつて、これが、土地改良事業に對する一つの新しい力強い動因となつたものである。タツチナリー大臣が昨年始めに伊太利農民に標語として與へた「土地完全改良」と云ふのは、伊太利の國土から未

開墾地をなくすること、及び元からの耕作地から、合理的管理によつて、より多くの單位收穫を擧げることの意味してゐるのである。

六

伊太利全面積三千百萬ヘクタールのうち二千八百五十四萬ヘクタール即ち九二パーセントが農業及び林業に用ひられてゐるが、使用される地面のうち千百九十九ヘクタールが丘陵地、千七十萬ヘクタールが山地、五百九十ヘクタールが平地に當つてゐる。然しこのうち本來の意味に於ける耕地面積は千二百九十四萬七千ヘクタールと報告されてゐる。山地と丘陵地は總面積の十九・五八パーセントを占め、その住民は全人口の六六・〇七パーセントである。ポンテイーネ耕地を模範とした沼澤地の排水によつて、或はまた溢水に對する堤防の構築によつて新地を得ることは、北部の僅かな地方に於てだけは可能であつたので、一九三五年には次のやうな大排水施設が完成された。一秒四萬一千三百リットルの能力を有するクレモナ・マントヴァ地方の *s. Matteo dell'Oraviche* 及び一秒二萬四千リットルの能力あるリヴェンツァ河畔(ピアヴェ河口の北方)のポンプ事業がこれである。最大の施設たるモデナ附近の *Fidenza* (能力、一秒五〇〇〇リットル)は、向ふ三年間に開業されることとなつてゐる。全體に於て、本國に於ては、一九二二年より一九三九年までに、十四萬三千馬力の排水ポンプ設備が設けられ、又長さ三千七百公里メートルの堤防が作られたのである。

伊太利人が一九二六年以來八千ヘクタールの面積の開墾に成功したアルバニアに對しては、一九三九年の併合直後費用十二億リラの土地改良計畫を立てられた。この計畫はドウラツツオ及びスクタリ湖附近一帶の排水並びに——ユーゴスラヴィアとの諒解のもとに——ドリソ河及びボヤナ河の整理を豫定してゐるものであつて、その遂行の曉には、

二十萬ヘクタールの土地が農業の利用のために得られるはずである。

土地改良事業は、マラリアの永遠の災厄を除く目的を以て(ポンテイーネの耕地ではそれに成功した)沼澤地域からまづ出發したのであつたが、然し全體的に見れば、早魃が、伊太利農民の主要なる敵である。一年平均六百ミリメートルの總降雨量は僅少過ぎるとは言へないが、その配分が甚だ不均衡であつて、南部に於ては秋と冬とに降雨の五分の四が降ると云ふのに、夏は四ヶ月にも互る旱天期のために、ポー河平野に於てすらもすべての植物が枯死に頻する程なのである。それ故ローマの祖先の事業たる人工灌溉を再び行ふことによつて、はじめて農業をして、その國家的使命の貫達を可能ならしめると云ふことになるのである。現代の伊太利はこのために、貯水用堰堤、灌溉用水溝、地下水を汲みあげるための深井戸及びポンプ設備を作つてゐるが、これらの設備は、一九二二年より一九三八年までに遂行された私的土改のうちに、可決された國庫補助金總額四十四億千三百六十萬リラ中七億四千八百二十萬リラを占めて、第一の地位に立つてゐる。一九二九年には百四十萬ヘクタールの人工灌溉が行はれたが、一九三八年末には既に二百萬ヘクタールとなつた。一九三九年の計畫によれば、以後八年間に、更に七十萬乃至八十萬ヘクタールの灌溉が完成されることになつて居り、これによつて、年に十億リラに値する増収が期待されてゐる。一九三八年の末までに、完成された放水路及灌溉水溝は延長一萬七千五百キロメートルで、これは、伊太利の海岸線及内地境界線總延長の三倍に當つてゐる。一九三九年の一月及六月の法律によつて決定された國家直營の最も重要な計畫は次の事業である。(一)旱天期に左方のポー平野に一秒二百立方メートルの水量を供給する目的を持つた、イセオ湖の例及アーデイジェ河の整理に倣つて、前アルプス山脈諸湖水(マツジョーレ湖、ガルダ湖、コモ湖)の利用。(二)エミリ

伊太利の基礎産業とその戰時對策

七

ア地方及びローマ地方を通過する、ポー河からアドリヤ海(ラヴェンナ附近)に至る、六百頃までの船舶の航行の出来る、長さ一八四キロメートルの運河。この運河はポー河から一秒百立方キロメートルの水を取つて、モデナ、ローマ及びローマ地方の二十萬ヘクタールに亘る乾燥平野に灌漑することになつてゐる。(三) 分枝運河がモデナ附近から始まり、昔のエミリア街道に沿つて、更に十萬ヘクタールを灌漑することになつてゐる。(四) ローマからナポリに至る間のフォンデイ地方の灌漑。(五) プーリア高地の灌漑。これはフォツジャを中心とする四十五萬ヘクタールの地域であつて、こゝには、アペニン山系から必要な飲料水及び使用水が引かれなければならないのである。これにより先づ八萬ヘクタールが新たに開拓されるのであるが、第一期分一萬五百ヘクタールは既に一九三九年九月迄に完成された。(六) 七萬三千ヘクタールの下部ヴォルトウルノ溪谷(ナポリの北の灌漑)。(七) クラント灣に沿ふシバリ及びメタポント海岸地方の改良。(八) 一九三九年に始められた大農地分配の進行線に沿ふシチリアの開発。シチリアにとつては、ムツソリーニが視察旅行に於て一九三七年八月二十日にパレルモに於て言明した如く、水が問題である。(九) サルデーニヤ北西海岸のヌラ平野の灌漑。これらの事業は十五億リラの見積りで、そのうち十億リラは一九四〇年度の計畫に計上せられた。一九四〇年二月の宰相訓令によれば、これ先づ、確實なる増収を約束する灌漑事業が完成されることである。

一九三八年に可決された國家資金の分與は、經濟的のみならず人口政策及び社會政策的にも最大の可能條件を有するやうな地方の土地改良を助成すべきファシズム農業政策の方向を是證したものである。その割當は、北部が總決定額の三八%、中部伊太利が一九%、南部及び島嶼が四三%であつた。

北部に於ては土地完全改良は主として技術的問題である。南部及び島嶼に於ては、土地完全改良の問題は、總人口を高め且それを國家的勞務活動に充分に参加させ得るやうに、植民及文化振興の問題と共に手を取つて進まなければならない。平地に於て土地改良は遠からざる内に遂行されるであらうとしても、山岳地方ではそれは幾代もかかる仕事である。人工的灌漑はここでは單に大なる聯關中の一部分にすぎない。結局は何と云つても、秩序立つた自然の配水のみが農業生産を確保することが出来るのである。嚴酷なる風土不順とそれに由るアペニン山系斜面の甚だしい侵蝕とは、これ實に古代以來の森林濫伐の犯した罪である。この方面に於て祖先の罪を償ふことも、ファシズム國家のなすべき所であつた。ファシズム前の伊太利國家は一八七〇年より一九二二年までに、全體として五萬ヘクタール(約五五〇萬ヘクタールの森林面積があるのに)を再造林したに過ぎなかつた。一九二二年より一九二六年までは一年に二千六百ヘクタールが再造林された。一九二七年に創立された森林義勇隊は一九三二年までに、年五千五百ヘクタール、一九三六年までに年一萬七百ヘクタールと云ふ風に、迅速にその實績を高めた。荒廢した三十五萬ヘクタールの森林は一九二七年より一九三六年までに整頓されたのであつたが、一九三七年には新たに二萬二千ヘクタールの面積に三百萬本の苗木が植えられた。斯くして、十五年間にファシズムは十萬ヘクタール以上を森林に奪回した。そして全體の計畫は、九十萬ヘクタール即ち現森林面積の六分の一を、再造林すべく豫定してゐる。

土壤確立及び森林育成の計畫は數多の障礙に遭遇した。即ち地質學的地勢に於てのみならず、農業(混合栽培、枯葉敷葉、野生柳)及び木炭生産のための優良の工業的利用との密なる絡み合による障礙がこれである。一部外來種の生長の速い樹木を主として選びながらも、ムツソリーニ自身は、新しい森林が首尾よく天候及び土壤の自然的濕潤に

對して効果を現はすに至るまで五十年の餘裕を見てゐるのである。

土地完全改良は、曾て一國家が所與の期間内に自己に課した最大の文化的事業である。ともかくも利用の出来る地面二千八百五十萬ヘクタールのうち、約千七百萬ヘクタールにこれが行はれてゐる。九百二萬七千ヘクタールは、國家自身その事業を遂行し、八百九十六萬ヘクタールは、國家が地主に補助金を與へてこれを行はしめてゐる。從來の政府は千八百七十年より一九二二年までに三千九百八十萬リラ(同じ通貨にして)を斯うした事業に振りかけたのであつたが、一九二二年より一九三八年までに、その額は四四億二二六〇萬リラであつた。

土地改良のための國家の總費用は一八七〇年より一九三八年末までに千七百七十萬リラ(金に換算して)に達したのであるが、そのうちフランス時代になつてからの分だけで千百萬リラであつた。山岳地方に對して一八七〇年から一九二二年までに土地整理及び改良のために與へられた額は一五億九千萬リラであつたが、一九二二年より一九三八年までのその額は六十五億八千萬リラに上つたのである。

一九三九年の計畫によれば、三百萬ヘクタールの土地が改良されることになつてゐた。それも現在では、既に開墾された土地の百七十萬ヘクタールに於ては、技術的に遂行さるべき仕事が残つてゐるだけあり、約百萬ヘクタールに於ては土地改良は現在既に遂行されて居り、外に新たに穀類耕作のためにのみ三十二萬五千ヘクタールが得られてゐる。

土地完全改良は、健全なる農業活動の基礎前提を造るものである。年々四十萬人づつ増加する人口を養ふためにも必要な生産増加を達成するために、この土地改良と共に、一方には合理的管理が行はれてゐるのである。

全伊太利から選出された、種々異つた状態にある三十九の土地改良區域の増収が公表されてゐるが、それは一部分、驚くべき最高能率を示してゐる。然し土塊相手の仕事は、一朝一夕に片附くものではない。相關聯せるあらゆる措置が最後の成果を擧げるまでには相當の期間がかかるのである。

重要食糧品の生産状況は目下凡そ次の通りである。

## 二 小 麥

すべての穀種のうち、小麥は他の何よりも遙かに優つて最も重要なものであつて、作物に當てられた七百二十五萬七千ヘクタールの面積のうち小麥は七〇パーセントを占めてゐる。小麥戰爭開始(一九二五)以前に於ては、四百六十萬七千ヘクタールの面積で五千三萬キントルの收穫を擧げ、年に二千百萬キントルを輸入しなければならなかつたのである。

	收穫高(一ヘクタール當り)	單位キントル
上部伊太利	一九一九—一九二五	一九三三—一九三八
中部伊太利	一五・七	二二・二
下部伊太利	一〇・四	一三・六
島 嶼	八・二	一一・二
	八・五	一〇・六

第二期に於ては、作付反別は一九一九年より一九二五年までに比し九・七パーセント増加し、總生産高は五四・八パーセント、面積單位當りの生産高は三四・八パーセント増加した。平均收穫は平地に於て一ヘクタール當り一四・八キントルである。

伊太利の基礎産業とその戰時對策

タル、丘陵地に於て九・九キントル、山地に於て八・四キントルに達した。獨逸の状態と比較されるのは精々ポー河左方の平野だけである。ここでは、豊富に人工施肥を行つて、一ヘクタール三十乃至三十五キントルの收穫が擧げられ、小麦競争に於ては一ヘクタール當り八二・二四キントルと云ふ最高實績が擧げられたこともあつた（一九三三年）。概して、地形、乾燥及び混合栽培が小麦には良くなく、又農耕機械の使用に極めて不便である。

一九三七年より一九三九年に至る良好な年に於ては、收穫は約八百萬キントルに上り且それを以て需要を充たしたのであつたが、一九四〇年の收穫は七千三百萬キントルにすぎなかつた。そこで、以前のやうにパン粉に玉蜀黍粉を混ぜることが考へられ、一九四〇年七月一日に八〇パーセントの碾礫及び規格粉及び規格パンの調製が發令された。目標は依然として、收穫を年平均九千萬キントルにすることである。このことは、耕作地を五百五十萬ヘクタールに増加することにより、上等種の培育により、地耕、施肥、播種方法の改良により、特に又播種機により、達成されるはずである。全伊太利に於ける二萬ヘクタールの實驗地では、最適種の育成の努力が行はれてゐる。

小麦は、「アンマツシ」政策、即ち強制供出並びに貯藏政策の適用（一九三六年六月十五日附法律）を受けた最初の農産物であつた。貯藏はシロ（農産物貯藏庫）——これは一九三九年には二千萬キントルの量を充分貯藏し得るものであつた——の造營により容易ならしめられた。市場規則は植民地にも延長された。リビアは一九三七年に十五萬キントル、一九三八年に三十五萬二千キントル、一九三九年に二十五萬キントルの小麦を生産した。伊領東アフリカに於ては、アツチスアベバ附近の「戦士のための國家事業」(Opera nazionale per i combattenti)の二つの模範植民村に於て既に一九三七年の十二月に始めて小麦が生産された。

### 三五 蜀黍

玉蜀黍は耕作面積の二〇パーセントを以て、穀類中の第二位にある。この收穫は合理的輪作と品種選擇とにより一ヘクタール當り十乃至十二キントルから十五乃至二十キントルに増加した。昔からの玉蜀黍産地たるヴェネト地方は一ヘクタール當り二十五キントルに收穫を増加し、ピアヴェ河下流々域及びタリアメント河流域の新土地改良地域は既に一ヘクタール當り二十乃至二十一キントルの收穫を擧げた。それにも拘はらず一九三八年には未だ六百萬キントルの不足額が残存し（メデイチ教授）、これは輸入によつて補はれた。その間、灌漑にはなほ多大の期待が示されてゐる。かくてプーリヤ及びカラブリアの會での乾燥地に於ける新耕作は一ヘクタール當り二十キントルの收穫を擧げたのである。

### 四米

伊太利の米産額は歐洲に於て最も重要なものである。その耕作面積は十五萬六千ヘクタール（一九三九年）に増加し、その産額は七百七十萬キントル（一九三八年）に増加した。それにより輸出を二百五十萬キントルに、國內消費を一八當り八キログラムに増加しても差仕へないやうになつた。灌漑によつて、一部は一ヘクタール當り五十三キントルから最高百及び百二十キントルと云ふ非常に高い收穫に到達したところもある。次の課題として残るのは、質の向上の問題である。ヴェルチェルリの米作試験所は、耕作面積の三分の一以上に米作を行ふことを規定した。このことは、飼料收穫及び早期穀類收穫の後で同一一年内に第二の收穫を許し且それと共に、四十萬以上の農業勞務者を働かせると云ふ社會的利益をも合せ有するものである。米は玉蜀黍と同様、貯藏義務を負はされてゐる。

### 五馬鈴薯

一四

穀類に比較すれば、馬鈴薯は脇役を勤めてゐるに過ぎないのであつて、その收穫は獨逸の半分である。その産額は、輸入を遙かに超克して、一九三七—三八年には三千二百萬キントルに上つたが、そのうち二千百萬キントルは人間の食糧（一年一人當り五十六キログラム）に供せられるものである。作地面積は一九三八年に全部で四十二萬六千ヘクタールに達した。而してそれは一九四〇年には冬期馬鈴薯のために更に増加されるはずである。ヘクタール當りの收穫は、國の北から南に行くに従つて急速に減少し、平均六九二キントル（一九三八年）となつてゐる。

### 六甜菜

砂糖工業家協同組合が、甜菜價格を小麦價格に釣合ふやうに確定することを決議したことは、その栽培を大いに促進した。一九三九年に宰相は、農業競争、品種改良、栽培面積擴張を命令した。南部地域（ヴォルトウルノ平野）をも甜菜栽培に加へようとする努力がなされてゐる。砂糖生産は良好な狀況を示してゐる。

#### 砂糖生産

栽培面積(ヘクタール)	一九三七年	一九三八年	一九三九年	一九四〇年
甜菜收穫高(百萬噸)	一三六、六五一	一四二、〇〇〇	一四九、〇〇〇	一七三、〇〇〇
砂糖生産(百萬キントル)	三・五二	三・二七	四・三〇	五・五五
消費及ストック(百萬キントル)	三・一〇	三・六二	三・五六	—
	三・二〇	三・八〇	三・七八	—

動力燃料としてのアルコール生産計畫は、甜菜の生産過剩から難なく遂行されることが出来た。一九四〇年の甜菜

收穫は五百五十五萬噸で豫定額を超過し、一ヘクタール當りの收穫三百キントルで、従來に於ける最良の年一九二四—二五年を遙かに凌駕した。一九四〇年二月始めに砂糖切符が實施されたが、收穫良好のため、現在、一月一人當りの砂糖配給額を五〇〇グラムより六百グラムに増加することが許された。

### 七蔬菜

蔬菜に於て伊太利は、國の一つの地帯に於て四季を通じて殆ど専ら自由地栽培だけで野菜を生産し得る、と云つた幸福な地理的狀態にある。野菜は凡そ百五十萬キントルの輸出が可能であつて、その輸出は一九二九—三三年から一九三四—三八年までに二九パーセントだけ増加した。國內消費もまた増加し且そのことは國民の健康にも効果を及ぼした。園藝は協同組合の方針に沿つて大いに増加し、新開拓地の施設に於て大いに促進された。營業的園藝は労働量の、つまり一ヘクタール當りに働く労働力の最高上昇を示してゐる。これを比較對照して見るならば、南部及び島嶼に於て約三百萬ヘクタールの牧草地に對して二千四百萬の労働日數、つまり、一年一ヘクタール當り八日の労働日數がかゝつたのに、營業的園藝に於ては八萬ヘクタールに四千萬日、即ち一ヘクタール當り五百日の労働日數がかゝつたのである。この方面に於て労働量はファシズム政權以來倍増した。

### 八果實

果實は、伊太利の食糧取引に於ける第二の大きな輸出品目である。これに於ても國內消費は著しく増加した。例へば、新鮮葡萄の國內消費が、活潑な宣傳（葡萄デー）によつて、二百五十萬キントルから五百萬キントルに上昇したなどその一例である。熱心な手入れと計畫的な培育とにより一九三九—四〇年冬のオレンジ樹、レモン樹、巴旦杏

伊太利の基礎産業とその戦時對策

一五



の甚大なる凍害はやがて補はれるであらう。植民地からの輸入としては、一九三九年に伊領ソマリランドからバナナ三十萬キントルが、栽培十年の後行はれてゐる。

葡萄酒は、獨逸に於けるビールと同様、國民の愛用品で、葡萄酒栽培は伊太利の最も重要な農作の一つである。葡萄酒は四百萬ヘクタールを占め、そのうち四分の三は混合栽培である。最近十年間の葡萄酒の平均産額は六千二百萬キントルであつたが、一九三八年は五千九百七十萬キントルで、そのうち五千六百三十萬キントルが葡萄酒に搾られたのである。生産価格は農業總産額の十二分の一に達し、總輸出額は三千四百七十萬リラの價格に達した。つまり輸出は一九二九—三三年より一九三四—三八年迄に二五パーセント増加したわけである。

副産物中には、過剰葡萄より動力燃料として年に四千萬—五千萬リットルのアルコールがあり、又十萬キントルの葡萄核油がある。リビアでは一九三九年に八百萬リットルの葡萄酒が生産された。

葡萄栽培は、その經濟的意義と並んで、それが山地及丘陵地に於ける田舎の廣い農民層及び労働者層をして間斷なく働かせると云ふ、社會的意義を有してゐる。葡萄以上に四季を通じて人間を大地に繋りと結びつける植物はないのである。

重要なものではないが従來輸入されてゐたところの嗜好品に茶がある。アヴィア大學の研究所では、十年間研究の結果、茶の木を上部伊太利の風土に適合させ且日本の茶に匹敵するやうな茶を得ることに成功した。

### 九 畜 産

宰相が一九三九年のアウトルキー最高委任會の會議に於てアウトルキー計畫將來の實行プログラムに就いて總説し

た時に、第一に食糧問題について述べた。

「食糧需要の方面に於て二つの不十分な點がある。即ちそれは肉と脂肪である。既に計畫が立てられし五箇年内に竣工されることになつてゐる諸用水溝と、全領土を含めた伊太利に於けるオリヴ栽培とは、二つの問題を解決するであらう」と。

伊太利の肉消費は一九三七年には年七百五十萬キントル即ち一人當りに一八・一キログラム（獨逸五三キログラム）と報告されて居り、うち約百萬キントルは外國から輸入したものである。家畜数を人口増加に應じて増加させること（それには牛に於ては年月が必要である）は、一九二九年六月十九日の家畜生産に關する法律が目標を明示し且問題の核心即ち飼料問題を重大なるものとしたに拘はらず、是迄まだ達せられて居ない。いつも飼料不足のために時期尚早の屠殺を餘儀なくされ、又「殺物戦争」のために少し以前まで、牧場を使用して小麦を栽培すると云ふ結果になつてゐたのである。

畜産は高度に發達した北部から原始的養牧を營んでゐる南部に行くに従つて、收容数が少くなつてゐる。即ちロンバルディア、ヴェネト、ピエモンテでは一平方キロメートルに五〇頭乃至七〇頭の牛を養ふことが出来るのに、アブリツツイ及び南伊太利では普通僅かに十頭乃至十八頭に過ぎないのである。そのため近年は、飼料問題を解決することにあらゆる努力が向けられてゐる。常置牧場は灌水及び施肥により改良されることとなつて居り、一方には又臨時牧場にする爲の土地も得られて、このため一部には收穫を増すやうな一層好適な小麦地域にその代用地の發見された場合、殺物耕地を廢止して臨時牧場にした向きもある。

伊太利畜数の發展 (單位千頭)

	一九三〇年	一九三六年	一九三七年	一九三八年
馬・驢馬	二二	二〇	二〇	二〇
馬	一三	四三	二〇	一九
牛	七、〇九〇	七、二三五	七、二八六	七、六六七
豚	三、三一八	三、二〇六	二、八一四	二、九四〇
羊	一〇、二六九	八、八六二	九、〇九五	九、四六七
山羊	一、八九二	一、七九五	一、八〇四	一、八二八

飼料の貯蔵は、シロ建設のための國家補助金交付により、容易ならしめられた。斯くて一九三八年には箇數一萬三百三十三箇、收容々積百二十萬立方メートルのシロが存在した。即ち六萬の申込が政府に提出されたのであつたが、それが次から次に片附けられたのである。家畜の質の向上を圖るための別の措置は、家畜系譜籍の設置、種畜の規則的検査診断、家畜及び畜舎の衛生の改善、南部伊太利に於ける畜群季節的移動経路の法律的规定等これである。

畜産の大いなる進歩が可能なることは、土地改良をうける諸地方の正確な調査がこれを示してゐる。牧地面積一ヘクタール當りの生體重量は、改良地に於ては、四倍、アデイジュ中流域、エミリア及びサルデーニヤ地方では三倍に増加した。單位面積當りの販賣価格は、北部に於ては三倍から七倍、サルデーニヤに於ては更に六倍から十倍にまで上昇した。合理的輪作と、むらさきうまごやしやクロバの如き、純粹な飼料用植物の選擇は、北部の土地改良地域に於て、一ヘクタール當り平均五十キントルの通常乾秣を生産した。又灌水によつて南部に於ても、ヴォルトラルノ右岸、カラブリアのネット谷、プーリヤの臺地に於て五十キントル又はそれ以上の生産が得られた。中南部伊太利の土

地に普通に生へるスルラの栽培は暑いカタニアに於て成功を収めた。

羊の現在數は、恵まれた自然的條件下に在つて、九百五十萬頭を數へ、これが一九三九年には七千頭の羊毛、即ち國內割當額の四分の一を供給した。

戰時措置としては、肉の販賣を一週三日に制限したこと及び、燕麥耕作面積、收穫、自家消費の申告規定がある。一九四〇年八月十日の市場規定は、屠肉の供給及買上を協調組合に委任し、饑饉の屠殺を禁じて、軍隊の肉需要を確保した。

鳥類に於ても、生産は消費と歩調が揃はなかつた。以前卵を輸出してゐた伊太利は、鳥類と卵を輸入しなければならぬのである。模範農場と相談所とは、その國內飼育の増加をはかるはずであり、又その冷蔵庫貯蔵は出盛期に於ける市場の過剰供給を除くはずである。

ミルクの生産は畜産に順應するものである。一九三八年にその生産は六千八百七十五萬ヘクトリットルと報告されて居り、そのうち二二・二パーセントは仔牛飼育に、四三・八パーセントは直接消費に、三四パーセントは工業の使用(チーズ、カゼイン製ラニタル)に供された。ミルクの生産に於ても伊太利の地方色が反映してゐる。總産額のうち五千五百二十ヘクトリットルは上部伊太利に當り、こゝではその量のうち二千二百六十ヘクトリットルは飲用ミルクとして、二千二百五十萬ヘクトリットルは工業用として消費されてゐる、中部地方及び南部地方は、消費の増加には關係がなく、その生産總額はたゞ一千三百五十萬ヘクトリットルで、そのうち六百九十萬ヘクトリットルは飲料ミルクとして、八十萬ヘクトリットルは工業用に利用されてゐる。

チーズ製造は、産額二百四十五萬キントル、一人當り年消費六百九十萬キログラムで、その残りは輸出に供せられてゐる。

最も切痛に感じられるのは脂肪の缺乏である。バター生産は五十五萬キントルで、それ自體僅少な需要を賄ふにも不充分であつた。不足量は主にオランダから輸入されてゐたのである。

#### 十 採油植物

伊太利の如き南國に於てはオリーブ油が、若しその生産さへ充分であるならば、大昔からの傳統の通りに、容易に動物脂肪に代り得るであらう。然るに四十年來生産は二百八十萬乃至三百萬キントルの消費に對し遅れてゐる。五十萬乃至七十萬キントルの不足額は今迄動物脂肪及び植物原料の輸入によつて補はれたのである。

それにしてもオリーブ栽培は、百五十億磅の土地資本の價格を以て、穀類、飼料植物、葡萄に次いで第四位に位し、生産力ある一億五千四百萬本の樹を以て、二百十七萬五千ヘクタールの面積を占めてゐる。そのうち八十二萬四千五百四十ヘクタール即ち三七パーセントは單純栽培で、残りのすべては混合栽培である。栽培面積の七五パーセントは五ヘクタール迄の小所有地で、大部分は家庭經營である。集約栽培の借地契約は不利なことが多いのである。

全くの地中海植物たるこの木の收穫は半島の北から南に行くに従つて上つてゐる。總收穫に對する割合は、南部伊太利が五七パーセント、島嶼伊太利が一九パーセント、中部伊太利が一七パーセント、上部伊太利が七パーセントである。一本當りの油の平均收穫は、一・三キログラムであるが、六十八州のうち五十は平均以下である。トランント州は、五乃至四キログラムの最高收穫を示して居り、二十二州は一乃至〇・五キログラムの平均を示し、九州は〇・五キ

ログラム以下の平均を示してゐるのであるが、一方専門家は平均を二キログラムに引き上げることが出来ると考へてゐる。

以前の通りに、國內消費を充たし且そのうへ油の純輸出の準備をするために、協同組合は、オリーブ栽培に對して次のことを決定した。(一) 新たに採油植物を植ゑるときは、上等でないながらも油樹に適したる土地に、それを行ふこと。(二) 野生の油樹を接木改良すること。その數は一十萬本と算せられ、そのうちサルデーニヤのみで七百萬本である。(三) 有效な剪定、施肥、害虫駆除により、單位當り收穫を高めること。(四) 搾油機を改良すること。

この決議は一九三八年八月二十五日附法律に採擇された。其後規範栽培が企てられ、十二箇所の苗圃が設立されて年二十萬本の苗木増加の實が擧げられ、又オリーブ栽培者のために教課が行はれた。十六の搾油所(Elapodi)が設立されたが、採油植物栽培者達は既に一九三四年以來強制組合的諸組織に統括されてゐたのである。油樹の生長は長年月を要する。だから、野生樹の改良及び老廢樹の更新が本格的收穫をあげる迄には、四年乃至五年かゝるものと見られるのである。一九四四年には三百五十萬キントルの收穫が得られることとなつてゐる。

従來の成果は明白でない。搾油は一九三八年に、果實一ヘクタール當り一六・一キログラムより一七・五キログラムに上昇し、一九三九—四〇年經濟年度には三百萬キントルの總收穫が擧げられた。トスカナ及びウンブリアに於ける模範經營はその收穫を二倍及び三倍にした。採油植物栽培者聯盟は七つの搾油所を設置したが、これは古い個人の搾油機よりも遙かに高い油收穫を擧げることが出来た。更にそのほかに搾油所、油販賣所、油貯藏所を建設するため

に組合から三千万リラが投ぜられた。市場規則及び貯蔵義務による定価格はオリーブ油栽培者にその労働に対する賃金を確保してゐる。

リビアは一九三八年に三萬九百二十四キントルの油を産した。エリトリア及び伊領東アフリカに於ては試験栽培が行はれた。アッデイス・アベバ及びハルラルに於ける二箇所の搾油所は既に業務を行つてゐる。油菜類、日向葵、罌粟の如き其他の採油植物の栽培は擴張された。油菜の栽培面積は一九四〇年に五萬ヘクタールより十萬ヘクタールにされたとのことである。

蓖麻——その油は空軍に特に重要である——の栽培面積は従來四千五百ヘクタールであつたが、出來得る限り早く二倍にされるはずである。

大豆栽培に關しては最適の地域が物色されつゝある。バルカンで既に成功を見てゐるので、伊太利に於ても必ず成功を見るであらう。

オリーブ樹栽培はすべての栽培中最も後れてゝ、その合理的栽培にはなほ最大の餘地を示して居るが、何時脂肪不足がこの方面から補充されるかは、たゞ時の問題である。

### 十一 國民榮養

タリアカルネの調査によれば、一九三七—三八報告年度には、國民一人が三千五百五十萬人——一九三六年の國勢調査の統計人數は四千二百四十萬人——一日に、食糧品の輸入を加算し且輸出を差引いて、國內生産から三千二百六十カロリーの量を取り得る状態であつた。その成分の割合は、含水炭素六七・七パーセント、脂肪一八・四パーセン

ト、蛋白質二三・九パーセントであつて、一方科學の最適と認めてゐるのは、含水炭素六三・三パーセント、脂肪二七・六パーセント、蛋白質の一〇・パーセントの割合である。

斯うしてそれは正常と認められた需要三千カロリーを超過したわけであるが、榮養分に於ける動物蛋白質に對する輸入の割合は約八・五パーセント、脂肪に對する輸入の割合は約一五・パーセントである。

全體として得られ得るカロリー量は次の食糧群に分たれてゐる。穀類及莢豆類及馬鈴薯七二・二九パーセント、果實及野菜五・〇八パーセント、砂糖及飲料品九・六二パーセント、畜肉及魚肉及卵五・一一パーセント、ミルク及チーズ四・五パーセント、脂肪及油三・四四パーセント。

一九三七—三八年度の獸肉、ミルク及脂肪の國內生産高（二年一人當り重量）

畜 肉		卵	
そのうち牛肉	一四・五五	ミ ル ク	八・九二
豚肉	六・四一	チ ー ズ	四二・二六
鳥類及獵獸	五・〇〇	パ タ タ	六・九〇
家 兎	一・七一	ベーコン及ラード	一・五五
鮮 魚	一・二五	オリーブ油	三・八五
魚 鱈	三・五一	種 油	五・二〇
	〇・四二		〇・五二

畜肉及び動物脂肪の輸入を抑減するために、牛及豚の飼育が大いに増されなければならないであらう。

戰時のためには、新たに作られた委員會が脂肪の管理を行つてゐる。油、バター、ベーコン、ラードは一九四〇年十月一日以後、食糧品切符(Carta annonaria)によつて、一人當り一月總量八百キログラムづつ、制限配給されてゐる。

伊太利の基礎産業とその戰時對策

農業技術は、新地及灌漑排水の準備に次いで、食糧自由を獲得する任を負はされた、こゝで第一番に問題となるのは、人工施肥であつて、この點では伊太利は他の多くの國々に未だ遅れてゐるのである。一九二二年には僅か二萬噸の窒素肥料が消費せられたが、このうち一萬二千噸は硝石として輸入されたものである。一九二五年以來は、十の農業化學研究所が計画的に伊太利の土壤を調査し且大規模に施肥試験を行つてゐる。その結果、最近開墾された海岸に近い土地は礦物性養分に乏しいことが明かになつた。その後人造肥料の消費は飛躍的に上昇した。一九三七年には十三萬噸の窒素肥料が消費され、そのうち國內工業がその最大部分即ち十一萬六千噸を供給した。ノヴァーラ附近の工場は優秀な尿素を製造してゐる。生産の九〇パーセントは、二種の伊太利式方法によつて、廉價な電力を使つて、製造されてゐる。パビーニョ(ウンブリア)の工場は既に一九二九年にその日産額を四百噸に高め、電力消費を減少し、出來上り製品の窒素含有量を一九パーセントより二四パーセントに高めることが出來た。電力利用が迅速な發展をなしつゝある際、この間既に伊太利が人造窒素肥料の需要を充たし得てゐることは、疑ひなきところである。

過磷酸製造原料は従來北アフリカから輸入されなければならなかつた。溶解に必要な硫酸の製造のための黄鐵礦及硫黃石は有り餘つてゐる。一九三〇年以來クロトーネ(カラブリア)の一工場は磷酸デインマンニウムを製造して居り、第二の工場も計畫された。伊太利の地味にとつては、磷肥料と窒素肥料との割合が二對一なることが適當であると見られてゐる。

加里鹽の使用は是迄僅少で、年に五十萬キントルであつた。然しそれは土地改良事業のために確實に上昇した。こ

の二、三年來、海水から硫酸カリウムマグネシアが得られてゐる。數年來努力されて來たローマとナポリ間の白榴石大礦床の採掘は、カリ生産に對して無限の可能性を開いてゐる。これはチツイク・カステルラーナ及びアイマニアの工場並びにオルヴィエートの新工場に於て良き實驗的結果を見るに至つた(一八三八年には千四百七十一キントル)。

科學と實際的經驗とは相提携して進み、そして伊太利の土壤に裨益する施肥の方法を獲得するであらう。こゝでも又、伊太利農業の多くの問題の場合と同じく、水が問題解決の鍵である。土壤の湿度が充分な場合にのみ人工施肥は効果を擧げ得るのである。

耕作の改良と收穫の助成とは機械化なしには考へられない。「穀物戦争」は農業機械の大いなる需要を呼び起し、それは先づ輸入によつて充たされた。一九二三年の農業機械輸入高は五萬六千キントルあまりであつたものが、一九二六年には二十一萬五千キントルとなつた。伊太利工業自身で、必要とされた機械を製造するに従つて、輸入は再び五萬六千キントル(一九三二年)に減少し、以後は略同様のまゝである。

トラクターの數は過去二十年間に實際の零より三萬三千臺に上つた。土地改良地域は、機械を耕地に採用することと對して大いにあづかつて力があつた。これらの地域に於ては、用ひられる道具及び機械の價格はヘクタール當り二百リラから平均五百リラに上つた。一九三八年には播種機十萬臺あまり、(大部分國內製品)、草刈機約十萬臺、打禾機二萬六千臺が使用された。一九四〇年四月四日の法律は打禾機の買入に二五パーセントの補助金を與へてそれを容易ならしめた。

大耕地用機械の使用は、國の山地的性格により、混合耕作により、畢竟耕地反別があまりに狭いことにより、制限

されてゐる。多くの豊穰な地域——リグリア、カンパニヤ、レツジョ(カラブリア)——に於ては土地は庭園のやうに、階段状にされて、極度に利用されてゐる。

### 十三 農業政策

フランスの農業政策が間接にどれほどまでに生産を促がしてゐるかと言ふことは、未だ全く見極めることが出来ない。耕地反別のおまりに狭いことが合理的管理の大きな邪魔になつてゐる。二十ヘクタール以上の廣さを持つたものは、全體の四パーセントにすぎないのである。國家は耕地の合併整理に努力してゐる。土地分割によつて田舎の地所は支離滅裂に寸断されてゐたのである。一九四〇年四月四日の法律により小所有土地は分割されないことに定められた。土地改良地域に於ける新農地は二十五乃至三十ヘクタールを併せられ、且後で、それが二つの家族の生計を保證する場合に限つて、特別の許可を以て分割されても良いことになつてゐる。

市場規則、貯藏、國家監督下の販賣組織の政策は、玉蜀黍、米、糠、油、脂肪にまで及ぼされた。この政策は、投機或は季節的動搖によつて惹き起されることのある物價變動から、生産者並びに一般大衆を保護するものである。一九三九—四〇年經濟年度に於ては價格にして九十五億五千二百萬リラの生産額が強制貯藏を課せられた。

フランスの移住政策の物質的成果も亦同じく殆ど評定されることが出来ない。これは言葉の最も包括的な意味に於ける文化政策である。國家が舊土壤乃至新土壤に個々の農場及びまとまつた市場町を設置すると、一方に、道路や運河を建設して、周邊の經濟生活への連絡が行はれ得るやうにしてゐるのである。合計の長さ六百八キロメートルの主本水管が水道の故郷たる伊太利に於て飲料水を供給してゐる。マテリヤはいつか單なる惡夢に過ぎなくなること

あらう。家屋新建築(一九三九年までに住宅三萬四千四百二十五、納屋四萬三千九百六十二)はかに二十五萬頭の家畜のための畜舎、學校、衛生施設及び社會施設は田園の生活を再び魅力的ならしめつゝあるのである。前線闘士事業の陣中から、ボンティニア耕地に於てその技能證明を示した練達先鞭者の本部が國家に出來上つた。かのシチリヤに於ける五十萬ヘクタールの大土地を五年間に開發すると云ふ最大の植民事業を、宰相の委任によつて指導してゐるマツツオツキ・アレマンニも、ONC(前線闘士事業)指導者團から出てゐるものである。

フランスの農業政策は、純益に於ける勤勞所得の割合を益々大ならしめ且農業労働者と土地所有者との關係を益々健全ならしめることに成功した。是迄無産で且或季節になると大抵失業して町の端れに大勢固まるのを常としてゐたところの次第に數を増して行く一部の農業労働者階級の生活様式は、裕かになり且再び田園と深く結びつけられて行つて居り、次第に多くの労働者が移住民となり、そして終には小さいながらも生計の立つ農場の所有者になりつゝある。これによつて能力ある生産者と消化力ある消費者との新しい層が成長しつゝあることは、明かである。

土壤及び技術の改革はすべて、伊太利農民の改革がなければどこまでも効果はないであらう。フランスは其の當初から農民に呼びかけた。宰相はローマに於ける農民への力強い訓示の一つに於て、自分を心底から農民と思つてゐると、誇りを以て告白した。穀物戰爭開始の二年後に彼は同じ場所で農民同胞に次の如く告知した。

「人々が、伊太利の土地に於て次の要素、即ち太陽、水、勤勞、科學を結合させることが出來るとき、この古い伊太利の土地は今日及び明日の國民にパンを與へることが出來るのである」と。

伊太利の農民は宰相の叫びを了解した。アウタルキー計畫告知後の伊太利農民の業績を見るならば、農民はこの計

畫の第二の半分をも遂行するであらうと云ふことは、保證出来るであらう。

## 第二章 鑛業

### 一金 屬

伊太利のアウタルキー政策に於ける最も困難な問題の一つをなしてゐるのは、伊太利工業の國內鑛産原料供給である、即ち伊太利で、充分の供給をなされてゐるのは少數の鑛石しかないのである。そこでファシズム政府は近年あらゆる努力を以て、伊太利の土地を綿密に探査し且存在する鑛産地を開拓し且開發することに努めたのであつた。

一九三五年に Azienda Carboni Italiani (A. C. I.) が設立され、それに次いで、一九三六年には Azienda Minerale Metallurgica Italiana (A. M. I. I.) が設立された。この兩者に於て注意すべきことは、これらが大きな半官的主腦會社であると云ふことであつて、これら主腦會社によつて國家は伊太利鑛業に對して權能を有つてゐるのである。近年に於ける伊太利鑛業統計の發展は、これら兩會社の活動の成果を示してゐるわけであるが、その鑛産額は次の通りになつてゐる。

鑛	一九二九年	一九三六年	一九三七年	一九三八年
鐵	七五、一七一	八三八、八三三	九九七、八〇五	九九〇、〇四三
マンガン 鐵	六、八三八	一九、二三二	一八、四六五	一五、六七〇
マンガン 鑛	九、九一七	二四、一三二	三二、九三二	四八、二九二
銅	一一、七二二	六七五	三、八二〇	二二、七〇〇

單位 噸

鑛	一九二九年	一九三六年	一九三七年	一九三八年
亞鉛鑛及亞鉛鐵鑛	二三四、六三七	一五七、一五二	一八一、九六八	二〇〇、八四八
鉛鑛及鉛銀鑛	五三、四九六	五〇、二一〇	五八、六九八	六七、四九三
錫	—	—	—	—
ニッケル鑛及コバルト鑛	—	—	—	—
ボーキサイト	一九二、七七四	二六二、三四六	三八六、四九五	三六〇、八三七
マグネサイト	—	—	三、一五五	六、一五七
白 雲 石	—	—	六〇、三二一	一〇二、四四〇
水 銀 鑛	二二九、六三一	—	七九、九〇八	一九五、五二三
モリブデン 鑛	—	—	一四一、三一四	—
アンチモン 鑛	—	—	八六一	—
砒 素 鑛 物	—	—	二、八五六	—
砒 素 鑛 物	—	—	三、四五二	—
砒 素 鑛 物	—	—	一五〇	—
砒 素 鑛 物	—	—	一六、〇八〇	—

約二五〇萬リラの價格

1 鐵

伊太利の鐵鑛埋藏量は目下約一億噸と算定されてゐる。斯くて、最も重要な工業的原料の一つが、極めて限られた量に於いてしか所有されてゐないのである。主に五〇—六五パーセントの金屬含有量を有する磁鐵鑛を示してゐるコニーエの鑛床は、千二百萬噸の探掘可能鑛を含んでゐることであり、エルバ島の鑛床は、鐵五三、パーセントとマンガンの三、パーセントとの純分を有する探掘可能鑛八千萬噸の埋藏と算定され、サルデーニャのヌララ附近の鑛床は、鐵四四、パーセントとマンガンの及び燐若干パーセントを有する三百萬噸の鑛を含んでゐることである。このほかに近年なほ種々の小さな鑛床が発見されたり或は再度新ためて探掘されたが、これらは總てで約七—八百萬の探

伊太利の基礎産業とその戰時對策

掘可能鑛を含んでゐると言はれてゐる。

一九三九年に於ても、伊太利の鐵工業は、約四十パーセントの外國原料輸入を示した。そこで、伊太利の鐵鋼工業を統括してゐる持株會社 *Italcristal* は、アウタルキー計畫の枠内に於て、一方に伊太利工業を最高可能なる効率に持つて行き、他方に、工業を屑鐵輸入の依存から脱するために、生産方法を變更すると云ふ使命の前に立たされた。消費は出来るだけ節減されるはずである。そうしてアウタルキープログラムの完成の後には、相當多量の鋼生産を見るものと期待されてゐる。

近年、鐵、鋼、合金鐵の生産は次のやうな發展をなしてゐる。

	一九二九年	一九三六年	一九三七年	一九三八年
鐵	六七一、一六六	八六一、八四八	八〇一、一八一	八六四、五三六
鋼	一三〇、八五四	八〇、一七六	七六、四六六	七〇、〇六三
合金鐵				
鑄鋼	五二、六〇七	七〇、七〇三	七二、四二八	九一、〇七四
インゴット	二、〇六九、五三七	一、九五四、八〇八	二、〇二六、三〇一	二、二一六、三二九
フェロ・クロム	八八九	二、二五二	四、三七〇	二、九一〇
フェロ・マンガ	一九、一六二	一四、九七四	一九、七五四	二〇、一二〇
鏡鐵	一六、一二七	一六、八三八	一九、七七五	二一、七五〇
フェロシリコマンガ	三五七	二八八	六五八	四八七
フェロ・モリブデン		四八	二三	二五三

單位 噸

フェロシリシウム	一一、五九二	三、四〇六	一七、一七六	一一、二六〇
フェロシリコアルミ	三九	八、四三三	二、三三三	一九三
ニウム				
フェロシリコクロ		一、三七九	一、五七六	
ム				
フェロシリコマンガ		三、七四二	二、九〇四	二、一八八
ン				
フェロシリシウム鏡			三、九三三	二、四四一
鐵				
フェロチタン		三九	二六四	一四五
フェロウオルフラム		一二七	二七〇	一八四
フェロヴァナヂウム		二二	四六	六三
ドライヴァーハリス合金		一四一	一二七	一六〇
シリシウム・カルシウム	二、三三〇	七〇三	一、二三〇	一、四二五
シリコマンガ	五、九四九	八一八	四七八	七三二
其他の合金		七〇五	三〇七	

屑鐵輸入は、一九三七年の五十四萬五千二百噸、一九三六年の四十萬四百噸に對し、一九三八年には六十三萬二千八百噸に達した。それらは主として合衆國、フランス及びスウェーデンから來たものである。このほか一九三八年には、なほ七萬噸の鑄鐵（一九三七年には二萬二千噸、一九三六年には二萬七千噸）と、著しい量の半製品が輸入された。

### 2 マンガン

最も主要なマンガン鑛山はカルラーラ、リヴォルノ、シエナ、グロツセート、コゼンツァ、サツサリ及びベサロに在る。一九三六年以來、ピサ附近の埋藏も探掘されてゐる。更にチヴィタヴェツキア州のモンテタエコ附近に相當大

伊太利の基礎産業とその戦時對策



きな鑛床が発見された。此處の鑛のマンガン含有率は三四パーセントと報告されてゐる。カルロフォルテのマンガンの工場に於ては今、從來使ひ途のなかつたマンガン鑛の利用が行はれてゐる。此處の生産額は月に三百乃至四百噸に達することである。

金屬マンガンは、一九三七年の二十八噸、一九三六年の三十三噸に對し、一九三八年には五十三噸の生産を見た。マンガン鑛及びマンガン鐵鑛の輸入は近年動搖が非常に烈しく、一九三八年に五萬八千噸、一九三七年に七萬五千噸、一九三六年に二萬四千噸、一九三五年に十二萬二千二百噸と云ふ状態になつてゐる。

### 3 銅

銅鑛の産出はこの前の世界大戰直前の數年間には殆ど九十萬噸に達し、一九三五年には殆ど全く斷えた形であつたが、最近二年間は再び大いに躍進した。プレダツツオに近いベドヴィーノ、カリアリー州、トレント州、スキス國境のオツサラ及びアツヂヤンドーネ及び其他各所に於いて新たに発見された埋藏は既に採掘に着手されてゐる。それと並んで、種々の古い鑛山も、例へばオロモントの銅山の如く、再び修復せられた。このオロモント銅山からは年に一千萬噸の鑛が採掘される見込である。このほか更に例へばアゴルド(トスカナ)附近の銅山の如きものもある。其他北部伊太利及び中部伊太利の黃鐵鑛鑛山からも一部の銅が生産されてゐる。銅の生産は近年次の如き發展を示してゐる。

精鍊所より	一九二九年	一九三六年	一九三七年	一九三八年
	五三九	四六九	一、四六五	二、九六三

單位：噸

古 曆 より	一九二九年	一九三六年	一九三七年	一九三八年
	三、〇六四	一、四一〇	二、二〇八	一、七〇六

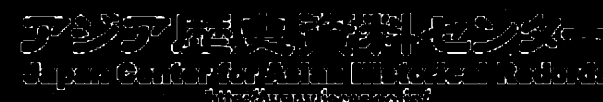
一九三九年にも銅の生産は更に増加し、その産額は一九三九年前半期に於て、前年同期の千七百七十噸に對して、千三百八十噸に上昇した。伊太利の銅需要の最大部分は然し輸入によつて、特にチリ、ポルトガル領アフリカ、及び合衆國からの輸入によつて充されてゐる。さうした輸入は近年幾分減退した。粗銅の輸入は一九三八年に七萬七千噸、一九三七年に七萬六千噸、一九三六年に八萬三千二百噸であつた。國の斯うした輸入への依存性をより少くするために、銅を種々の消費部門に於て代用品によつて、特にアルミニウムによつて代用するやう、努力されてゐる。因に銅の大消費者は硫酸銅工業であるが、その生産高は一九三八年には、前年の十三萬三百噸に對し、十二萬四千八百噸に達した。

### 4 亜鉛及び鉛

伊太利に於ける鉛及亜鉛の自給は銅に於けるよりも遙かに恵まれてゐる。最も重要なのはサルデーニヤの諸鑛山である。このほかに又南ケルンテン及び南ティロールにも埋藏がある。この二つの金屬は全然いつも結合して産出してゐる。それ故、伊太利は、國の鉛消費を充足するために、自家需要に必要とするよりも遙かに多くの亜鉛鑛を採掘すべく餘儀なくされてゐる。その結果亜鉛鑛の大きな部分が輸出されてゐるのである。

鉛生産は次のやうな發展を示してゐる。一九三八年に四萬三千二百八十七噸、一九三七年に三萬八千九百三十八噸、一九三六年に三萬六千三百七噸、一九二九年に二萬二千六百五十噸であつた。なほこれに加へて、最近三年間に

伊太利の基礎産業とその戰時對策



それ／＼四千三百八十一吨、六千六百二十七吨、四千八百四十九吨が古屑から生産されてゐる。一九三九年の前半期には、前年同期の三萬二千吨に對し、三萬七千吨の鉛鑛が採掘され、そして鉛の生産は一九三九年前半期に一萬九千七百吨、一九三八年同期に二萬五千五百吨であつた。主に獨逸(オストマルク)及びメキシコから來てゐるところの粗鉛の輸入は一九三八年に八千六百七十一吨、一九三七年に二萬八千八百七十七吨、一九三六年に八千三百八十四吨であつた。更になほ年々約千三百吨の鉛鑛が輸入された。

亞鉛の生産は一九三八年には稍々減退した。即ち一九三七年には三萬七千九百八十二吨、一九三六年二萬七千二百五十五吨、一九二九年に一萬五千八百四十四吨であつたのに對して、一九三八年には三萬三千六百三十四吨であつた。一九三九年前半期に於てもそれは前年同期の一萬八千六百吨に對し、一萬六千三百吨に減退したのであるが、一方同期に於ける亞鉛鑛の採掘は九萬吨に對し十一萬六千吨に上昇したのである。粗亞鉛の輸入は一九三八年に四百九十九吨、一九三七年に四十九吨でまだ全然論ずるに足りない。これに反して近年に於ける亞鉛鑛の輸出は益々増へる一方で、一九三六年に五萬二千七百吨、一九三七年に七萬四千九百吨、一九三八年に七萬七千五百吨に上昇した。

5 錫

約六千吨に上る錫需要の大部分は輸入によつて充たされなければならない状態にある。ローマ人及びエトルスク人に既に知られてゐたカンピリヤ・マリツティマ(ヘリヴォルノ)附近のモンテヴァレリオの錫鑛山が一九三七年に再び採掘し始められた。然しながら一九三八年の採掘額は再び甚だしく減退した。それ故金屬錫の生産は主として、ブリキ屑からの再生に限られてゐる。個々の生産は次の通りである。

鑛	より	一九二九年	一九三六年	一九三七年	一九三八年	單位：吨
古屑	より	一一〇	二九〇	七七	二七五	
		七〇六	五三九	四八六		

錫の輸入は一九三八年には、前年及び前々年のそれぞれ三千六百三十九吨及び三千七百十六吨に對し、四千四百七十二吨に達した。

6 ニッケル及びコバルト

伊太利のニッケル需要は現在のところ年三千吨と報告されてゐるが、その一部分は他の金屬によつて代用され得る見込がある。ニッケル鑛及びコバルト鑛の埋藏は殊に、サルデーニヤのゴンノスファアナディア附近及びピエモン州の上部ヴァルセシア谷のスコベルロ附近、スキ國境附近のストロナ谷、オツソラ及びマツジヤンドーネに在る。ヴァラロにはニッケルを磁硫鐵鑛より浮揚する工場が設けられた。一九三八年の鑛産額のうち、一四乃至一六パーセントのニッケルと二乃至六パーセントのコバルトを含むもの百三十吨はサルデーニヤから産出し、一方にピエモンに於ては、一萬四千吨のニッケル・銅鑛が採掘されたが、これはニッケル含有量八パーセントにすぎないのである。コバルトはこのほかに、隨當り五十キログラムのコバルトを含んでゐる閃亜鉛鑛から亞鉛電氣分解に於いて得られてゐる。ニッケルの輸入は一九三八年に、前年及び前々年のそれぞれ二千八百二十二吨及び二千八百三十三吨に對し、三千六百九十四吨に達した。

7 アルミニウム

伊太利の基礎産業とその戦時對策

アウタルキー計畫中に於て極めて重要な部門は、アルミニウム生産である。何故と云ふに、伊太利に於て大量に得られ得るこの金屬によつて他の金屬、特に鐵、銅、錫が代用され得るはずであるからである。ボーキサイト生産に於て伊太利はヨーロッパ第三位にあるが、これは主として、イストリヤのバルグツシ及びラヴァリーゴ地方の鑛山から採掘されてゐる。そのほか、半島のほぼ中央に當るアブリアのサン・ジョヴァンニ・ロトンド附近及びラミスのサンマルコ附近及びサン・ニカンドロ・ガルガニコにも鑛山があり、それらの埋藏量は約二百萬噸に上ることである。一九三九年の最後五箇月間のボーキサイト産額は十一萬九千噸(前年十五萬六千二百噸)に達した。

アルミニウム生産の方面に於ては特にモンテカティーニ・コンツェルン及びアルミニウム會社 *カレン* が活動してゐるが、そのうち後者はアルミニウム生産の必須なる増加をなるべく速かに遂行するために最近その資本を一億リラに倍増した。これまで如何に大きな發展をなしたかは、生産量が一九二九年の七千三百七十三噸から、一九三六年の一萬五千八百七十四噸、一九三七年の二萬二千九百四十七噸、一九三八年の二萬五千七百六十七噸に上昇したことが、これを如實に示してゐる。一九三九年の前半期に於て更にその生産は、前年同期の一萬四百噸に對し、一萬三千百噸に高まつた。アウタルキー計畫は一九四〇年には略々四萬噸の生産を豫定してゐる。

獨逸がその相當大きな部分を引受けてゐるボーキサイトの輸出は、伊太利自身のアルミニウム工業の大いなる發展のために、近年次第に減退した。即ち一九三七年に十三萬四百噸、一九三六年に十六萬五千九百噸であつたものが、一九三八年には七萬五千四百噸に達したに過ぎなかつた。

### 8 マグネシウム

マグネシウムに於ても伊太利は、少くとも國の自家需要を充足すべく努力してゐて、既に一九三五年にこの目的で *S. A. Magnesio Italiano Sulcis (SAMIS)* が設立されたが、これは、伊太利に於ける有名なマグネサイト埋藏が不充分なので、第一にギリシヤのマグネサイトを原料に豫定したものである。相當以前から然し、生産過程を國內原料の基礎の上に見出すべく努力されたのである。かくて最近、ポーツェンの工業地帯に新工場が開設されて、ここで白雲石から電氣化學的方法でマグネシウム金屬が得られてゐる。モンテカティーニ會社によつて更にリグリアの海岸で、海水からマグネシウムを取る工場が設立されたが、これは新しい方法によるものであると云ふことである。金屬マグネシウムの生産は一九三八年には、前年の四十三噸に對し、七十三噸に達した。マグネサイトの輸入は、一九三八年には前年の七千六百六十八噸に對し、四千二百九十四噸に減少した。

### 9 水 銀

水銀に於ける伊太利は、世界産額の先頭に立つて居る。實にスペインの國內戰爭の間に、伊太利の産額は非常に大きな發展を遂げたのであつた。イドリヤとトスカナの二つの鑛山は今や、*Monte Amiata* と *Azienda Mineraria Ipratite* といふ二つの合併によつて一手に合一されることとなつて居る。これは、スペインの水銀團に對して伊太利の位置を一層強化するためのものである。採掘鑛から、一九三七年の二千三百八噸、一九三六年の千四百七十三噸、一九二九年の千九百九十八噸に對し、一九三八年には二千三百一噸の水銀が生産された。一九三七年までは殆ど總産額が外國に輸出されてゐたのであるが、一九三八年の輸出は僅か千八百三十九噸(一九三七年二千三百八十三噸、一九三六年千四百二十六噸)であつた。一九三九年には水銀産額は三千噸位に増加しさうであつたが一九三九年前半期の生産數

伊太利の基礎産業とその戰時對策

は減退傾向を示してゐる。水銀鑛の産額は、一九三九年の前半期に於ては、前年同期の八萬五千二百匁に對し、七萬二千九百匁であつて、これらの鑛から一九三九年前半期には千七百七十匁、一九三八年同期には千二百三十匁の水銀が生産されたのである。

10 其他の金屬原料

アンチモン産額の近年に於ける發展は次の如くである。

アンチモン鑛	一九二九年	一九三六年	一九三七年	一九三八年
鑛より	二八二	三三六	二七七	
古府より	二〇	八六	三〇	
アンチモン・イ	一九	二一	三四	
タロツクス	二七七			
酸化アンチモン	三五	四八	五三	
硫化アンチモン	五六	八〇	一〇八	

アンチモン鑛は主としてサルデーニヤの鑛脈に産出してゐる。一九三八年には更にグロツセート州のアンチモン鑛山の採掘が許可された。

カドミウムは、亞鉛鑛精鍊の際の副産物として産出するものである。これの主な生産會社は、一九三八年以來ヴェネチヤ附近のポルト・マルゲーラの亞鉛精鍊所の傍にカドミウム生産所を經營してゐるモンカテイニ會社である。

一九三八年は、前年及び前々年のそれぞれ九十一匁及び五十五匁に對し、六十九匁のカドミウムが生産された。モリブデン鑛は、サンデーニヤのゴンノスファンディガとカラブリヤのビヴォンゴに産出する。然しながら近年そ

の産額は非常に減少した。

金はアルプスのドモツソラ地方の鑛脈から産し、銀は、種々の鑛の、例へば鉛鑛などの精鍊の際の副産物として産してゐる。

二 非金屬

以上の通り伊太利は金屬鑛の貧弱な國であり、また石炭埋藏の配分に於ても自然から繼子扱ひをうけてゐるのであるが、化學工業の原料として重要な一連の被金屬鑛の供給は遙かに良好である。化學工業の二つの最も重要な原料即ち硫酸乃至黄鐵鑛と鹽とを豊富に所有して、それで以て硫酸工業及びアルカリ工業の國內原料供給が確保されてゐると云ふ事實は、伊太利化學工業にとつて極めて有利なことである。バリウム鑛及び礬素鑛も、伊太利には充分に生産してゐる。然し粗磷酸鹽の供給は全然外國依存である。

一般に近年に於ける伊太利非金屬鑛の生産數は政府のアウトタルキー政策のため上昇を示してゐる。個々の生産匁數は次の通りである。

	一九二九年	一九三六年	一九三七年	一九三八年
硫 黄	二、一七二、二九〇	二、〇一三、一九一	二、一四三、七八九	二、三六三、八九六
黄 鐵 鑛	六六四、五四三	八六五、二五四	九一四、五二四	九三〇、三二二
アスベスト	二二〇、二二〇	三三三	六六三	六七〇
アスベスト岩	三四七、八六三	三四一、九六四	四〇四、六一〇	五〇二、五三一
岩 鹽	四九九、七九八	四九九、七九八	六〇三、七九八	六一三、八七〇
海 鹽	五六二、五八六	七六八、五二七	九五〇、七七七	八八三、四二〇

伊太利の基礎産業とその戦時對策

滑石及凍石	四〇、七七〇	四三、九二〇	四五、七〇九	五三、五〇七
重晶石	—	三六、六七一	四五、二〇二	四八、一六九
螢石	—	一一、四三七	一三、三八五	一一、一八六
石	七、四七〇	五、二〇〇	五、四一一	五、四八五
明礬	一〇五	三、九六六	三、五〇〇	二、七七八
礬	四、七九〇	六、二三七	六、二七三	六、一九六
硫酸アンモニウム	—	三五七	三四一	三九〇
壓縮無水炭酸	八七〇	一、七四〇	一、八八八	二、一五〇
礬	—	—	二〇〇	—
矽土	一、三〇五	三、七六〇	四、六六〇	五、〇九〇
色土	一、八五二	七、〇二三	八、九五五	七、六九〇

硫黄は、他の埋蔵資源に乏しい伊太利が殆ど無盡蔵に有してゐる原料の一つである。幾十年の間シチリヤの硫黄産出は伊太利をして自然的に世界獨占を可能ならしめてゐた。然しながら今日では合衆國が約八十パーセントを以て世界産額の第一位を占め、一方伊太利は世界消費の約一〇パーセントを供給してゐるに過ぎない。伊太利の粗硫黄生産の發展は次の通りである。

一九二九年 一九三六年 一九三七年 一九三八年 一九三九年前半  
 三三三、八三五 三二七、五六八 三四三、五二五 三八〇、三四五 一六九、〇〇〇  
 採掘量の硫黄含有平均量は約一七パーセントで、個々に於ける含有量は一〇パーセントから一七パーセントの間である。硫黄分にしてシチリヤは、その廣範圍な硫黄鑛床から總産額の殆ど七〇パーセントを供給してゐる。他の大産

出地は、北部アペニン斜面のフォルリ、アンコーナ、ペサロに在つて、これらの鑛床はそれほど廣くはないが、産出量は相當豊富である。最近、中部イタリアのシエナ州にも新硫黄鑛山が発見された。産額の大部分は粗硫黄として、カタニヤ、ポルト・エンペドクレ、リカータ、テルミニ・イメレーゼの四大倉庫か又は大陸事業の私營倉庫に入庫され、そこから輸出されるのである。硫黄加工事業として特に重きをなしてゐたのは、以前からマルセーユのフランス精鍊諸事業であつて、これらとは長期供給契約が結ばれてゐたのであつたが、佛伊貿易の減退と大なる獨逸の需要とは近年販路市場の轉移を招來した。個々に於ける伊太利硫黄輸出の發展は次の通りである。

總輸出額	一九三六年	一九三七年	一九三八年	一九三九年前半
そのうち粗硫黄	二〇六	三九六	二二一	一一一
そのうち精鍊硫黄	一八六	三六八	一九三	一〇九
そのうち佛蘭西向	二〇	二八	三八	一一
英國向	三八	一四一	四〇	三三
獨逸向	一五	四〇	二二	二九
その他	三六	四七	五九	二三

黄鐵鑛の産額に於てドロツセット(トスカナ)地方のガヴォララーノ鑛山は第一位で、その鑛床は四七パーセントの硫黄含有量を有してゐる。黄鐵鑛の輸出は一九三八年には、前年の二十萬二千五百噸、前々年の十六萬四千四百噸に對し、實に九萬三千三百噸に激減した。  
 一九三四年以來伊太利國家は、硫黄シンチカートの設定により、硫黄生産の發展に參與して來た。シチリヤの鑛山  
 伊太利の基礎産業とその戰時對策

も、他の半島の諸鑛山もこのシンチカートに強制的に合一されたのである。そして特に、その當時、個々の鑛山の採掘の新割當制が定められた。そして大抵の鑛山は損をしながらも、事業を続けたのであつたが、別に國家の價格保證が設けられ、これによつて、販賣の損失は國家が引受けたのである。一九三七年、多くの國に於ける軍需増加による國際物價の騰貴のために、狀況は好轉し、アメリカとの協定によつて價格の引上が可能となつた。一九三七—三八年の硫黃販賣局の業務報告に於てはその活動は非常に満足すべきものとして表はされてゐる。生産は、販賣の狀態に順應して、年平均三十四萬乃至三十五萬噸に保たれてゐる。國家の補助は最近五箇年間に、硫黃輸出價額約五億リラに對し、三千五百萬リラであつた。

#### 2 アスベスト

アスベストは角閃石アスベストとしてアルプスの各地に産し、特に、スイス國境ヴァルテルリンノ、サン・ヴィットレ・バランジエロ鑛山から多く産出してゐる。然し世界の他の數多の個所以上に産額をあげることは困難で、伊太利のアスベスト産額は一九三四年まで著しく減少して來た。然し最近はその減少も、世界經濟の新條件のもとで、絶えず上昇し、一九三八年には、前年の五千七百三十噸、前々年の五千七百八十噸に對し、六千九百九十噸に達した。國內生産と共に、粗アスベストの輸入も相當行はれてゐる。輸入額は一九三八年に七千七百八十三噸、一九三七年に八千六百九噸、一九三六年に四千五百五十八噸であつた。又特にアスベストセメント(一九三八年に八千九百五十八噸、一九三七年に七千三百五十六噸、一九三六年に六千二百五十五噸)やアスベスト製品(一九三八年に九千七百四十七噸、一九三七年に四千四百三噸、一九三六年に四千八百八十六噸)が輸出されてゐる。

#### 3 鹽

鹽は部分的にはトスカナやシチリヤに岩鹽として産出するが、六十パーセント以上は、海鹽で、主としてサルデーニヤ及びシチリヤの海岸から産出する。輸出は近年大いに増加した。その額は一九三八年には、前年及び前々年のそれぞれ二十一萬一千噸及び六萬六千五百噸に對し、二十七萬八千噸に達した。主要顧客はノルウェー、スエーデン、アイスランドである。

#### 4 滑石

伊太利滑石總産額の約九十五パーセントは、ピネロロ附近のヴァル・キノネの鑛床から出でゐる。そのほかにほぼサルデーニヤのイグレスィアス附近にも相當大きな鑛床がある。これ以外になほ、フランス國境アルプスやアオスタ谷やサルデーニヤ其他に滑石が産出してゐる。碾碎滑石の産額は、一九二九年の三萬四千三百九十六噸、一九三六年の四萬一千九百十八噸、一九三七年の四萬六千四百五十噸に對して、一九三八年には五萬一千七百四十二噸に達した。このうち輸出されたのは、一九三八年に一萬六千二百五十四噸、一九三七年に一萬八千五百二十七噸、一九三六年に九千九百二噸であつた。主要顧客は合衆國(一九三八年に七千四百二十一噸)、更に英國、フランス、獨逸であつた。

#### 5 重晶石

重晶石では伊太利は、獨逸及び英國に次いでヨーロッパに於ける第三位の産出國である。主要なる産地は主として、トリエント、更にミラノ、カルラーラ及びサルデーニヤのイグレスィアス附近である。パドゥア及びトリノ附近の

産地は大したものではない。すべての生産家は、Soc. (Commissionaria Benina) と云ふ一つの組合に結合されてゐる。碾碎重晶石の産額は一九三七年の三萬五千五百七十九噸、一九三六年の二萬一千四百六十四噸に對し、一九三八年には三萬二千四百六十七噸に上つた。重晶石の輸出は、伊太利の統計では、硫酸バリウムと合計して表はされてゐる。この兩産物の輸出は一九三七年の二萬五千三百三十八噸、一九三六年の四千七百七十七噸に對し、一九三八年には一萬九千六百六十七噸に増加した。

#### 6 其他の非金屬

その他の鑛物のうち、螢石は主に南チロルに産出する。碾碎螢石の産額は一九三七年の三百二十一噸、一九三六年の五百九十噸に對し、一九三八には四百二十噸に達した。石墨はフランス國境アルプスのピネロロ及びサヴォノ地方に産出してゐる。碾碎石墨は一九三八年に四千五百噸、一九三七年に四千六百五十四噸、一九三六年に三千二百七十九噸、一九二九年に六千九百七十七噸の製造を見た。この外になほ、それぞれ三千九百四十七噸、三千四百九十四噸、千八百十六噸が輸入された。石墨の輸出は一九三八年に二千三百二十五噸、一九三七年に千七百八十四噸、一九三六年に千三百十六噸であつた。また硅藻土に於ても、自國生産と並んで輸入も行はれてゐる(一九三八年二百九十五噸、一九三七年二百噸、一九三六年二百二十噸)。輸出は、一九三七年の三百七十三噸、一九三六年の七十七噸に對し、一九三八年には八百三十八噸と大きく増加せしめられることが出来た。色土の最も重要な産地は、ヴェロナ州であるが、更にまたグロツセット、ベルジャ、ローマ、シエナ、カリアリの諸州にも重要な産地がある。碾碎色土の輸出は、一九三八年が二千二百五噸、一九三七年が三千六十一噸、一九三六年が千七百九十八噸と報告されてゐる。前表

に示された硼酸及び硫酸アンモニウムの製造はトスカナのピサ地方及びグロツセットの所謂 "Solchini" (吹筒) と云ふ自然の吹出井戸から産出するものである。同様に炭酸の産額に於ても、自然産出量が主となつてゐる。

### 第三章 加工工業と原料の戦時確保

#### 一 エネルギー

伊太利の工業及び燃料に關しては是迄屢次本誌上に紹介して來たので、ここでは簡単な敘述に止めることとする。伊太利は元來燃料資源の極めて貧弱な國であるが、この部門に於てもアウトタルキー政策の成果は蔑り難いものがある。

伊太利の石炭産額は近年著しく急速に増加した。一九三八年の産額は約二百五十萬噸で、一九二九—三二年の大經濟危機前の數年に擧げられた産額の二倍以上である。そしてその後それは益々大きな増加を示し、一九三九年は既に三百萬噸を超え、一九四〇年には五百萬噸以上にもなる見込であり、更に一九四一年には約七百萬噸の生産が期待されてゐる。國內炭の熱價は輸入炭に比し確かに極めて低いものである。従つて、伊太利石炭の一九四一年度の豫定産額七百萬噸は、熱價にすれば、輸入炭の略々四百萬噸に相當するであらう。國內石炭産額の斯かる増加と並んで、國內電氣生産——専ら水力による——の急速なる擴充があつた。一九三八年の電氣生産は百五十億キロワット時で、一九二九年より約五〇パーセントも多く、ファツシヨ政權確立當時の三倍となつてゐる。

これが伊太利の經濟獨立に如何なる功績があつたかは、伊太利工業生産が一九二二年より一九二九年迄に約二倍になり

而して又一九三九年には一九二九年より二パーセントも増加し、一方一九二九年の石炭輸入も近年のそれも一九二二年の状態で約三分の一ぐらひしか増加してゐないことによつて、直ちに明瞭である。一九一四—一八年の世界戦争の頃は、石炭の輸入は、年に約千萬噸であつたが、最近でも約千二百五十萬噸である。かくてその後行はれた伊太利經濟の上昇發展を見れば、國內動力源の利用により如何なる程度に外國石炭の「削減」が行はれたか、明瞭となつて来る。そのうち特に重大なものは鐵道に於ける削減である。即ち鐵道に於ては一九三四年にはまだ輸入炭の總消費量の約二九パーセントが鐵道に分であつたが、其後その電力への轉換が非常に急速に進行したのである。

年	石炭産額		石炭輸入		電氣生産		工業生産	
	單位 <sup>II</sup> 百萬噸	單位 <sup>II</sup> 百萬噸	單位 <sup>II</sup> 百萬噸	單位 <sup>II</sup> 百萬噸	單位 <sup>II</sup> 十億キロ	單位 <sup>II</sup> 十億キロ	單位 <sup>II</sup> 十億キロ	單位 <sup>II</sup> 十億キロ
一九二九年	一・〇	一・〇	一四・六	一四・六	九・五	一〇九・二	一〇九・二	一〇九・二
一九三五年	一・〇	一・〇	一四・六	一四・六	九・五	一〇九・二	一〇九・二	一〇九・二
一九三六年	一・〇	一・〇	一四・六	一四・六	九・五	一〇九・二	一〇九・二	一〇九・二
一九三七年	一・〇	一・〇	一四・六	一四・六	九・五	一〇九・二	一〇九・二	一〇九・二
一九三八年	二・四	二・四	一一・九	一一・九	一五・〇	一〇八・七	一〇八・七	一〇八・七
一九三九年	三・〇	三・〇	一一・一	一一・一	一五・一	一〇七・五	一〇七・五	一〇七・五
註、一月より七月まで。			約一一・一	約一一・一	一〇・一	一一二・六	一一二・六	一一二・六
			一九三八年同期間の生産量は九十七億キロ。					

## 二 工業

斯かるエネルギー基礎と原料基礎の擴張と歩を一にして、加工工業の大改構及び大擴充が行はれたことは論を俟たない。

工業生産全體の發展——これは世界大戰後一九二九年頃まで大部分の他の大國の國民經濟に於けるよりも動搖が激しかつたのであるが、その後一九三九年に到つて始めて一九二九年の水準を相當大きく超えたのである——これを以て、ファシズム指導下の伊太利工業の變化を表はすものであるとするのは、未だ不十分である。一九二九年迄は伊太利工業の一般的振興と云ふ觀點が重きをなしてゐたのであつたが、世界經濟危機の克服後は伊太利經濟に於てアウタルキーの觀念が決定的なものとなつた。即ち工業は、從來外國から來てゐた物資を益々多く供給すべきものとされ（例へば、伊太利製紙工業の迅速なる向上は、大部分、斯様な外國品驅逐に基づいたものである）、工業は更に又、伊太利が益々豊富に生産供給する國內原料の加工に轉ずべきものとされたのである。又更に國防經濟的理由から、軍需工業及びその前梯諸工業が擴充されるべきものとされ、そして結局、伊太利經濟をして速かに自力建設を得せしめるために、要するに消費品工業部門よりも、生産用品工業部門に重きを置かるべきものとされた。國防的及び自給的觀點に於ける伊太利工業の力は、斯くて、工業總産額の指數から見ただけでも、ファシズム工業建設の第二段に於て可成り大なる成長を示した。全體的に見て、このやうな發展は、消費品生産増加の意識的制限によつてのみ可能であつたことは、疑ひないところである。然しながら斯うして所期の目的は高度に達せられたのである。即ち、これは第二章「鑛業」の項に於いても既に述べて置いたが、一九三八年の鉄鐵産額は、一九二六—三〇年の平均五十四萬四千噸及び一九二九年の六十六萬四千噸に對し、八十六萬四千噸以上であつた。一九三八年の鋼産額は、一九二六—一九三〇年の平均百九十萬噸及び一九二九年の二百十二萬噸に對し殆んど二百三十萬噸に上つた。以來重工業の擴充は間斷なく續けられた。一九四〇年三月、上院議員ボツチャルドは、鐵經濟協同組合會議に於て、ムツソリーニが最初



の計畫以上の増産を必要とするを聲明した後、鋼の生産を是迄の生産計畫に對し一九四〇年に二倍にするための用意が整へられた旨、言明した。このことは、一九四〇年に約五百萬噸の鋼生産が可能の範囲にあることを意味してゐるであらう。一九四〇年八月初頭、鐵經濟協同組合は、鋼工業の包容力を出來るだけ短期間に一千萬噸に擴充すること及び鋼の生産を八百乃至九百萬噸に増加することを決議した。これに於て重大なことは、二三年來製鐵工業に於て屑鐵使用の代りに鐵鑄の使用強化に向つて生産方法が轉換しつつあつて、而もこれには特に國產鐵鑄が益、多く加工されてゐることである。そのほか最近、國內屑鐵市場の新組織が行はれた。それがため從來伊太利自身から約三十萬噸の屑鐵が出てゐたが、今年約四十萬噸が得られるやうになる筈である——これは、戰爭のために行はれた屑鐵蒐集(庭園の鐵柵及び其他同様なもの回收)は勘定に入れずにである。鐵を含有する海邊の砂からの鐵の採取も著しく増加される筈である。すべて斯うしたことによつて、伊太利鐵工業の外國依存は著しく輕減された。是迄伊太利の鐵工業は特にアメリカの屑鐵供給に高度に依存してゐたのであるが、今やこれで、國內原料の產出は高められ、一方鐵鑄は、比較的近い歐羅巴の産地から輸入し得られるのである。(なほ今や樞軸國家は對佛戰勝後それら産地の最大部分を支配し得るやうになつてゐる)。更に特に述べて置かなければならないことは、機械工業及び化學工業及び人造纖維製造の迅速なる擴充のことである。例へば、人織生産の擴充によつて、一九三八年に、纖維原料の國內需要に對する自給を九〇パーセント以上に引上げることが出來た。然し無論外國との交易の必要はあるわけである(綿及羊毛に對する伊太利の大廉、絹、人織)。更にその他の方面に於ても可成りの發展が遂げられてゐる。

伊太利工業生産 (一九二八—一〇〇)

	一九二九年	一九三五年	一九三六年	一九三七年	一九三八年	一九三九年 (一月—七月)
總額	一〇九・二	一〇二・四	九五・六	一〇八・七	一〇七・五	一一九・三
纖維工業	一〇一・七	七六・八	七〇・一	八三・七	八三・〇	八五・五
精鍊及金屬工業	一〇四・六	一〇二・六	一一八・七	一一三・一	一一三・二	一四二・七
製紙工業	一〇六・八	一三九・七	一一三・二	一一三・二	一一三・二	一五六・五
建築業	一三九・六	一六二・三	九一・九	九五・九	九〇・六	一一九・四
エネルギー業	一〇六・五	一三五・八	一四〇・五	一五四・六	一五七・三	一七二・四
鑛業	—	九八・九	一一〇・三	一二七・八	一三五・〇	一四〇・九
化學工業	—	九九・六	一〇七・四	一一三・二	一二九・九	一五二・五

### 三 物資貯藏

農業、鑛業、電力及び工業の方面に於けるこれらすべての成果によつて、伊太利經濟の對外依存の度合は無論大いに低減した。然しながら、まだ除去されない缺陷乃至は結局全くは除去し得られない缺陷が依然として残つてゐることは論を俟たないところである。然しながらこの點フアシズム以前の經濟政策とは反對に、フアシズム經濟政策は大規模な貯藏政策によつて萬全の用意をなしたのである。この貯藏の高は公表されてゐない。然し、自給上なほほま大きな缺陷のあるあらゆる産物——殊に石油、ゴム、若干の非貴金屬——に於ける斯の如き貯藏が正に大きなものであることは、安んじて言ひ得られるところである。斯くして伊太利の經濟的裝備はあらゆる方面に互つて緊密である。そのみならず、伊太利をそのすべての取引相手から閉鎖することは始めから可能の範圍外に在つたのであつて、戰爭の場合に於ても重要な不足原料は何れかの方面から輸入されるであらうとは考へ得られた所でもあつたのである。



ある。

五〇

#### 四 獨伊經濟提携

更にファシズムの通商政策は既に久しい以前から、大部分の原料輸入を通商政策的にあらゆる場合のために確保することを志して来たために、なほ残つてゐる重要原料自給上の缺陷と云つても、それはあまり危険なものではなかつた。殊に益々密接になつて行く東南ヨーロッパ及び特にドイツに對する通商關係はこの方向にその効果をあげたのである。この大陸經濟關係の擴充によつて伊太利は背面補充を得た。而してこの背面補充は海外交通路を壓倒的に支配する英國との萬一の關係斷絶に對してアウタルキーの成果の價値を非常に高めたのである。既に國際聯盟制裁時代に於て、この背面補充は伊太利に非常に役立つた。然し今度のこの對英戰に於て始めて、背面補充はその全的價値を證明したのである。

然かのみならず、佛蘭西の征服後、英國自身を除く總ての他の歐羅巴の諸地方への通商路も再び自由となつた。一九三八年には、歐羅巴全域は伊太利にその輸入の五六パーセントを供給し、伊太利からその輸出の約五九パーセントを受入れた（いづれも伊太利植民地との貿易を除いてである）。今や然し、大部分の歐羅巴國家との伊太利の貿易はなほ伸張可能であることは疑ひないところである。英國のヨーロッパ封鎖の結果、大陸至る所に於て、從來英國及び海外に行つてゐた物資が遊んでゐるやうになり、これらが今や歐羅巴内に於ける貿易の増加のために使用され得るのである。更に又、國家的指導——これは獨、伊が既に早くからやつてゐることであり、又歐羅巴でこれを採用する國家が次第に多くなつて行きつつある——これによつて、外國貿易に斷へず全く新たな交易の好條件が開拓されて行つてゐる。

る。

これが單に理論だけの考量でないことは、既に獨伊貿易の發展を見ただけで、明かである——これに關して昨年十月再びドイツ經濟相フランクはウィーンに於て、それが特に良好な發展をなした旨聲明した。伊太利の東南歐貿易に關しても、それが既に一九三九——四〇年冬及び一九四〇年の春に著しく増加したことが明かとなつてゐる。たとへ伊太利の南東貿易が伊太利參戰直後再び幾らか減少したと言はれるにせよ——この物資交易就中東南歐からの輸入に於て大いに利用された海上ルートは今や一部遮斷乃至破壊されてゐる——これら國家との海上交易を鐵道交通に轉換したので、全體として更に良好なる發展が期待し得られるであらう。然し少くともアドリヤ海交易には全然この必要はないであらう。

獨逸が一九三八年に（當時のチエコスロヴァキア及びポーランド・ダンツィヒを含めて）伊太利の輸入の殆ど三分の一を、而して又東南歐を合せて、伊太利輸入の約四〇パーセントを供給したことを憶ひ、更に又それ以後これら國家群との伊太利の貿易が大いに上昇したことを考へ、そして最後にこれら諸國家と伊太利との貿易をこれ以上に擴張し得る可能條件が未だ決して無くなつては居ないと云ふことを考へるならば、伊太利の對外貿易は、英國の封鎖によつて海外連絡が阻害されても、戰前に比し著しく範圍が狭まると云ふやうなことにならずに濟むと云ふ結論になるのである。

然るに今英國では、伊太利の對外貿易轉換に際して豫想される輸送難は、一九三八年に伊太利と其他の歐羅巴大陸諸國との間に擧げられた貿易額を保つことを許さないであらうと、しかし簡單に考へてゐる。なるほど、全體主義的に指導される國民經濟の轉換力を自由主義的國民經濟の事情を以て評定するならば、戰時下伊太利の交易技術的狀態

は氣づかはしげに思はれるかも知れない。伊太利は、伊太利の政治家達も常にそのことを不都合な状態だと指摘したやうに、「地中海の捕虜」であつた。海外諸國及び英國との貿易のみならず、歐羅巴大陸及び亞細亞大陸との貿易の大部分も地中海を通じて、即ち英國の支配するジブラルタル及びスエズの通路を通じて行はれたのである。一九三八年には、數量にして、總輸入額の約七八パーセントが海路より來たのであつて、陸路より來たのは二二パーセントに過ぎなかつた。輸出は、同じく數量にして六三パーセントが海路を取り、陸路をとつたのは三八パーセントにすぎなかつたのである。

ジブラルタルを通過して來たのは、一九三八年には、海上輸送總量の七九・四パーセント、總輸入量の約六二パーセントであつた。歐羅巴大陸からの輸入中約六四パーセントがジブラルタルを通過して來た。このやうな事情であつたので、單に地中海の出口を塞ぐだけで、伊太利のヨーロッパ貿易をも大部分潰してしまふことは如何にも簡單なことに思はれたに違ひなかつたのである。

然しながらすべての斯うした希望は、伊太利參戰の幾月か前に既に痛く揺がされ、そして伊太利參戰後に至つて逆に嘘であることがはつきり解つた。このことは第一に、制裁時代の成果後二度目に證せられた獨伊協力の力に歸せらるべきものである。一九三五—三六年當時この協力の中心にあつたもの、そして又現在再びこの協力の中心にあるものは、獨逸からの伊太利の石炭輸入確保である。

伊太利が一九三八年に英國を除く歐羅巴諸國より海路輸入した千六百萬噸の物資のうち、中部歐羅巴の石炭だけで千萬噸に當つてゐる。そこで英國では、一九四〇年三月一日から實行された獨逸石炭の對伊供給海路の阻塞により、

伊太利經濟の推測的對英依存性が明瞭に認め得られるに至るものと、期待してゐた。然るに獨逸は早くも既に、伊太利の石炭輸入需要の全部を鐵道によつて供給すると聲明した。斯くて、從來獨逸、オランダ及びポーランドから海路を通じて伊太利が得てゐた石炭の量のみならず、從來英國自身から供給されてゐた石炭量も、獨逸から鐵道によつて供給されるのである。これに關する協定中に規定された供給は、速かに實行に移された。

斯かる次第で伊太利はこの戰爭に於て平時の輸入量に全く匹敵する輸入炭を得てゐるのである。その上國內の生産も大いに増加したので、伊太利の——一九一七年の六百八十萬噸に對し一九四〇年は少くとも千五百萬乃至千六百萬噸の供給である——對英戰爭中に於ける石炭供給狀況は曾ての平時よりも良好でさへあるのである。伊太利の歐羅巴貿易を殆ど全部鐵道路に轉換することに於ける最も知られた且最も重要な例とも言はるべき、この、從來海外より來てゐた石炭輸入を鐵道に換へることによつて、伊太利が「地中海の捕虜」と云ふ状態にある直接的危險は、一舉に排除された。一九三八年の物資取引より見れば、獨逸石炭協定の實施後、少くとも千六〇〇萬噸の物資輸入（一九三八年の輸入量の約六三パーセント）が運輸上からも確保されたと見らるべきである。然しなほ又、伊太利の地中海航行の一部、特にアドリア海交通が維持されて行くこと云ふことは全然別として、從來海上より來てゐた他の歐羅巴輸入の大部分も、鐵道輸送に置換されるわけである。伊太利が——獨逸との通例會談は別として——最近若干の歐羅巴諸國家と始めた乃至一部分は既に終結した談判は、こゝに存在する諸可能性を完全に利用する目的のためのものである。斯くて殊にスペイン——この國とは無論佛蘭西の敗退後再び直接關係が結ばれてゐる——や、ルーマニア、ハンガリー及び北歐諸國と、同様な取極が行はれた。さうしたわけで、實際に擧げ得らるべき且又運輸技術上に

も實行され得べき輸入取引の最高度は從來認められたよりも遙かに高いと云ふことは確實であり、又英國が未だ地中海の出口を塞いでゐるに拘はらず、平時輸入との距離は既に今最早や然し大して大きくないと云ふことが確實である。

伊太利が斯うして、その戦争遂行上最も重要な原料、石炭及び鐵鑛を全く充分に手に入れ得る状態にあることを考へるならば、英國にとつて斯かる失望的な、對伊封鎖は、その意義が明かになつて来る。と云ふのは伊太利がフランス及びスペインの鑛山からは充分に供給され得ないであらうとは、英國でも殆ど期待するわけには行かぬからである。

又石油にしたところで、東南歐からの對英石油輸出は實際上阻止されて居り且從來英國に輸入されてゐた量は獨逸及び伊太利の手中にあるので、伊太利の供給状況は、英國の豫期したやうなほどのことはないのである——このことは、伊太利の多量の貯藏、アルバニヤよりの輸入の増大、合成動力燃料の製造増加のことは全く別にしての話である。さうしたわけで、英國のヨーロッパ封鎖によつて強化されたヨーロッパ經濟協力の中核をなす獨逸經濟協力は伊太利に對し——逆に又獨逸に對しても——背面補充を提供するものであつて、この背面補給は、國內自給政策の大成果に、はじめてその突然なる對外經濟價值を與へるのである。兩者の協力は、伊太利を、英國が期待する以上に、經濟的に強力ならしめた。而して斯うした國內自給政策と外國貿易指導との結合は、伊太利を「地中海の監禁」より解放するための一手段であるばかりでなく、更にベルリン・ローマ樞軸を中心として建設さるべき將來のヨーロッパ經濟の重要要素をなすものと言ふべきであらう。(本稿作成に使用せる資料は都合により七十三頁にこれを掲ぐ)

(三) 川 定

### ソ 聯 邦

#### 本年度ソ聯邦國家豫算

本年二月二十五日に、ソ聯邦最高會議第八會期に於てソ聯邦相ズヴェリョフの豫算草案に關する報告があり、續いて聯邦會議、民族會議兩豫算委員の政府草案に對する修正案の報告とそれに基づく討論が行はれて、三月一日に最後に掲げた如き本年度ソ聯邦國家豫算法が確認せられたが、本年度ソ聯邦豫算の重要性はそれが歐洲戦争の眞只中に於て作成された第三次五箇年計畫第四年度の豫算である點にある。殊に外に於ては米國の參戰問題やバルカン情勢が最も緊迫を告げ、内に於ては經濟力(人口一人當り生産高)の點に於ても先進諸國に追ひ付かんと初めて第三次計畫に次ぐ新十五箇年計畫の編成が國家計畫委員會に委託された秋に作成された豫算である事である。

これが爲本年度豫算に於ては、戰時豫算の性格が極めて明瞭に看取せられ、國防費(と言つても國防人民委員部費と海軍人民委員部費合計であるが)は一躍七〇九億留に飛び上り、國民經濟費の比重は依然として第一位にあるも、その大部分は工業、就中重工業部門に支出せられるもの如くであるが、併し乍ら歳入構成を見るとソ聯國家財政の特色は本年度に於ても確如として居り、國防費支出の爲ホルホーズ所得税及び農業税の改正は

ソ 聯 邦

行はれたが、依然として國民資金動員収入は歳入總額の一割二分程度の僅少に過ぎず、社會化經濟收入、就中ドイツの租稅證券に類似した取引税及び收益稅收入が壓倒的比重(七二%)を占めてゐる點注目にする。

扱て、ズヴェリョフの報告に基き本年度ソ聯邦豫算の概略を述べて見よう。

政府草案に依れば本年度ソ聯豫算歳出の構成は次表に見る通りである。

歳出總額	一九四〇年		一九四一年		對前年増加率(%)
	總額(%)	總額(%)	總額(%)	總額(%)	
一、國民經濟費	七〇二〇	一〇〇〇三三三三	一〇〇〇	一〇〇〇	二七六
内、工業	七〇二〇	一〇〇〇三三三三	一〇〇〇	一〇〇〇	二七六
運輸及通信	二、六六	三、七〇	一、八二	一、八二	四一
社會、文化、教育、保健	三、三三	三、三三	二、七〇	二、七〇	二〇六
社會、文化	三、三三	三、三三	二、七〇	二、七〇	二〇六
教育費	三、三三	三、三三	二、七〇	二、七〇	二〇六
保健費	九、三九	五、四一	一、〇八	一、〇八	一六二
總計	一、七三三九	一、七三三九	一、〇〇〇	一、〇〇〇	五五

社會保障 三〇〇七 一八 三〇六九 一六 三〇五〇  
 國防費 五〇〇三 三〇四 七〇六五 三九 三〇三三  
 司法、行政 六七五五 三九 七〇四二 三五 五八  
 國債費 二七五五 一六 三〇五〇 一六 三〇三三

右の如く、本年度歳出總額は昨年比し二四・三%の増加で、一五・四億留であるが、國防費の増高は本年度に於て極めて著しく二六・三%の増加で一億七〇九億留となり、その比重も昨年の三三・四%より約三三%に増加したのである。この國防費七〇九億留が如何に大きなものであるかは、第二次五箇年計畫の初年度たる一九三三年度の國防費の約五〇倍、第二次五箇年計畫全體の國防費總額をとつてもその約一・五倍に相當してゐる事を見れば判らう。併しこれも至極當然の事で、國際情勢は今や最も緊迫を告げて居り、剩さへソ聯國內經濟の現狀は、工業發展テンポに於て世界第一を誇るも、人口一人當り工業生産高に於ては未だ未だ先進諸國、殊に米國に遙かに遅れて居り、例へば鉄道の人口一人當り生産高は英國及び佛國の二分の一以下、獨逸の二・五分の一、米國の三分の一(但し一九三七年に於て)といふ有様であるからである。益々擴大する戰爭の渦中にあつてソ聯が終始一貫中立政策を堅持して戰爭の場外に立たんと努力してゐるのも一面これが爲と思はれぬでもない。

國防費の増高はかくて又その物的基礎でもあり背景である國民經濟、就中工業部門の大幅擴張を要求し、黨中央委員會書記マレンコフも二月十五日第十八回ソ聯共產黨代表者會議の席上「…

黨組織活動の重心は從來農業部門におかれてゐたが、…今日黨組織活動は工業及び運輸部門に移行せられるべきである云々と語つた。

果せる哉、國民經濟費は昨年度に比し二七・六%増の七二・八億留であるが、その大部分は工業經費で、工業經費は四一・一%の増加で三九・二億留、運輸及び通信費の増加も著しく四一・一%の増加で六六億留と豫定せられた。かくて、前國家計畫委員會議長ウオズネンスキーの報告に基く決議によれば、本年度工業總生産高は一七・一八%の増加で、六二〇億留となるべく、この中生産財生産は二二・五%の増加、消費財生産は九%の増加豫定となつてゐる。

農業に關しては、本年度穀物生産高は昨年比し八%の増加で七十九億アードに達する豫定であり、トラクター臺數も昨年の三十三萬七千臺に對し三十五萬臺に上るべく、機械トラクター配給所も本年中に合計三八七の新設豫定、中、一一五は治バルト諸共和國に新設豫定で、かくて機械トラクター配給所は合計七、三五七に上る豫定とある。ズヴェリョフ財務人民委員は、本年度ソ聯農業に課せられた重要課題の一つはソフホーズ及び機械トラクター配給所の収益性の増大であると語つたが、周知の如く既に失業者の多いソ聯にあつては勞働力の不足は可成大きいものがあり、これが爲り聯當局が本年度に於て農業の機械化によつて農村勞働力の檢出に馬力をかけんとしてゐる事をこゝに判然と見る事ができる。

社會文化施設費は國防費の壓力下に比重は二四・一%より二二・二%に低下したが、絕對額に於ては四七・八億留を豫定せられて居り、この中の六四%は例年通り共和國及び地方豫算支出で、且その大半は教育費でその總額二・六六億留に達する豫定とある。

次にこれらの經費をカバーすべき財源については、本年度豫算の歳入構成は次の如し。

歳入總額	一九四〇年		一九四一年		對前年增加率
	總額(%)	總額(%)	總額(%)	總額(%)	
歳入總額	一〇〇〇・三六六	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	三・四
(内訳)					
取引	五〇五・八八	五〇四・四〇〇	五七五	一七六	一七・六
稅	三三三・三三	二九三・三三	一四四	一四四	一四・四
社會保險資金	九二・五三	五二・九六	四六	九三	一・三
機械トラクター	二・二〇	一・三〇	一・三〇	一・三〇	一・三〇
配給所收入	二・二〇	一・三〇	一・三〇	一・三〇	一・三〇
國債收入	二・二〇	一・三〇	一・三〇	一・三〇	一・三〇
國民諸稅	九四・三三	五三・三三	五七	三九	三・九

かくの如く、本年度ソ聯豫算に於ても社會化經濟收入(取引稅、收益稅、社會保險資金、機械トラクター配給所收入、コルホーズ所得稅等)が壓倒的比重大を占めて居り、中でも取引稅收入(五七・五%)と收益稅收入(一四・四%)の合計だけでも七

二%の比重を占めて居つて、他の諸國に於ける國家豫算の主要財源である國債收入や國民諸稅收入は夫々六・一%と五・七%の比重で、合計しても僅かに一割二分足らずである。これはソ聯國家財政の大なる特色で、注目に値する所である。

かくの如く本年の歳入増加は社會化經濟收入、就中取引稅及び收益稅收入の増加によるものである事は明かである。

取引稅と收益稅は周知の如く一九三〇年の稅制改革と共に採用されたものである。即ち國の工業化と農業集團化の大々的發展に伴つて、國家財政の方も整備を迫られたソ聯當局はこの稅制改革によつて從來八十種以上上つてゐた各種の租稅を二つの基本的な租稅に——即ち國營企業にあつては取引稅と收益稅に、協同組合企業にあつては所得稅と收益稅とに統一したのである。

取引稅は國營企業が自己の製品又は自己の調達した商品を買賣市場に出荷する際一回その取引高に對し一定率を以て課せられ、稅率は生産財に輕く(五%以下)消費財に重く(八〇%以上)のものあり事は周知の通り。従つて取引稅收入の増加は稅率が等しい場合には商品生産高及び取引高の増加に比例する。ソ聯黨報の報告によると本年度ソ聯工業總生産高は一七乃至一八%の増加豫定であり、小賣取引高は昨年の一・七四〇億留より一・九七〇億留に増加の豫定で、従つて本年度に於ける取引稅收入の増加は概して生産増加と商品流通高の増加の結果であり稅率の引上によるものではないと思はれる。

収益税は周知の如く企業収益(企業蓄積の中より取引税を差引いた残部)に對し一定率を以て課せられるもので、その税率は國家の補助を受ける必要のある企業に於ける統制的控除としての一〇%より、収益率の高い企業に於ける最高率の八一%迄の間であり、従つて収益税収入の増加は企業収益の増加に、企業収益の増加は商品原価引下率に依存する。而して本年度國民經濟全體の蓄積總額は四〇・九%の増加で四四・八億留に達する豫定であり、特に重工業部門に於ける蓄積は約二倍半に増加する豫定。又原價も昨年比し三・七%の引下が豫定せられこれにより七三億留の除剩蓄積が得られるであらうと。故に本年度の収益税収入の増加(四六・四%)は主として本年度に於ける國民經濟就中重工業部門に於ける蓄積の増加と原價引下によるもの様である。

本年度に於ては又ホルホイズ所得税と農業税の改正が行はれたが、これは報告者の言の如く國防費捻出の理由が多分にあり、

現行ホルホイズ所得税法によれば、ホルホイズは總収入の三%、土地耕作組合は四%の所得税を支拂ひ、その課税対象は(イ)義務納入等に基づき國家に引渡した生産物の代金、(ロ)ホルホイズ市場に於ける販賣代金、(ハ)労働日数に基づき分配される生産物價格、(ニ)機械トラクター配給所作業に對する現物及び金銭支拂、(ホ)家畜飼料その他ホルホイズの需要に用ひた生産物價格等で、而もこれらが總べて同一基準に基づき課税せられて居つたが、新所

得税法によれば、(イ)義務納入生産物及び家畜飼料として使用された生産物、並びに、(ロ)機械トラクター配給所作業に對する現物及び金銭支拂は課税を免除される事となり、ホルホイズ生産物の賣却収入(但しホルホイズの生産上の費用に用ひられるもの)は四%、その他の収入に對しては八%の課税と定められた。

又、一九三九年の農業税法によれば、ホルホイズ員の副業収入、個人農収入は収入高に應じ夫々課税基準が異つて居り、而もこれらの基準は一九三七年及び三八年のホルホイズ市場に於ける物價水準によつて定められたもので、ホルホイズ員及び個人農の収入の増加した現在に於ては舊式となつたと言ふ理由で改正された模様である。但し改正はウクライナ、白ロシアの西部諸州、モルダヴィヤ共和国、沿バルト諸共和国に對しては適用されない事になつてゐる。

最後に、共和国及び地方豫算の構成を示すと、

- 一、國民經濟費 九、七四三萬留
  - 工 業 二、四六五〇
  - 農 業 三、〇六二〇
  - 公官事業住宅經營 二、八八九七
  - 社會文化施設 三〇、七〇八〇
  - 教 育 費 一七、九二四〇
  - 保健及び體育費 九、八一四〇
- となつて居り、共和国及び地方豫算の大部分(六四%)は社會文

化施設費であり、この中大半は教育費である事を知る。

かくて三月一日クレムリンに於て確認せられた本年度ソ聯邦國家豫算は次の通りである。

一九四一年度ソ聯邦國家豫算法

ソ聯邦最高會議は次の諸項を決定す。

一、聯邦會議及び民族會議兩豫算委員の報告に基づき採擇せられた修正附のソ聯邦人民委員會提出の一九四一年度ソ聯邦國家豫算—歳入總額二一六、八四〇、二二四千留、歳出總額二一六、〇五二、二二四千留、歳入超過七七八、〇〇〇千留、並びに一九四二年一月一日現在のソ聯邦國立銀行勘定に於ける聯邦、共和國及び地方豫算資金殘高五、五三四、九六〇千留を確認する事。

二、本法律第一條に基づき聯邦豫算歳入總額一七〇、四八〇、〇九千留、歳出總額一六九、六九二、一〇九千留、歳入超過七七八、〇〇〇千留、並びに一九四二年一月一日現在のソ聯邦國立銀行勘定に於ける資金殘高四、八四四、九〇〇千留を確認すること。

三、一九四一年度加盟共和國國家豫算を次の如く確認すること。

ロシヤ共和国 (單位千留) 歳入 二四、九五九、六六七 歳出 二四、九五九、六六七

ソ 聯 邦

中、共和國豫算	一四六一八、九五〇	五四七九、七七九
地方豫算	一〇、三四〇、七二七	一九四七九、八八八
ウクライナ共和国	八、二九四、五三九	八、二九四、五三九
中、共和國豫算	五、五六六、〇九〇	二、一六三、七六七
地方豫算	二、七二八、四四九	六、一三〇、七七二
白ロシア共和国	二、一三四、三六六	二、一三四、三六六
中、共和國豫算	一、七四五、五三六	七〇〇、三三九
地方豫算	三、八八八、三三〇	一、四三四、〇二七
アゼルバイジャン共和国	一、〇五〇、一三五	一、〇五〇、一三五
中、共和國豫算	八三一、六六九	三九六、九一一
地方豫算	二、八四六、六	六五三、三三四
グルジヤ共和国	一、三三三、七六〇	一、三三三、七六〇
中、共和國豫算	一、〇二二、五五一	四九一、二六七
地方豫算	四、五七九、〇五	七四二、四九三
アルメニヤ共和国	五、三三、六六七	五、三三、六六七
中、共和國豫算	四、五七九、〇五	三、九一一、九一
地方豫算	六、一七六、二	二、九一、四七六
トルクメニ共和国	五、三三、〇九八	五、三三、〇九八
中、共和國豫算	四、七二、四一七	三、四一、七四四
地方豫算	六、一六八、一	二、九八、三二四
ウズベック共和国	一、六二二、七四六	一、六二二、七四六
中、共和國豫算	一、三〇七、七二二	六九三、八二四
地方豫算	三、〇五、〇三四	九一八、九三二
ソ 聯 邦	五九	

タジック共和国	五八九、五三五	五八九、五三五
中、共和国豫算	五三九、五四三	二五、六一一
地方豫算	四九、九九二	三三、二六二
カザック共和国	一、七二五、三三三	一、七二五、三三三
中、共和国豫算	一、五〇八、六三八	六、六八八
地方豫算	二二六、六九四	一、〇六八、四八四
キルギス共和国	四七三、三二五	四七三、三二五
中、共和国豫算	四三六、二八七	二一、七九八
地方豫算	四一、〇三八	二六、五二七
カレロ・フィン共和国	四九五、三三五	四九五、三三五
中、共和国豫算	四六六、八二九	二九五、一六八
地方豫算	二八、五〇六	二〇〇、一六七
モルダヴィヤ共和国	四六二、〇一七	四六二、〇一七
中、共和国豫算	四二二、九一三	一六六、二四八
地方豫算	四九、一〇四	二九五、七六九
リトワニヤ共和国	八三五、九五八	八三五、九五八
中、共和国豫算	七四七、七二八	四四八、二八三
地方豫算	八八、二四〇	三八七、六七五
ラトヴィヤ共和国	九〇三、三六五	九〇三、三六五
中、共和国豫算	八〇〇、三三五	五三九、三八四
地方豫算	一〇三、〇三〇	三六三、九八一
エストニア共和国	五三二、二七〇	五三二、二七〇
中、共和国豫算	四七六、五四五	三三二、六〇八

地方豫算

五五七、二五

一九九、六六二

六〇

加盟共和国國家豫算

四六、三六〇、一五

四六、三六〇、一五

中、共和国豫算

三、一四一、〇六八

三、一四一、〇六八

地方豫算

一、四九四、四七七

三、三〇六、三〇一、五

四、一九四二年一月一日現在のソ連邦國立銀行勘定に於ける共和国及び地方豫算資金残高を次の如く決定すること。

- ロシア共和国—三七二、四九五千留、ウクライナ共和国—一二三、三〇一、千留、白ロシア共和国—三一、六四九千留、アゼルバイジャン共和国—一五、七二三、千留、グルジャ共和国—一八、三〇六千留、アルメニヤ共和国—七、七六五、千留、トルクメン共和国—七、九七一、千留、ウズベック共和国—二四、〇五七千留、タジック共和国—八、七二〇千留、カザック共和国—二五、七五六千留、キルギス共和国—七、一四四、千留、カレロ・フィン共和国—七、三九四、千留、モルダヴィヤ共和国—六、六九九千留、リトワニヤ共和国—二、二〇二、千留、ラトヴィヤ共和国—一、三、四〇七千留、エストニア共和国—七、六六三、千留、計—六、九〇、〇六〇千留。

五、共和国豫算より自治共和国及び地方ソヴェート豫算への控除額を次の如く確認すること。

ロシア共和国

九、二二九、一七一

(單位千留)

ウクライナ共和国	三、四〇二、三三三	三、四〇二、三三三
白ロシア共和国	一、〇四五、一九七	一、〇四五、一九七
アゼルバイジャン共和国	四三四、七五八	四三四、七五八
グルジャ共和国	五三一、二八四	五三一、二八四
アルメニヤ共和国	二二八、七一四	二二八、七一四
トルクメン共和国	二二六、六四三	二二六、六四三
ウズベック共和国	六一一、八八八	六一一、八八八
タジック共和国	二八二、六三二	二八二、六三二
カザック共和国	八五一、七九〇	八五一、七九〇
キルギス共和国	二二四、四八九	二二四、四八九
カレロ・フィン共和国	一七一、六六一	一七一、六六一
モルダヴィヤ共和国	二四六、六六五	二四六、六六五
リトワニヤ共和国	二九九、四三五	二九九、四三五
ラトヴィヤ共和国	二六〇、九五一	二六〇、九五一
エストニア共和国	一四三、九三七	一四三、九三七
計	一八、一一三、五三八	一八、一一三、五三八

六、一九四一年度の全聯邦的國税及び國家收入より共和国及び地方豫算への控除額を次の如く定むること。

(イ) 國民所得税收入よりの控除はロシア共和国、ウクライナ共和国、白ロシア共和国及びウズベック共和国各豫算に對しては—五〇%、アゼルバイジャン共和国、グルジャ共和国、アルメニヤ共和国、トルクメン共和国、タジック共和国、カザック共和国、キルギス共和国、カレロ・フィン共和国、モルダヴィヤ

共和国、リトワニヤ共和国、ラトヴィヤ共和国及びエストニア共和国各豫算に對しては—一〇〇%。

(ロ) 都市住宅文化稅收入よりの控除はロシア共和国、ウクライナ共和国、白ロシア共和国、アゼルバイジャン共和国、グルジャ共和国、アルメニヤ共和国及びウズベック共和国各豫算に對しては—二五%、トルクメン共和国、タジック共和国、カザック共和国、キルギス共和国、モルダヴィヤ共和国、リトワニヤ共和国、ラトヴィヤ共和国及びエストニア共和国各豫算に對しては—一〇〇%。

(ハ) コルホーズ所得稅並びにコルホーズ農民及び個人農に對する農業稅收入よりの控除はロシア共和国、ウクライナ共和国、白ロシア共和国及びウズベック共和国各豫算に對しては—二五%、アゼルバイジャン共和国、グルジャ共和国、アルメニヤ共和国、トルクメン共和国、タジック共和国、カザック共和国、キルギス共和国、カレロ・フィン共和国、モルダヴィヤ共和国、リトワニヤ共和国、ラトヴィヤ共和国及びエストニア共和国各豫算に對しては—一〇〇%。

(ニ) 農村住宅文化稅收入よりの控除は一切の加盟共和国豫算に對して—一〇〇%。

(ホ) 勞働者及び勤務員並びにその他の都市住民引受の國債收入よりの控除は—加盟共和国豫算へ二五%、この中地方豫算へ一五%、コルホーズ農民及び個人農引受の國債收入よりの控除は—加盟共和国豫算へ九〇%、後地方豫算へ該控除の全額を控除す。



- (へ) 機械トラクター配給所収入よりの控除は加盟共和国豫算へ——二五%、この中地方豫算へ——一五%以下
- 七、ソ聯邦最高會議により確認せられた加盟共和国に對する取引税収入よりの控除總額に基き各加盟共和国別の該租税よりの控除率の決定をソ聯邦人民委員會に委託すること。
- 八 一九三九年度ソ聯邦國家豫算實績——歳入一五六、〇一

獨逸

燃燒劑及び飛行機爆彈の消火

ドクトル、マイヤ

ソ聯邦發刊雜誌「化學と國防」一九四〇年二月十九日發行、第二號に、燃燒劑及び飛行機爆彈の消火劑として溶液「A」の製造法に其の利用を推薦したる報告が掲載された。此の溶液は重量比四八乃至五五%の水と四五乃至五二%の工業用「アンモフォス」、即ち、第二及び第一磷酸「アンモン」の混合物である。此の溶液を使用して燃燒するところの「テルミット」及び「トリウム」含有の燒夷彈、エレクトロン火燄又は「カリウム」、「ナトリウム」火燄をも破裂なしに、消し止め得る如く説明されてある。現下に於て、燒夷彈に對する消火劑及び防禦劑を知り、之を有効に利用し得る事は、大なる意義を持つものである故、私

六二

三、九〇八千留、歳出一五三、二九九、〇四五千留、歳入超過二、七二四、八六三千留を確認すること。

ソ聯邦最高會議幹部會議長エム・カリーニン  
ア・ゴールキン  
同書記

一九四一年三月一日

は、最初から甚だ疑はしきものがあつた。此の所説の正否を實驗的に研究して見たところ、次の如き結果を得たのである。

一、「テルミット」——小型の鐵製圓筒中に、二瓦の「アルミニウム」粉末、及び七・五瓦の酸化鐵より成る此の燃燒劑を固く詰込み、尙ほ同じ燃燒劑の幾分を其上に積み、之に燃えつつある「マゲネシウム」紐帶を導いて點火した、そして數秒間空氣中で燃やした後、之を水中に入れた、然るに燃燒劑が燃え盡きた迄は水の中で盛に燃燒し、時々破裂をも伴つた。之と同じ現象が、燃えつつある右の混合物を、五〇%の「アンモフォス」溶液、即ち磷酸「アンモン」溶液の中に入れた時にも起つたのであるが、此の際少しの消火作用も認められなかつた。此の際利用したる鐵製筒が、完全に残つた程、燃燒劑の分量が全體にて九五瓦なる少量なるにも拘らず、此溶液を以て少しの消火も達し得

られなかつた事は、注目に値する。

二、「エレクトロン火燄」——各三瓦のエレクトロンメタル二三箇を「アスベスト」の下敷の上で點火した。而して、水又は磷酸「アンモン」溶液を以て、消し止めんと試みた。此際液がこぼれ去るのを防ぐ爲め、移液管にて燃えつつある金屬片の上に液を撒布した。然るに水を注いでも亦「アンモフォス」液を注いでも、燃燒が忽ち盛に成り、金屬片は、燃燒しつつ飛散した。

三、「ナトリウム火燄」——同様の試験が燃燒するところの「ナトリウム」の上に實驗されたが、矢張り之に對し「アンモフォス」液も亦水も、同様な現象を呈し、燃燒は一層盛になり、「ナトリウム」の片は燃えながら飛散した。

即ち「アンモフォス」溶液に關する所説は、斯くの如く不正確である。専門家として、當初より、既に疑はしく思はれ、特に燃燒する「テルミット」劑に對する消火作用に關して一層其感を深からしめたのである。其の理由は、「アルミニウム」の燃燒に必要な酸素を混合物其もの内に含有するからである。此の混合劑の二一四瓦から約二〇〇「キロカロリ」の熱量が發生する。それ故「テルミット」燃燒を消し得るものは、冷却より他にはない。然るに「アンモフォス」液の比熱は水の比熱より著しく低く、従つて其の冷却効果は、水のそれよりも弱い、加ふるに、燃燒するところの「テルミット」は液體の水に依つて包圍さるゝものでなく、寧ろ水蒸氣に依りて包圍さるゝのである。

全く之に類似した現象が「ナトリウム」燃燒とエレクトロン燃燒の上にも見られる。此の兩金屬は、水から酸素を取る故、燃燒は水の中でも尙ほ繼續する。單に、此の消火劑に依る冷却作用が「テルミット」の場合よりもナトリウム及エレクトロンの場合に於て稍著しく現はれるといふに過ぎない。それは、此の兩金屬が、溶解したる鍍の表面に於てのみ燃燒するからである。随つてエレクトロンの小片又「ナトリウム」の小片でさへも多量の水を以て消すことが出来る。併しこれが爲めに「アンモフォス」溶液は全然不要である。それは此の溶液が純粹の水よりも冷却作用が薄弱ですらあるからである。

結論として左の如く言へよう。

報告書の所説は全く不正確なるものである。それは、「アンモフォス」液を信頼し、此の溶液を準備し、之を以て燒夷彈に對し有効に闘ひ得ると思ふは素人を誤解に導くに過ぎない。

實際上、かゝる効果は決して無い。「アンモフォス」溶液は、水と同様、燒夷彈と闘ふに不適當である。

結局燒夷彈と闘ひ得るものは、依然として砂に及ぶものは無い。

「Technische Blätter」誌一九四〇年  
六月三十日、七月二十八日號

防空室の暖房に就きて

技師長、工學士 W. Mors

六三

獨逸



公共防空室の暖房は、その室の建設の際に準備するか、又は後から補足的に裝備されてゐる。之には、蒸氣暖房か、温水暖房が利用され、而して之等暖房裝置は、出来れば既設網に連結されるのが普通である。

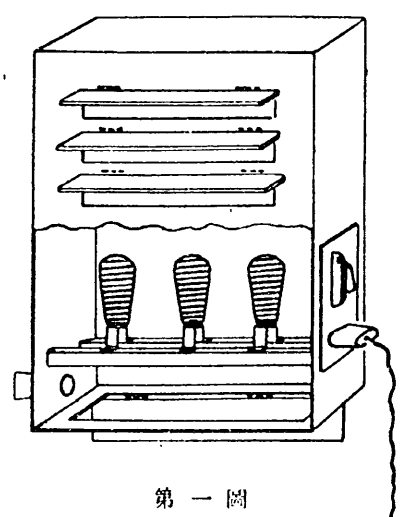
これは中央暖房を有する私有家屋の應急的防空室にも、狹窄間に於て應用することが出来る。此の場合に於ては、専ら電氣暖房が重要視されて居る。其理由としては、固形體、液體、又は瓦斯體の燃燒原料を使用する暖房に引換へ、獨り此の電氣暖房のみが、室内の空氣が有する酸素を取去る事なく、又必要に應じ、何時にても急速に動作し得る唯一のものであるからである。航空省側では、公に此の電氣暖房を推奨すると同時に、若し既設引込線の安全裝置が燒損したる場合には、専門取付工をして檢査せしめ、場合に依りては安全片を補強せしめる様警告を發した。

通常地下室に敷設される電線は僅かに六乃至一〇「アンペア」に對して設計されてある。故にこの電氣回路に挿入する可き電氣暖爐の容量は、僅に一五〇〇乃至二〇〇〇「ワット」である。小なる防空室(容積三〇乃至五〇立方尺)にして、約三十分間に約十五度までに温めるには、右の容量の暖房裝置にて充分である。併し多くの場合要求する、如く、より大なる間室にして、一層速かなる加熱を要する時は、之に比例したる容量の暖房裝置を必要とする事は勿論である。

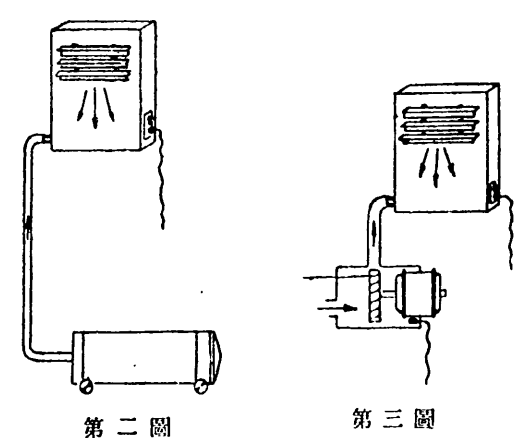
太陽(圓)型電氣暖爐 (Hesbee) である。前者は空氣の自然對流の作用に依るもので、暖水放熱器(ラヂエーター)に倣つて造られる。併し、此の裝置にありては、充分なる放熱に達する迄に餘り長時間を要するから、急速なる加熱は不可能である。之に反して後者にありては、なるほど室の一部分は速かに温められる。併し、單に丁度熱放射の圓錐形内に在る少數の者がその恩恵に浴するのみであつて、室の空氣は依然冷えたままである。そこで室の空氣を出來る速速かに温め得る様な、暖房が要望される。而して自然的、熱的に空氣の對流に適合する暖爐の構造は今日十分にある。

周知の如く會堂、寺院、工場等の特に急速なる加熱を要するところには謂はゆる熱氣暖房が使用されて居る。此の裝置は空氣加熱器に依りて室の空氣が吸ひ込まれて節氣戸に送られ、五〇乃至六〇度の熱氣となりて室内に送り出さるゝのである。勿論この様式の小型のものが、容易に防空地下室にも利用され得るに違ない。併し實際には各器具に對し、送風用の小型「モーター」が附屬せねばならない故、値段も高くなり、又材料費も上る事は免れないが、併しこれは此種器具の大衆需要を満足する爲めには今日到底推應せられ得ないことである。

私はそれ故次の様な從來使用し來つた、放射暖爐又は壁暖爐と殆んどいつれの住宅共同體 (Hausgemeinschaft) にも存在する一種の送風器とを結合しやうといふ考に到着したといふのは、實は吸塵器を思ひ浮べたのである。即ち、殆んど凡ての吸



第一圖



第二圖

第三圖

塵器は吸入側と、送風側とを備へて居る故、管を具送風側に挿入して電氣抵抗を備へたる燻を通じて空気を導けば足るのである。

第一圖は、右に説明したる結合した装置を示すものである。燻は扉板を有し、之に依つて空気の速度及び方向を調節する、空気は、送風器の大きさに應じ、六〇乃至八〇度の温度にて間室に送り込まれ、極めて短時間に之を温めることが出来る。圓型電氣燻との比較試験を行なつた結果、自分の設計の装置は、十人を容るゝ或る地下室に於て、一〇乃至一五度の温度上昇に對し三〇分を要したるに對し、圓型電氣燻は二時間を要した。

地下室の位置、側壁の厚さ、收容人員、其他種々の原因に依りて異なる故、一律に所要熱を定めることは不可能である。併し更に角空気の對流に依りて熱し始めに要する時間は、二分の一

から三分の一に短縮することが出来る。間室が高温に達した後、通風器(ツェンチレーター)即ち吸塵器の動作を自由に停止することが出来る様に構成されてある。又此際底部にある扉を開けば、燻は熱の浮揚力を以て、空気が流れて作用する(第二圖)若しも地下室が避難者により強度に占められた場合には(一人に對し一時間に五〇熱當量の熱が追加として計算し得る)吸塵器を通じて室外から新鮮なる空気を吸引し燻により温め之を室内に送る。

如斯、此の装置は極めて簡單にして、高價なる準備を要せずして、多量に製造することが出来、價値も普通の圓型電氣燻のものと同格大差ない。以上を總括して、右の装置に依りて速かなる加熱の目的が達せられ得るのみならず、多くの場合僅少なる器具にて足るを以て、電氣供給の補強を節約することが出来る。

英國

科學諮問委員會の設置

組織と職責

我が英政府は國民の戰爭努力について科學者の充分なる協力

を求むるが爲め、樞相に於て首相の決裁を得、王立協會と協議して、一の科學諮問委員會(Scientific Advisory Council)を選任し、内閣官房 Cabinet Secretariat より幹事一名を出す旨、昨日(一九四〇年十月二日)首相官邸より發表した。委員の人选左の

如し。

- ハンケイ卿(委員長)——ランカスター公領尚書(Chancellor of the Duchy of Lancaster)サー・ウィリアム・ブラッグ——王立協會長(President of the Royal Society)イー・ワイ・アッソルトン博士——科學・工業調査局(Department of Scientific and Industrial Research)幹事サー・エドワード・メランビー——醫學調査會(Medical Research Council)幹事オー・ワイ・ヒル教授——王立協會物理學部幹事(Physical Secretary of the Royal Society)サー・エドウィン・パトラー——農業調査會(Agricultural Research Council)幹事イー・シー・エガートン教授——王立協會生物學部(Biological Secretary of the Royal Society)幹事
- 委員の職責左の如し。
- イ、諮問を受けたる學術上の諸問題につき樞相に建築すること。
- ロ、學術研究の特殊部門に關し、又は科學者を必要とする委員會の人選につき政府の諸省部に建築すること。
- ハ、戰爭努力に肝要なるべき見込ある新しき學術上又は技術上の發展につき、樞相の注意を喚起すること。
- 委員等の經歷左の如し。
- アフルトン氏——敵の空襲に對する市民防衛を進歩せしむる爲め、政府の招聘せるブレン・トラストの一人。無線電波技術の大家。

英國

六七

- ブラッグ氏——食料品事項に關する戰時科學諮問委員會(War-time Scientific Advisory Committee on Food Matters)の委員。軍用燃料諮問委員會(War Fuel Advisory Committee)會長。
- パトラー氏——科學軍事職員諮問會議(Advisory Council in Scientific War Posts)委員。
- エガートン氏——帝國科學院(Imperial College of Science)の工業化學教授。石炭液化調査の爲、嘗てファルマウス委員會(Falmanth Committee)に列した。
- ハンキー氏——前次大戰の軍事内閣政務次官
- ヒル教授——世界的の生理學者。航空動力學及び航空防禦についての専門家。
- メランビー氏——英王室侍醫。ワイタミンリの發見者にして、現に科學食料委員會(Scientific Food Committee)の一員である。(マンチエスターガーヂャン紙一九四〇年十月三日號)

諮問應答と建築  
「當局者はこの戰爭の遂行を更に強化するが爲めに、宜しく國內の科學資源を充分に活用すべし」とは、有能なる科學者が幾ヶ月か前から當局に力説し來つたことであつた。實狀について見るに、某々産業部門及び某々軍事研究部署には以前より學界人員の配屬があり、中にはこの配屬が既に過度に及んでゐるものもあるが、他の一面比較的重要ならざる奢侈産業の分野に流れ込んで居るものもあり、又殆んど何等有益なる奉仕を提供せ

れ込んで居るものもあり、又殆んど何等有益なる奉仕を提供せ

ざるものも多い。固より政府當局は開戦以來多くの學界人を多くの委員に任用したが、未だこれによつて利用し得べきあらゆる分野の科學知識を集めたりと言ひ得ないし、又當局の探るべき政策に關して、實行の権限をも分擔せしめ得たとも云ひ得ない。吾人は先に「軍事施設に更に多くの威力を發揚せしめ、又これと共に更に多くの公衆の安全を確保せんが爲めに、大に科學を交戦上に利用することを調査すべし」と説いた。當局はこれに従つた結果かどうか解らないが、此度學界人をして國民の交戦努力につき政府と充分に協力せしむるが爲めに、樞相と首相の決裁を以て、ウイリアム・ブラッグ氏以下數名の學界人を以て構成する一の科學諮問委員を委任した。本委員会はランカスター公領領事ハンキー氏を會長として、既述の如き職責を擔當することとなつたが、これらの委員は吾人の専門なる電氣關係なるかと否とを問はず、それらの學界の長老として、普通の政府事業に免かれ難かりし諸種の故障を排除して、學術上の資源と練達とを集めて、個人的、團體的の知能を國家に奉仕することであらうし、又一般學界人の諸提案を吟味、検討する中樞機構ともなるであらう。なほ又その委員会は從來餘りに明白なりし缺陷を打破して、種々の研究調査の爲適處に適材を得ることに役立つであらう。又本委員會が或特殊の調査を擔當せしむるに適當なる人員を選任するに當りて何らかの發言権を有するであらうことも亦等しく重要であると言ふの

は從來丸い穴に四角な釘を打つが如きことが餘りに屢々あつたからである。之等の選任者がその職能を遂行するに當りては、各自あらゆる分野について廣き經驗を有して居り且、純學術的目的の爲にも將又産業目的の爲めにも、既に種々の研究に従事せる人々の身についた本質的知識の支持をも受け得るのである。他の方面もさることながら、たゞにこの理由よりしても、本委員会は限りある時日内に特殊の問題を解答せしむるに最も適當な人々を特殊の學術研究の爲に選任することについては十分の信頼を贏ち得ることであらう。

更にこゝに吾人の意を強くするは、この委員會の職責の一として、科學的、技術的その他の新發見、新發明中、軍事的價值をもつものが、事前の検討なくして、普通の商工業に充用され、又は全然閑却されるが如きことを全然ならしめる様檢討すると言ふことである。本委員會はこれらの事項に關してはかゝる新考案の調査、吟味を行はな、有用と認めたるものを實驗又は實用に提供するであらう。且又更に進んで新考案、改良の提示するを待たず、知識活用他の一面として、委員等が國民努力に貢獻すべしと認めたる新考案、新改良を自ら進んで外部に發表、提示すべき機關を活躍せしむべきであるとおもふ。(英誌エレクトリックリジョン一九四〇年十月十一日號)

開議に關せしめよ

政府が今次大戦の遂行に援助せしむるの目的を以て科學者等

を召集せるは吾人の賛成する所であるが、かれらを利用することとせば更に結構なことであらう。幸にして這次内閣の樞相に種々建築せしむる意味を以て新に科學者をして委員會を組織せしめたることは、更に吾人の意を強くせしむるものである。思ふに科學界と政策には久しき以前より一種の反目あり、今次大戦の勃發するに際しても、我が内閣はあらゆる政策の科學的局面上につきての公的建築者として働かしむべく王立協會を召集するならんと私に豫期し居たるに反して、毫もかゝることなく、たゞ某々重要省部に於て援助を提供せしむべく、知名の諸科學者等を召集するに止まつた。故に新に特に委員會を組織せるは、科學及び科學者の利用を増進せんとする一の運動と見做し得よう。

この委員會は(イ)諮問されたる學術上の諸問題につき、及び(ロ)同委員會の特別研究及び人選につきて樞相に建築し、及び(ハ)軍事努力に肝要なるべき學術上、技術上の進歩についての注意を喚起するにあるが、吾人はなほ轉た望望の感なきを得ない。蓋し學術界の見解を軍事内閣に提示せしむるが爲めには、學界人ならざる政治家二人、即ち新委員會の會長ハンキー氏及び新樞相ジョン・アンダソン氏の二人を經由せざるを得ない状態であるからである。吾人の窮極の目標とするところは寧ろ諸政策の主要問題の一般科學局面上につきて、親しく出席發言し得べき政治家を内閣に列せしむるにある。科學職を行なひ、科

學時代に住む吾人が、國民の最高會議に直接發言し得る科學の代辯者を得ざるは奇なりと云ふべきである。(マンチエスター・ガーヂアン紙一九四〇年十月四日號)

### 都市及農村計畫

本格的な都市、農村計畫、特に其の再計畫は、賠償と改良に關する現行法の下に於ては、又評價査定が簡別的で、統一を缺く制度の發展せる現下の如き事情の下に於ては、之を有効に遂行することは不可能である。都市計畫學會委員會 (Town Planning Institute Committee) は右の如き結論に到達したので、都市及農村計畫に於ける賠償と改良に關する報告に於て、本日(一九四〇年十二月十日)左の如く述べて居る。

『吾人は現行法が一般に、私益に對しても、公益に對しても正しからざるものとは認めないが、積極的な結果を法律に準據する計畫に依りて達成せんとする場合に生ずる主な障礙は、利害關係が複雑且多岐に互る爲、計畫が凡ゆる方面に於て阻害されて居ると言ふことにあるものと確信する。』

右委員會は、土地の公有は都市及農村計畫に依りて律せらるべき旨を述べて居る。土地の私有が、經濟的な根據から計畫された開發、再開發、又は保存を確保する爲の障礙となつて居るから、之が本質的な簡易化と衡平化とは、企業官廳が大口に土地を購求することに依りて最も有効に達成せられるものと

もはれる。

これを促進するが爲に、同委員会は、都市農村計画法(Town and Country Planning Act)を改正し、當局に對して、現存の建築物、その他建築の對象となるもの、歴史的、又は美術的價値あるもの、保存を確保する爲、又は農業を保護改善する爲、必要な土地の購入を爲さしむべき権能を與ふべき旨勸告して居る。がこれと同時に國內の土地は凡て、一の統一原理に基き、一定の時に於て、單一の官廳に依り計畫され、且評價されるべきことを勸告して居る。

更に同委員会は、之等の勸告は、一の健全にして、且公正なる經濟的基礎に於て、農村を保存せしめると共に、建設地域の再開設計畫を目的とする如き贅澤な要求は之を抑止するに至るであらうと述べて居る。

更に又同委員会は提案されたる國土計畫局(National Planning Board)に言及して左の如く述べて居る。

『開發權を計畫的統制に服せしめることが完全に保障される限り、開發權に關して特權を賦與されたる國家機關を設置することは全く致命的である。』

土地開發者は、何らの代價なくして、三五%を超えざる土地を街路及空地に割くべきことが要求されるべきである。即ち現金支拂を爲す代りに、この代金を以て計畫官廳をして當該土地の中に又は隣接して空地を設けしむる爲に利用せしむべき旨の勸

告も行はれて居る。

同委員会は、更に空地及遊戯場の維持費を支辨する爲、産業開發用地として指定されたる地域に於ける新建築物の建築費に對して五分の料金を課すべきことを提案して居る。

現存の建築物及其の利用が無制限に保護されるべきであることの不合理的を述べつゝ、同委員会は、現存の建築又はその利用が命數二十年を下らざる時は、代價を全然支拂ふ必要なことを勸告して居る。

農業は又重要な干渉から保護せらるべきである。

同委員会は又礦物の採掘は重要な計畫問題を提起する旨を述べ、地表の礦物が採掘されてしまつた後の土地には何らの建築價値が認められぬから、從てこの土地を空地として、又は農業用途に利用すべきことを勸告して居る。

同委員会の報告には又次の如く述べて居る。

『賠償金が完全に支拂はれるのに、何故七五%までしか改良が要求されぬか、吾人は甚だ之を奇とするものである。從てこの不均一は廢止されるべきことを勸告する。』

『近き將來の問題は、人口の増加と闘ふことではなくして、その移住と抗爭することにあるであらう。從屬都市の建設には纏まつた農村地區を占據する必要があるであらうが、都市及その農業地帯に必要にして十分な土地を購求するに際しては、改良の要求と言ふ問題が生起せぬ様な方法で行はるべきである。』

### 新鮮野菜の供給計畫

— 確立の必要 —

(マンチエスター・ガーヂアン誌一九四〇年十二月十日號)

我が英國の上下が目下馬鈴薯の生産増加に努力しつゝあることは大に吾人の意を強くする所である。吾人もし敵對のなほこの上の強化に對應して諸種の生産を企畫するものとせば、一エイカー(四段二四歩)につき平均六トン乃至七トンを收穫せしむる馬鈴薯の栽培は、同じく一エイカーにつき平均約一五ハンドレッドウェイト收穫せしむる穀類のそれに比して有利なるは言を俟たぬ。もし吾人の現在の輸入機構が全然崩壊するが如きことありとするも、馬鈴薯製品のみを以て全國民を養ふことも可能であらう。これに反して果實類と野菜類約二五萬トンの輸入に至りては、その産地が敵の手中にあるが爲め、敵對の無に拘らず輸入は杜絶し、その代替如何は重大なる問題として残される。然れどもこれらの野菜の大部分は吾人自から我が英國に於て栽培し得べかりしものであり、吾人は今や自からこれを栽培するか、又はこれなくして生存せねばならぬ。而して果實その他のヴィタミン類を缺くに於ては、何等かの他の代替品を栽培することが切實に必要なりと認められる。これは國民保健、國民榮養の緊急問題であり、目下の耕地増加運動により得べき新開地を盡くこれに充當し、周到に耕作とするも、決し

英 國

てこれによりて全英國民所要の野菜類の一〇%以上を得ること能はず、殘餘の九〇%については必らず、田野耕作の收穫より供給せしめねばならぬ。吾人は我が政府の關係者が今夏なほこれにつき充分の計畫を立てたることを聞かない。軍隊の野菜給與が大部分罐詰品のそれであり、殆んど新鮮品のそれを見ざることに於ては、新聞雜誌に多くの論議がある。蓋し一般國民の榮養問題同様に充分重視すべきものであらう。然るに僅か二ヶ月前には野菜類が供給過多を示し、栽培者はその收穫を賣却するに困難せりとのことであつたが、以後早くも新鮮野菜の不足に苦しんで居る。これは明白なる不合理である。キャベツ、Broccoli、ヤハナ、ボタン、Cauliflowersの栽培の容易なる地方に於てすら、後者は價格昂騰して、大多數の市民はこれを購ひ得ない。年々約二〇萬トンを輸入する所の玉葱の如きも亦然りである。玉葱は我が英國にて容易に栽培し得られ一般市民の間には極めて普及して居る。しかもその價格は既に平時の四倍以上で、幾何もなくして全然食用し得ざるに至るやも知れぬ。これらの事實は何れも早くより豫知し得べかりしことであるが、それは兎も角も、今や吾人は來らんとする季節の爲め、進歩的にして且つ遠大なる計畫を立案するの必要に迫られて居る。(英誌エコノミスト一九四〇年十月五日號)

合衆國

合衆國の工作機械工業

工作機械工業は合衆國産業動員計畫中の『キー・ポジション』とも謂ふべき重要な地位を占めて居ると共に、同國に於ける製造能力の近代化と擴充に對して缺くべからざる要素である。大量生産作業を開始するに先づ、工作機械、工具及ゲージを整備することが必要である、と言ふのは之等のものに依りて如何なるものが生産せられるか、又現在どれだけ迅速に生産し得られるかが決定せられるからである。迅速度如何は英本國にとりては兵器製造工場の生産力を擴充せんとする努力に對して極めて重要な要素となつて居るが、今日合衆國にとりても亦國防設備確立の爲に著しく重要なものとなつて居る。併し乍ら、工作機械は他の工業に於ける如く、高速度の生産方法に依りては製作し得ない。高速の精密機械製作は、大部分、機械工—設計者、機械技師—の熟練に依存して居る。一九一三年は、一九三七年以前に於ける工作機械工業従業の賃銀労働者が最も多い年であつた。世界大戦後に至るまで、工作機械製造に従事せる工場数は、一九三三年に至るまで漸減の傾向を辿り、同年には戦前に比して僅かその六〇%に過ぎなかつた。その後一九三

七年に至るまで徐々に増加してゆき、百二の會社について見れば、一九三七年には一九一九年に比して、より多くの職工を擁する工場数が六十九に上つて居る。合衆國手工業の傳統は著しく個人主義的なものである爲、同國の工作機械工業は極めて特色あるものとなつて居る。即ち、之を物的側面より見れば、同工業は二百五十の小さな単位より成り、その大部分は家内工業で、八十萬弗以上の資本投資を有するものは殆どなく、更に國內で製作される種々雑多な工作機械の各種を一手に製作する如きものに至つては皆無の状態である。之を又經濟的觀點より見れば、『饑饉』然らずんば飢饉の事業である。就業の指數(一九二六年を一〇〇とする)は、一九三三年に三〇・一に低落し、一九三七年十月には一四三・八と上昇し、一九三九年四月には一七・五となり、一九四〇年四月には一六八・五と奔騰した。工作機械工業は一九三九年六月には、その能力の六三・六%が操業したに過ぎなかつたが、一年後にはその九二・三%が操業して居る。

x x x

深 洲 一、三三 三、二一 六、四〇 四、〇〇 一、七五〇

計 一、四〇二 二、八二五 六、三三五 八、四四五 五、三三三 一、〇〇〇五  
(註) 一九一四—一七七年は會計年度、一九一八及一九三八  
年は曆年に據る

合衆國は常に工作機械を含む高生産機械の第一の生産國にして、且輸出國であつた。而してソ聯工業化の大部分と近年に於ける日本の主要裝備も、合衆國工作機械の輸入に依つところ大なるものがあつた。合衆國政府は、自國の國防確立を至上なものたらしめんとする要請に應へる爲、之等諸國に對する金屬工作機械の輸出を削減せしめんとする措置を採りつゝある。併し乍ら、合衆國の工作機械は、英本國に對しては従前通り規則正しく到着して居る。而して佛國の降伏後、英本國に於ては、最初に佛國の發註した工作機械を購入する様契約した。

(英エコノミスト誌一九四〇年十月二十六日號)

合衆國金屬工作機械輸出額(單位千弗)

佛 國	一九四〇年	一九三九年	一九三八年	一九三七年	一九三六年
英 本 國	一、七七一	八、六六六	三、三三七	二、九三四	五、五五〇
伊 太 利	三、一七九	三、三六六	一〇、四四九	一六、三〇〇	一九、五七七
獨 逸	四、三三	五、一	四、七九	八、七九	五、一八一
ソ 聯	一、三三	三、三三	三、三三	三、三三	三、三三
加 奈 陀	一、三三	一、三三	一、三三	一、三三	一、三三
日 本	一、三三	一、三三	一、三三	一、三三	一、三三
合 衆 國	一、三三	一、三三	一、三三	一、三三	一、三三

「伊太利の基礎産業とその戦時對策」の稿に使用せる主なる參考資料  
 Wochenbericht 1940 Nr. 28  
 Wirtschaftsdienset 1940 Nr. 44, Nr. 45  
 Chemische Industrie 1940 Nr. 3, Nr. 5  
 Berichte über Landwirtschaft, 149, Sonderheft  
 Frankfurter Zeitung 26, 28 Nov., 1940



重要原料資源生産月報

千圓

- (1) 石油(原油)
- (2) 石油(塊及鑛)
- (3) 精糖(粗糖)
- (4) 鉄亞鉛
- (5) 銻鉄フェロプロイ
- (6) 錫(塊及鑛)
- (7) 精糖(粗糖)
- (8) 鉄亞鉛
- (9) 錫

年次	國名	(1) 石油 (單位: 千圓)															
		日本	滿洲北支那	米北支那	英吉利	獨逸(ア)	ソビエト	フランス	イタリア	インド	ペルー	アメリカ					
1936年(年産額)		349	70	150,606	23,505	26,362	7,538	6,407	8,677	6,127	3,998	2,614	2,329	1,860	2,229	1,340	509
1937年(年産額)		...	...	175,167	28,004	25,671	9,749	7,264	7,157	6,939	4,257	2,829	2,321	2,190	2,321	1,404	501
1938年(年産額)		...	...	166,319	27,190	28,437	10,718	7,399	6,599	4,551	4,329	2,998	2,107	2,495	2,418	1,152	505
1939年(年産額)		...	...	14,037	2,157	2,159	2,159	904	549	451	353	239	175	193	208	116	411
1940年(年産額)		...	...	13,506	2,266	2,468	916	602	560	209	368	243	177	203	196	98(b)	42
第一四半季平均		...	...	14,063	2,355	2,488	714	603	551	378	384	256	175	212	193	88(b)	43
第二		...	...	13,892	2,485	2,361	989	639	530	479	337	262	175	223	213	87(b)	42
第三		...	...	171,053	29,717	29,748	10,447	7,941	6,242	6,340	...	3,199	1,794	2,718	2,629	1,090(b)	43
第四		...	...	13,652	2,321	2,400	813	698	524	436	329	240	158	221	214	80(b)	43
第一四半季平均		...	...	14,461	2,529	2,585	901	672	510	489	377	259	146	228	220	90(b)	44
第二		...	...	13,529	2,585	2,483	897	665	528	630	262	262	146	230	214	93(b)	44
第三		...	...	15,374	2,471	2,498	871	872	518	369	279	279	146	228	229	100(b)	...
第四		...	...	15,419	2,212	2,475	867	645	508	494	312	312	142	225	246	94(b)	...
第一四半季平均		...	...	15,606	2,501	2,469	882	633	507	506	322	322	128	225	237	93(b)	...
第二		...	...	15,023	2,270	...	...	616	494	...	290	290	133	...	...	...	...
第三		...	...	14,461	...	...	...	...	415	...	...	...	146	...	...	...	...
第四		...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

備考: \* 概要。  
資料: 重要生産月報一商工省。滿洲經濟統計月報一南滿洲鐵道株式會社。  
Monthly Bulletin of Statistics. — League of Nations.

(2) 石炭

(單位: 千圓)

年次	國名	(2) 石炭 (單位: 千圓)												
		日本	滿洲北支那	英吉利	獨逸(ア)	ソビエト	フランス	イタリア	インド	ペルー	アメリカ			
1936年(年産額)		38,037	11,009	468,401	232,191	158,380	184,526	122,580	45,227	20,833	14,513	10,238	2,003	1,068
1937年(年産額)		...	...	442,386	245,053	184,526	184,526	122,580	44,320	22,570	15,168	10,910	2,154	1,285
1938年(年産額)		...	...	351,563	231,873	186,179	186,179	...	46,505	25,590	15,909	9,695	2,243	1,380
1939年(年産額)		...	...	29,316	21,315	15,930	15,930	11,043	3,864	2,257	1,292	899	161	112
1940年(年産額)		...	...	23,526	18,811	14,885	14,885	10,272	3,870	2,121	1,346	760	206	116
第一四半季平均		...	...	28,117	17,744	13,570	13,570	10,348	3,483	2,117	1,343	740	188	115
第二		...	...	36,526	19,921	13,674	13,674	...	4,284	2,035	1,321	832	193	117
第三		...	...	399,257	...	...	...	...	...	25,042	16,463	10,833	2,548	1,665
第四		...	...	35,502	20,781	15,988	15,988	...	4,180	2,132	1,299	751	177	123
第一四半季平均		...	...	21,296	19,263	15,367	15,367	...	4,325	2,033	1,394	864	218	132
第二		...	...	34,320	...	...	...	...	...	2,132	1,449	942	215	142
第三		...	...	41,968	...	...	...	...	...	2,052	1,346	1,054	239	158
第四		...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
1940年(年産額)		...	...	456,468	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
第一四半季平均		...	...	40,033	...	...	...	...	...	2,273	1,303	1,038	...	141
第二		...	...	34,123	...	...	...	...	...	...	1,441	1,024	...	167
第三		...	...	38,098	...	...	...	...	...	...	1,527	1,056	...	175
第四		...	...	38,586	...	...	...	...	...	...	1,538	1,067	...	...
1940年(年産額)		...	...	40,069	...	...	...	...	...	...	1,429	1,080	...	...
第一四半季平均		...	...	41,069	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
第二		...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
第三		...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
第四		...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

備考: (a) 1939年1月以降オーストリアの産額を含む。  
資料: 前表と同。

重要原料資源生産月報

千圓

(3) 揚 炭

(単位 千噸)

年次	國名	獨逸	フランス	ハンガリー	カナダ	アメリカ	ポーランド	ベルギー	ルーマニア
1986年(年産額)		161,478	16,089	7,104	3,395	4,053	2,898	1,682	1,521
1987年(年産額)		184,674	18,041	8,057	3,289	4,596	3,241	1,830	1,877
1988年(年産額)		195,128	...	8,269	3,144	5,289	...	2,079	2,085
第一四半季平均		15,938	1,504	721	328	430	277	151	168
第二		15,289	1,329	553	90	389	...	142	158
第三		16,517	...	620	143	449	...	191	178
第四		17,352	126	862	488	496	...	209	190
1989年(年産額)		...	...	...	3,051	5,606	...	1,978	2,181
第一四半季平均		18,225	79	811	316	453	...	152	189
第二		17,019	45	619	74	425	...	165	163
第三		...	...	760	161	468	...	174(a)	189
第四		...	...	923	403	523	...	169(b)	189
1940年		...	...	...	924	564	...	158(b)	228
第一四半季平均		...	...	841	319	531	...	148(b)	218
第二		...	...	836	101	585	...	206(b)	...
第三		...	...	896	158	643	...	...	...
第四		...	...	692	483	605	...	...	...
11月		...	...	...	573	...	...	...	...

備考：(a) 1988年10月以降はマデレーン地方の産額を除き、1989年2月以降は更にスコルバキアの産額を除く。

(b) 1989年8月以降ベルネツク嶺山の産額のみ。

資料：Monthly Bulletin of Statistics.—League of Nations.

(4) 鉄 鑛

(単位 千噸)

年次	國名	朝鮮	滿洲	北米合衆國 <sup>(a)</sup>	佛蘭西	英吉利	獨逸
1986年(年産額)		631	1,808	45,540	33,420	12,904	6,652
1987年(年産額)		...	...	63,603	35,064	14,747	8,522
1988年(年産額)		...	...	19,573	33,342	12,049	11,146
第一四半季平均		...	...	0	3,099	1,231	843
第二		...	...	1,450	2,709	1,077	876
第三		...	...	3,346	2,607	810	1,013
第四		...	...	1,729	2,728	898	983(b)
1989年		...	...	...	...	...	...
第一四半季平均		...	...	0	2,805	1,007	1,226(a)
第二		...	...	2,126	3,037	1,189	1,282(a)
第三		...	...	7,160	...	...	...
第四		...	...	4,959	...	...	...
1940年		...	...	0	...	...	...
第一四半季平均		...	...	5,824	...	...	...
第二		...	...	10,431	...	...	...
第三		...	...	...	...	...	...
第四		...	...	...	...	...	...

備考：\*概数。(a) シュエーデン一領地方の産額を含まず。(b) マデレーン地方の産額を含まず。但オーネホルムの産額を含む。

資料：朝鮮鑛業協会—朝鮮鑛業協会。

滿洲經濟統計月報—滿洲鐵道株式會社。

Stahl und Eisen.—Das Verein deutscher Eisenhüttenleute.

Survey of Current Business.—U. S. Department of Commerce.

重要原料資源生産月報



(5) 鉄及プロイロイ

(単位 千噸)

年次	日本	滿洲國	北米各米穀國	獨逸(α)	ソヴェト連邦	英吉利	佛蘭西	ベルギー	オーストリア(α)	ポランド	イタリ	オーストリア(α)	カナダ	伊太利
1936年(年産額)	2888	648	30,110	15,303	14,217	7,808	6,237	3,206	1,138	1,990	1,565	691	749	
1937年(年産額)	...	...	37,194	15,955	14,521	8,632	7,916	3,841	1,675	2,512	1,669	921	789	
1938年(年産額)	...	...	19,082	18,597	...	6,871	6,050	2,465	1,434	1,550	1,577	714	859	
第一四半季平均	...	...	1,416	1,470	1,175	734	584	220	125	125	141	68	63	
第二 "	...	...	1,251	1,543	1,267	622	475	181	141	114	127	68	69	
第三 "	...	...	1,482	1,583	1,272	408	438	197	143	118	120	51	82	
第四 "	...	...	2,212	1,603	...	466	525	223	69	160	137	50	73	
1939年(年産額)	...	...	32,039	...	...	...	...	3,069	...	...	1,789	773	...	
第一四半季平均	...	...	2,245	1,631	...	549	575	219	93	156	149	47	73	
第二 "	...	...	1,996	1,645	...	683	673	260	90	174	146	53	82	
第三 "	...	...	2,674	...	...	...	...	280	...	148	142	66	...	
第四 "	...	...	3,765	...	...	...	...	284	...	...	158	91	...	
1940年(年産額)	...	...	42,471	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
第一四半季平均	...	...	3,210	...	...	...	...	302	...	...	177	96	...	
第二 "	...	...	3,166	...	...	...	...	138	...	...	...	90	...	
第三 "	...	...	3,771	...	...	...	...	35	...	...	...	98	...	
第四 "	...	...	4,033	...	...	...	...	116	...	...	...	111	...	
10月	...	...	3,994	...	...	...	...	...	...	...	...	111	...	
11月	...	...	4,005	...	...	...	...	...	...	...	...	111	...	
12月	...	...	4,005	...	...	...	...	...	...	...	...	111	...	

備考：(α) 1938年以降オーストリアの産額を含み、1939年以降は更にオーストリア地方の産額を含む。(β) 1938年10月以降は新地域に於ける産額にして1939年3月以降はオーストリア地方に於ける産額なり。(γ) 1939年10月以降はオーストリア地方の産額を含む。

資料：重慶生産月報一商工省。滿洲經濟統計月報一南滿洲鐵道株式會社。  
Monthly Bulletin of Statistics—League of Nations.

(6) 鋼 (塊産)

(単位 千噸)

年次	日本(α)	滿洲國	北米各米穀國	獨逸(β)	ソヴェト連邦	英吉利	佛蘭西	ベルギー	オーストリア(α)	ポランド	イタリ	オーストリア(α)	カナダ
1936年(年産額)	4,297	345	47,673	19,153	16,339	11,886	6,701	3,175	1,981	2,024	1,559	1,133	
1937年(年産額)	...	...	50,298	19,821	17,824	13,173	7,903	3,870	2,510	2,087	2,315	1,423	
1938年(年産額)	...	...	28,285	23,331	...	10,562	6,175	2,286	1,434	2,320	1,662	1,175	
第一四半季平均	...	...	1,845	1,881	1,518	1,103	582	195	117	181	165	112	
第二 "	...	...	1,819	1,801	1,572	905	494	167	110	194	133	115	
第三 "	...	...	2,434	1,994	1,493	710	442	185	113	207	159	81	
第四 "	...	...	3,330	2,011	...	803	540	215	137	191	97	83	
1939年(年産額)	...	...	46,653	...	...	...	...	3,111	...	...	...	1,405	
第一四半季平均	...	...	3,220	2,089	...	1,001	611	211	140	187	130	85	
第二 "	...	...	3,069	2,025	...	1,163	712	208	173	197	135	111	
第三 "	...	...	3,803	...	...	...	...	263	141	...	...	121	
第四 "	...	...	5,458	...	...	...	...	294	...	...	...	151	
1940年(年産額)	...	...	59,191	...	...	...	...	...	...	...	...	...	
第一四半季平均	...	...	4,333	...	...	...	...	317	...	...	...	157	
第二 "	...	...	4,339	...	...	...	...	143	...	...	...	167	
第三 "	...	...	5,209	...	...	...	...	27	...	...	...	171	
第四 "	...	...	5,862	...	...	...	...	129	...	...	...	188	
10月	...	...	5,700	...	...	...	...	...	...	...	...	179	
11月	...	...	5,700	...	...	...	...	...	...	...	...	179	
12月	...	...	5,716	...	...	...	...	...	...	...	...	179	

備考：(α) 普通鋼塊産額。 (β) 1938年1月以降オーストリアの産額を含み、1939年1月以降は更にオーストリア地方の産額を含む。

資料：前表と同。

重慶原料資源生産月報



(7) 銅 (組銅)

(單位 千噸)

年次	國名	日本	北米 合算 (a)	チリ	北 米 中 心	独 逸 (b)	カ ナ ダ	佛 蘭 西	伊 太 利	ス ベ イ ソ ク	ポ ー ランド	ユ ー ロ プ	オ ース ト リ ア	グ レ ー ト ブ リ タ ン	中 東	印 度	中 東
1936年(年産額)		77.7	682.7	245.3	142.8	121.4	162.6	59.4	29.7	39.4	31.8						
1937年(年産額)		...	890.4	396.6	211.5	183.1	207.7	65.0	46.0	39.4	35.6						
1938年(年産額)		...	582.7	339.1	215.4	157.7	227.1	69.4	41.4	42.0	36.1						
1938年(年産額)	第一四半季平均	...	50.1	27.5	16.4	12.8	18.8	5.5	3.7	3.6	2.8						
1938年(年産額)	第二 "	...	41.5	27.5	17.5	12.0	18.3	5.5	3.6	3.6	3.4						
1938年(年産額)	第三 "	...	37.8	25.0	16.0	13.5	20.2	5.7	3.6	2.4	3.1						
1938年(年産額)	第四 "	...	61.8	33.0	21.8	14.8	18.4	6.5	2.9	4.3	2.7						
1939年(年産額)		...	757.6	324.5	215.1	119.3	18.4	6.5	2.9	4.3	2.7						
1939年(年産額)	第一四半季平均	...	57.	25.2	16.5	11.5	17.8	6.3	4.0	4.18	34.1						
1939年(年産額)	第二 "	...	51.6	23.9	16.6	10.8	19.6	6.0	4.0	4.2	3.0						
1939年(年産額)	第三 "	...	66.0	25.5	17.0	7.4	19.5	...	4.0	3.5	2.6						
1939年(年産額)	第四 "	...	74.2	33.6	21.7	10.1	...	...	4.0	3.0	3.0						
1940年		...	76.1	34.9	...	...	...	...	...	3.2	2.9						
1940年	第一四半季平均	...	76.1	34.9	...	...	...	...	...	3.2	2.9						
1940年	第二 "	...	74.4	32.6	...	...	...	...	...	3.5	2.8						
1940年	第三 "	...	72.1	17.1	...	...	...	...	...	2.7	3.3						
1940年	第四 "	...	78.6	27.5	...	...	...	...	...	3.2	2.6						
1940年	10月	...	76.7	...	...	...	...	...	...	3.9	2.6						
1940年	11月	...	...	...	...	...	...	...	...	...	2.6						
1940年	12月	...	51.3	...	...	...	...	...	...	...	2.5						

備考：\*概数。(a) 鐵石を含む。(b) 1938年1月以降オーストリアの産額を含む。  
資料：重要生産月報—商工省。Monthly Bulletin of Statistics.—League of Nations.

(8) 亜鉛

(單位 千噸)

年次	國名	日本	北米 合算	オ ース ト リ ア	カ ナ ダ	独 逸 (a)	佛 蘭 西	伊 太 利	ス ベ イ ソ ク	ポ ー ランド	ユ ー ロ プ	オ ース ト リ ア	グ レ ー ト ブ リ タ ン	中 東	印 度	中 東
1936年(年産額)		36.2	475.6	217.0	169.4	136.5	92.4	54.0	26.9	7.7	4.2					
1937年(年産額)		...	555.1	250.4	180.5	163.4	107.2	59.5	37.7	5.2	4.7					
1938年(年産額)		...	414.0	235.3	191.6	194.5	108.0	60.4	34.1	7.7*	4.6					
1938年(年産額)	第一四半季平均	...	40.3	21.2	16.4	14.9	8.6	5.5	3.0	0.5*	0.4					
1938年(年産額)	第二 "	...	32.1	20.4	15.8	15.9	8.7	5.2	3.2	0.5*	0.4					
1938年(年産額)	第三 "	...	28.7	18.1	15.6	16.5	9.0	4.5	2.6	0.7*	0.4					
1938年(年産額)	第四 "	...	36.9	18.7	16.1	17.3	9.6	5.0	2.6	0.9	0.4					
1939年(年産額)		...	488.3	...	...	...	...	...	...	...	4.8					
1939年(年産額)	第一四半季平均	...	39.0	18.4	16.0	17.2	9.7	...	2.3	0.9	0.4					
1939年(年産額)	第二 "	...	37.7	18.4	16.3	17.3	10.1	4.9	3.1	0.9	0.4					
1939年(年産額)	第三 "	...	37.2	...	...	...	...	...	...	...	0.4					
1939年(年産額)	第四 "	...	48.9	...	...	...	...	...	...	...	0.4					
1940年(年産額)		...	580.4	...	...	...	...	...	...	...	...					
1940年(年産額)	第一四半季平均	...	48.6	...	...	...	...	...	...	...	0.5					
1940年(年産額)	第二 "	...	46.0	...	...	...	...	...	...	...	0.5					
1940年(年産額)	第三 "	...	46.6	...	...	...	...	...	...	...	0.5					
1940年(年産額)	第四 "	...	51.2	...	...	...	...	...	...	...	0.5					
1940年(年産額)	10月	...	51.2	...	...	...	...	...	...	...	0.5					
1940年(年産額)	11月	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...					
1940年(年産額)	12月	...	51.3	...	...	...	...	...	...	...	...					

備考：\*概数。(a) 1938年10月以降オーストリア地方の産額を含む。  
資料：前表と同。

(9) 錫

(單位：千噸)

年次	國名	日	本	英	荷	東	ポ	リ	暹	羅	タイ	印	中	華	日	米	英	錫	印
			馬	來	印	東	リ	ベ	羅	リ	タ	タ	華	日	米	英	錫	印	
			來	來	度	ベ	ベ	ベ	羅	リ	タ	タ	華	日	米	英	錫	印	
1936年(年産額)		0.4	67.7	30.5	24.5	12.8	9.8	7.4	9.6	3.1	2.4	1.3*							
1937年(年産額)		...	78.6	40.1	25.4	16.6	10.7	9.1	10.9	3.9	2.4*	1.7							
1938年(年産額)		...	43.8	21.3	26.1	13.7	7.1	7.5	11.8	4.1	2.4*	1.6							
第一四半季平均		...	4.8	2.1	2.7	1.2	0.8	0.4	1.0	0.4	0.2*	0.1							
第二		...	3.8	2.0	2.2	1.2	0.8	0.6	1.0	0.3	0.2	0.1							
第三		...	3.0	1.5	1.6	1.3	0.4	0.6	0.8	0.3	0.2	0.1							
第四		...	3.0	1.5	2.2	0.8	0.4	0.6	1.1	0.4	0.2	0.1							
1939年(年産額)		...	56.1	31.4	27.2	15.9	10.9	9.8	11.1	5.2	2.0*	1.3							
第一四半季平均		...	2.9	1.3	1.9	1.2	0.4	0.8	1.0	0.4	0.2*	0.1							
第二		...	2.6	1.7	1.4	0.7	0.4	0.2	0.7	0.3	0.2*	0.2							
第三		...	6.0	2.5	2.0	1.6	0.7	0.5	1.0	0.5	0.2*	0.1							
第四		...	7.2	4.8	3.8	1.8	2.1	1.8	1.0	0.6	0.1*	0							
1940年		...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...							
第一四半季平均		...	7.4	3.4	2.3	1.4	0.5	0.3	0.5	...	0.1*	...							
第二		...	6.2	2.7	3.0	1.4	0.9	...	1.0	...	...	...							
第三		...	7.5	4.0	3.0	1.3	1.4	0.7	0.8	...	...	...							
10月		...	3.6	4.5	3.6	1.6	1.1	2.0	...	...	...	...							
11月		...	6.8	4.3	4.8	1.5	0.3	...	...	...	...	...							

備考：\* 概數。(a) 輸出額。(b) 海峽植民地及英吉利本國への輸出額。(c) 錫鐵(錫含有量)。  
資料：重要生産月報—商工省。Tin—The Tin Producers' Association.

附錄 内外總動員關係記事月報

(I) 列國總動員關係記事月報 (歐文資料)

新聞雜誌略號表

Aero	Aeroplane	BMT	Bulletin du Ministère du Travail
AFPH	American Journal of Public Health	BSCg	Bulletin de la Statistique Générale
AM	American Machinist	BSTC	Bulletin de Statistique et de Législation Comparée
Ann	Annalist	BITJ	Board of Trade Journal
Annals	Annals of American Academy of Political & Social Science	CEJ	Chinese Economic Journal
AR	Asiatic Review	CFC	Commercial & Financial Chronicle
Arno	Army Ordnance	CH	Current History
AS	Agricultural Situation	Chem	Chemische Industrie
ASt	Agricultural Statistics	CR	Contemporary Review
Auto	Automotive Industries	DArb	Deutsches Arbeitsrecht
Av	Aviation	DAZ	Deutsche Allgemeine Zeitung
Bank	Banker	DBZ	Deutsche Bergwerks-Zeitung
BB	Berliner Börsenzeitung	DLiP	Deutsche Landwirtschaftl. Presse
BL	Berichte über Landwirtschaft	DR	Deutsches Recht

列國總動員關係記事月報

附 録

DV Deutscher Volkswirt  
 DV's Deutsche Volkswirtschaft  
 DW Deutsche Wehr  
 Eco Economist  
 EIB Edison Electric Institute Bulletin  
 EJ Economic Journal  
 Elcet Electrician  
 ENM Engineering & Mining Journal  
 Engi Engineering  
 EN L'Europe Nouvelle  
 EW Elektrizitätswirtschaft  
 FA Foreign Affairs  
 FES Far Eastern Survey  
 FPR Foreign Policy Reports  
 FT Financial Times  
 FZ Frankfurter Zeitung  
 Geo Geopolitik  
 Giore Giornale Economisti  
 Giord Il Giornale d'Italia  
 GU Gazette ufficiale del régno  
 HIK Halbjahrsberichte zur Wirtschafts-  
 lage für Konjunkturforschung) (Institut  
 IA Iron Age  
 ICTR Iron & Coal Trade Review

目 録

IEC Industrial & Engineering Chemistry  
 ILI Industrial Labour Information  
 ILR Industrial Labour Review  
 JFE Journal of Farm Economics  
 JNS Jahrbücher für Nationalökonomie und Statistik  
 JOF Journal Officiel de la République Française, Edition des Lois et Décrets  
 JBUS Journal of the Royal United Service  
 KR Kartell-Rundschau  
 LCE London & Cambridge Economic Service  
 LR Labour Review  
 LT Times(daily)  
 LTW Times (weekly)  
 Mac Machinery  
 MBS Monthly Bulletin of Statistics  
 MG Manchester Guardian  
 MLG Ministry of Labour Gazette  
 MLR Monthly Labour Review  
 MMR Metal & Mineral Markets  
 Mois Le Mois  
 Monat Monatliche Nachweise über den auswärtigen Handel Deutschlands  
 MSFC Monthly Summary of Foreign Commerce  
 NT New York Times

OR Ozeanische Rundschau  
 PA Pacific Affairs  
 PHR Public Health Reports  
 Pop Le Populaire  
 PR Petroleum Times  
 RABI Reichsarbeitsblatt  
 RBahn Reichsbahn  
 RDM Revue des Deux Mondes  
 REP Revue d'Economie Politique  
 RGBI Reichsgesetzblatt  
 RGE Revue Générale de l'Electricité  
 RIC Review of International Co-operation  
 RPP Revue Politique et Parlementaire  
 SCB Survey of Current Business  
 SCGF Statistique Mensuelle du Commerce Extérieur de la France  
 Schmo Schnollers Jahrbuch für Gesetzgebung, Verwaltung u. Volkswirtschaft im Deutschen Reich  
 SoIK Sonderheft (Institut für Konjunkturforschung)  
 SP Soziale Praxis

St Statistik  
 Stahl Stahl und Eisen  
 StIK Statistik des In- und Auslands (Institut) für Konjunkturforschung)  
 Temps Le Temps  
 Tin Tin  
 TM Textile Mercury  
 USN United States News  
 USPD Monthly Catalogue of U. S. Public Documents  
 YB Volkischer Beobachter  
 YIK Vierteljahrsheft zur Konjunkturforschung, (Institut für Konjunkturforschung)  
 VP Der Vierjahresplan  
 WA Weltwirtschaftliches Archiv  
 Wd Wirtschaftslexikon  
 WIK Wochenbericht (Institut für Konjunkturforschung)  
 WM Wertscheinliche Monatshefte  
 WS Wirtschaft und Statistik  
 ZAG Zeitschrift für Agrar- und Wasserrecht

記 事 分 類 表 (英文新聞雜誌の部)

I 政治及行政	(98)	XIX 教化一般	(148)
II 外交關係及外交	(99)	XX 帝國及印度	(150)
III 法 制	(97)	XXI 警備及防務	(151)
IV 國 防	(99)	XXII 空 軍	(152)
V 艦隊及一般	(100)	XXIII 空 軍	(152)
VI 艦隊一般	(102)	XXIV 人口、保健、移民及民衆團體	(153)
VII 財 政	(103)	XXV 交通及通信	(157)
VIII 財 政	(103)	XXVI 社會及勞動	(157)
IX 金 物	(105)	XXVII 科 學	(157)
	(107)		

題 名	記 述 者	誌 名	卷 號	發 行 年 月 日
I 政治及行政 A 英 國				
Manchester raid shelters— sleeping accommodation	MG	WT		'40.10. 1
The war and democracy— editorial	"	"		'40.10. 3
Provision of raid shelters —Manchester Gramme	"	"		'40.10. 3
Oversea care of children— plan suspended	LT	WT		'40.10. 3
Reconstruction of the Government—new mini- sters	"	"		'40.10. 4
Waterlogged shelters—of slave	MG	WT		'40.10. 4
Safe shelter for civilians —Survey of building reparals in kind	"	"		'40.10. 4
Labour's part—editorial Union's part in war effort —cooperation with govt. War activities and policy —Trade Union Congress	MGw LT MG	WT WT WT		'40.10. 5 '40.10. 7 '40.10. 8

題 名	記 述 者	誌 名	卷 號	發 行 年 月 日
More and more war equip- ment—nobler civilization	MG	WT		'40.10.12
The Congress plan—ap- proval of Gandhi's "civil disobedience"	"	"		'40.10.15
Reconstruction—case for ministry	LT	WT		'40.10.17
Tickets for shelters— London experiment	MG	WT		'40.10.22
Clearance and rebuilding (of London)—editorial	LT	WT		'40.10.23
Two cities' shelters—edi- torial	MG	WT		'40.10.24
Manchester school children —evacuation	"	"		'40.10.24
Civil servants' hours— food and sleep	LT	WT		'40.10.25
Work at home—plan for civil servant	MG	WT		'40.10.25
Summer time—closing time for shops	LT	WT		'40.10.25
Winter time—editorial	"	"		'40.10.25
Compensation for raid- injured civilians	MG	WT		'40.10.26
The colonial empire at war	MG	WT		'40.10.
Re-planning of London— how is the time	LT	WT		'40.11. 1
London of the future— government urged to plan now	LT	WT		'40.11. 1
Shelter loans—repayment over one or two years	MG	WT		'40.11. 1
New evacuation drive— personal visit to London parents	LT	WT		'40.11. 1
A system of short tunnels —"like spokes from a hub"	"	"		'40.11. 4
Plans for deep shelters— health & comfort	"	"		'40.11. 4
Deep shelters (and air raid conference)	MG	WT		'40.11. 4
More deep raid shelters— universal policy impos- sible	"	"		'40.11. 4
Mr. Morrison's shelter (for air-raids)—editorial	"	"		'40.11. 4
The commonwealth and the future—editorial	LT	WT		'40.11. 5
A plan for India—editorial	MG	WT		'40.11. 5
Preparatory again—Man- chester's hope after the war	"	"		'40.11. 6
Replanning of London— New as an example	LT	WT		'40.11. 7
A government shelter for "bomb-proof" designs	MG	WT		'40.11. 7

City children in camps — new ways of life	LT	'40.11.7	Fewer goods for the public—labour for munitions	LT	'40.11.16
Repair of raid-damaged houses—parliamentary	MG	'40.11.8	Rich man, poor man — wartime economy	"	'40.11.16
Taxing our clothes—good buying for the future	"	'40.11.11	Working on during raids —the roof-spouter policy	MG	'40.11.16
Independence in local government—planning for after war	"	'40.11.11	Reconstruction (physical & otherwise)—editorial	"	'40.11.16
Mr. Morrison's shelter reforms—Tunnelling, bunkers, season tickets, hygiene	"	'40.11.12	The "People's Convulsion"—Labour warren	"	'40.11.18
The choice in India — editorial	"	'40.11.12	Prisoners of Germany — editorial	"	'40.11.18
Post-war problems — not possible yet to make Plans	"	'40.11.13	Evacuation — Whitehall and local authorities	"	'40.11.18
Children's camps—a successful experiment	"	'40.11.13	Evacuation and billeting —editorial	LT	'40.11.18
Property damaged by war —the insurance scheme	"	'40.11.14	Buildings in danger — scheme to record damage	"	'40.11.19
Lord Reith's new Ministry (of Works and Buildings)—parliamentary	"	'40.11.14	Planning the face of Britain—control of building	MG	'40.11.19
Capt. Ramsay's allegations of Prison conditions—committee's report	"	'40.11.15	War damage and injury —the present law	LT	'40.11.19
			No more large shelters (for air-raid)—Birmingham decision	MG	'40.11.19

Shelters and debris—editorial	LT	'40.11.20	Shelter provision—Manchester City Labour policy	MG	'40.11.25
Health safeguards in the shelters—report on gout action	"	'40.11.20	Local care of refugees — billeting difficulties	LT	'40.11.25
Shelters and health—text of Horder Committee's report	MG	'40.11.20	Health in the shelters — the Horder report	"	'40.11.26
Rent for bombed houses —Magistrate's advice	"	'40.11.20	Internees—service in A. M. T. C.	MG	'40.11.27
Blankets for raid victims —gifts from the Queen	"	'40.11.20	Uninhabitable shelters—draining the only general solution	"	'40.11.27
Concious' objector's refusal of uniform—witness by a colonel	"	'40.11.20	Interned enemy aliens — questions to Ministers	"	'40.11.27
Shelter administration — parliamentary	"	'40.11.21	Penalties of a rushed shelter policy—Manchester's surface types	"	'40.11.28
Shelter construction in Salford—loan to private owners	"	'40.11.21	Internees—two birds may be freed	MGw	'40.11.29
Health risks in shelters—Lord Horder's call for action	LT	'40.11.21	England Juchenschaft in Sorgan	VB	'40.11.29
The heavy cut in toys and games	MG	'40.11.22	Shelter health problem—a London code	MG	'40.11.29
Warfare and welfare—editorial	LT	'40.11.22	M. P.'s dissatisfied with our war production unalloyed by debate	"	'40.11.29
The rebuilding of Coventry—A great Zoning scheme	MG	'40.11.22	Welfare after evacuation —emergency nursery centers	LT	'40.11.29

Future of the shelters— effect of dispersal policy	MG	'40.11.30	The refugees come home —editorial	MG	'40.12. 4
Planning and building— the future of London	LT	'40.11.30	Northern shelters—edi- torial	"	'40.12. 4
Prisoners and captives— editorial	"	'40.11.30	Aliens policy—editorial	"	'40.12. 4
War prisoners' parcels— transport difficulty	"	'40.11.30	Delays in air-raid salvage —parliamentary	"	'40.12. 4
Sheltered lives—editorial	MG	'40.11.30	Northern conscience ob- jector's appeals—ac- cepted as missionary	"	'40.12. 4
England's lezvie Wahl	VB	'40.11.30	Shopping house—no X'mas extension in Manchester	"	'40.12. 4
Life in London's shelters —health policy	MG	'40.12. 2	Popularizing small shad- ers—more habitability	"	'40.12. 5
Manchester's shelters— bunks and drainage	"	'40.12. 2	A third hearing—North- western Conscience Ob- jector Tribunal	"	'40.12. 5
Shelter station's 600th victims—communiques	"	'40.12. 2	The campaign for binoc- lars—North-western gifts	"	'40.12. 7
Window glass—editorial	LT	'40.12. 2	Rationed pleasures—edi- torial	LT	'40.12. 7
Health in the shelters— a national publicity campaign	"	'40.12. 3	Manchester's shelters— medical women's report	MG	'40.12. 7
Rescue, repair, and rest —editorial	"	'40.12. 3	Raid welfare in Man- chester—rest centre pro- vision	"	'40.12. 7
Conscience Objector Ap- pellate tribunal—esti- mate of 7 months' ar- rests	MG	'40.12. 3	More bunks for shelters— tube ticket conditions	LT	'40.12. 7
Dismissal of conscious objectors (from corro- ration service)—Man- chester Tribunal	"	'40.12. 4	India and the war—an- xiety to help Britain	"	'40.12. 7

Boys' and girls' refugees —strain of war condi- tions	MG	'40.12. 7	War damage—editorial	MGW	'40.12.13
Building the "new order" —editorial	"	'40.12. 9	Improving the shelters— Committee's reply to de- putation	MG	'40.12.13
Manchester's shelters— medical women's pro- posals	"	'40.12. 9	Air Raid Precaution Con- tracts—Judge's ques- tion to Prosecution	"	'40.12.14
Appellants fall from en- gine—Appellate Con- science O. Tribunal	"	'40.12. 9	A New Order for Britain —our war ideals	"	'40.12.16
Indirect compulsion (for industrial war service) —editorial	"	'40.12.10	A reception area faces its problem—housing, feed- ing, etc.	"	'40.12.16
Town and country plan- ning—present cumber- some machinery	"	'40.12.10	Mr. Bayin and Com- munists—orders they have had	"	'40.12.16
Valuation of land—unified system proposed	LT	'40.12.10	The dismissal of Iveral: Nazis reticent—the re- burial of Napoleon II	"	'40.12.17
Requiring olme Empire	FZ	'40.12.11	Parcels for our prisoners —11,000 a week	"	'40.12.17
War damages to property —big state subsidy	MGW	'40.12.11	Evacuation of children— Manchester appeal	"	'40.12.17
London property—posi- tion of building owners	LT	'40.12.11	War damage: sirs, wood on the new bill	LT	'40.12.18
Registered conscience ob- jector—asks for non- combatant status	MG	'40.12.12	Parcels for prisoners—edi- torial	MG	'40.12.18
Manchester shelters—re- ply to medical women's report	"	'40.12.12	Vic. wells in Lancashire— the Burnley season	"	'40.12.18
Plans for rebuilding	C. H. Reilly	'40.12.13	War Prisoners' mail	"	'40.12.19
	MGW		Compensation for war in- juries	LT	'40.12.19

附錄	政治及行政	九三
New evacuation powers—civilian war injuries—editorial	LT	'40.12.20
The communists—editorial	MGw	'40.12.20
New evacuation powers—compulsion and health rules	MG	'40.12.20
Shelter dangers	LT	'40.12.27
Manchester resume and repair work—problems of the raid	MG	'40.12.28
Evacuation of children—Shelter in private houses	"	'40.12.28
Raid distress fund—Manchester appeal	"	'40.12.28
Our children in Canada—Toronto's understanding	"	'40.12.28
More homes for evacuees—a striking appeal	"	'40.12.28
Repair work in Manchester—Local Service's achievement	"	'40.12.30
Evacuation of Manchester children—parents' poor response	"	'40.12.30
Homeless neighbours—women in voluntary service—editorial	"	'40.12.31
Registering for evacuation—Manchester and Salford	"	'40.12.31
New duties of fire watchers	LT	'41.1.1
Fire watching to be compulsory self-defence	"	'41.1.1
Evacuees and refugees	"	'41.1.1
Dynamiting city buildings	"	'41.1.2
Demolition work in the city	"	'41.1.3
Fighters of fire bombs	"	'41.1.3
Dynamiting raid ruins—fuse moment when fuse failed	MG	'41.1.3
Identify discs for civilians—Manchester proposal	"	'41.1.3
New evacuation from Manchester—undecided parents	"	'41.1.3
Clearing-up in Manchester—salvage work and repairs	"	'41.1.4
Shelters' need—editorial	"	'41.1.6
Escape from city fires	LT	'41.1.6
Raid damage to property	"	'41.1.6
Rebuilding of Britain	"	'41.1.8
Fire equipment in the home—demand for ladders	MG	'41.1.9
Misbehaviour in shelters	"	'41.1.14

Post-war Britain	MG	'41.1.17
Compulsory evacuation	"	'41.1.18
Young visitors in peace—time	LT	'41.1.20
Our export trade policy	MGw	'41.1.21
Indian politics and the war	LT	'41.1.21
Welfare in tie shelters	"	'41.1.21
School shelters	MG	'41.1.22
Reconstruction of towns	LT	'41.1.22
The price of red tape	Elec	'41.1.24
The government and the use of electricity	Eng	'41.1.24
The evacuees	MG	'41.1.25
Where evacuation can be improved	LT	'41.1.25
Democracy and its schools	MG	'41.1.27
Reconstruction of cities	LT	'41.1.27
Reconstruction	"	'41.1.28
Warnings of waste	"	'41.1.28
Reconstruction	MG	'41.1.29
Land and reconstruction	"	'41.1.30
Building the new Manchester	"	'41.1.30
Fire risk and negligence	"	'41.1.30
Advice for raid victims	LT	'41.1.30
Children saved from shelter	LT	'41.1.31
Reconstruction	"	'41.1.31
<b>B 合衆國</b>	MG	'40.11.4
Electroning buttons—for supporters for presidential elections	"	'40.11.7
Third term (Roosevelt's election)—editorial	"	'40.11.26
A Johnson act move—the first move	"	'40.11.26
L. S. red book of Communism—sabotage plans	LT	'40.11.29
Der „Gute Nachbar“	LT	'40.12.5
Der neue Nachbar	EZ	'40.12.6
<b>C 獨逸</b>	"	'40.10.2
The "new order" is Holland—editorial	MG	'40.10.28
The Polish spirit of resistance—German ingenuity	LT	'40.11.4
Englands Kriegsziel: Alibi herrschaft in Europa	VB	'40.11.6
Gewaltige soziale Plannungen nach dem Siege	"	'40.11.10
Es gibt keine Mätkokar-Hitler	"	'40.11.18
Von Eden zu Churchill	"	'40.11.18



Die deutsche Verwaltung im Protektorat	H. Hohenstein	VB	'40.11.22	Die Rede des Führers vor den Rüstungsarbeiten	FZ	'40.12.12
Führerstaat und Demokratie	"	"	'40.11.23	Selbstverwaltung im German tyranny in Poland—intellectuals and peasants alike	MG	'40.12.12
Rumänien im Dreimächtepakt	"	"	'40.11.24	Verstärkte Zusammenarbeit zwischen Berlin, Rom und Tokio	VB	'40.12.22
Norwegens Weg	"	"	'40.11.24	Das Jahr der danokratischen Gottesdammerung	"	'40.12.25
Auch die Glawake unterzeichnet Europas neue Ordnung	"	"	'40.11.25	デッセルズ演説 „Es kommt der Tag, wo England am Ende sein wird.“、その演説	VB	'40.12.27
Blut siegt über Gold	Rosenberg	"	'40.11.20	Nazi pressure on Vichy—the french fleet	MG	'40.12.30
Germany's plan for the low countries	"	MGw	'40.11.20	Zeitenwende Betrachtungen zum Jahreswechsel	VB	'40.12.31
Wie stellt es in den Niederlanden?	Seyss-Inquart	VB	'40.12.1	Administration of countries under German control—The Government of France	BN	'40.12.31
Die Bestenrung der Panslowkassen	"	FZ	'40.12.1	The Nazi "New Order" in Europe	Bank	'40.12.
Die grosse Wanderung	"	"	'40.12.1	Um den Führer geschlessen gehenwir in das Jahr 1941	VB	'41.1.1
Deutsche Recht im Osten	"	"	'40.12.3			
Raumfischer Zehnjahresplan in Zusammenarbeit mit Deutschland	VB	"	'40.12.6			
Im Dienste der Steuerung	FZ	"	'40.12.7			
Die silbernen Kugeln	VB	"	'40.12.8			
Die alte Schuld	FZ	"	'40.12.8			
Das alte und das neue Dänemark	VB	"	'40.12.9			
Katzen im deutschen Aufbau	DBZ	"	'40.12.10			

Neujahrswort Adolf Hitler's zu die Deutsche Nation	VB	"	'41.1.1	Europe under the New Order—editorial	MG	'40.12.28
1941 An der Schwelle einer weltgeschichtlichen Epoche	"	"	'41.1.5	II 國際政治及外交		
F 其の他諸國				A 英 國		
(Conflicting Policies in India	RT	"	'40.6.	A new approach to British cargoes in German ships—rescued from neutral ships	LT	'40.11.27
Seeking a Solution in India	"	"	'40.9.	British censorship restrictions—a Swedish complaint	"	'40.11.29
Political Developments in India	AR	"	'40.10.	Die Schwächung der britischen Position	FZ	'40.12.1
Entlassung der Juden aus öffentlichen Ämtern in Holland	FZ	"	'40.12.1	Eine peinliche Alternative	"	'40.12.1
Gesicht Zwei Bundesräte vor den schweizerischen Bundesratswahlen	"	"	'40.12.1	Der englische Hilferuf	LT	'40.12.1
Fugoslawiens Friedenspolitik	"	"	'40.12.2	Treatment of aliens—parliamentary	"	'40.12.4
Der Blick auf den Balkan	"	"	'40.12.5	"Brnny" aliens—editorial	"	'40.12.4
Bulgariens Aussenpolitik	"	"	'40.12.5	Release of aliens—priority classes	"	'40.12.4
Der Unabhängigkeitskampf der arabischen Länder	"	"	'40.12.6	Trade agreement with Turkey—editorial notices	MG	'40.12.5
Der schwedische Horizont	"	"	'40.12.8	New commercial agreement with Turkey—Nazi method & Turkey's "new order"	"	'40.12.5
Arabien und der Krieg	VB	"	'40.12.20	Trade with Turkey—editorial	LT	'40.12.6
G 世界一般	"	"	'40.11.23			
Japans Weg	"	"	'40.11.23			



Commercial agreement with Turkey—its practical significance	MGW	'40.12. 6	Britain and the French columns—editorial	MG	'40.12.18
Preparing for the peace—League of Nations Union campaign	MG	'40.12. 7	Parcels for war prisoners	LT	'40.12.19
Englisch-türkisches Wirtschaftsabkommen	FZ	'40.12. 7	The dilemma of France	"	'40.12.30
Die englischen Wünsche an Amerika	"	'40.12. 8	The friendliness of argentina	"	'40.12.31
Trade with Turkey—editorial	MG	'40.12.10	Experiences in a raid	"	'41. 1. 2
Kugeln aus Gold und Blei über den Ozean	FZ	'40.12.10	Tisler and the eire ports	"	'41. 1. 9
Englands „schwerste Sorge“	"	'40.12.10	Workless aliens	"	'41. 1. 9
Mr. Morrison's "New Order"—an international air force	MG	'40.12.12	Russo-german pact	"	'41. 1.10
International air force	LT	'40.12.12	Greatest blockade in history	"	'41. 1.11
World settlement—League of Nations Campaign	MGW	'40.12.13	Interned refugees	"	'41. 1.13
The United States and Britain	"	'40.12.13	Alleged trading with enemy	"	'41. 1.18
(City notes	L/T	'40.12.13	Brazil's belief in the Monroe	MG	'41. 1.30
England Kampf gegen Russland	FZ	'40.12.15	Diplomacy and trade	"	'41. 1.27
Parcels for war prisoners	LT	'40.12.17	Eler's reasons for neutrality	LT	'41. 1.29
Tangier—editorial	MG	'40.12.18	A free french exploit	MG	'41. 1.30
			<b>B 合衆國</b>		
			Americans and the blockade—editorial	MG	'40.12. 2
			American and for Britain growing rapidly	MGW	'40.12.29

Trying to help Laval—Germany's efforts	MG	'40.12. 3	The new order in Europe—editorial	MG	'40.11.13
Deutsch-Italienische Verbundwirtschaft	DBZ	'40.12. 6	Mr. Hoover's plan to feed Europe—U. S. opposition	LT	'40.12.10
Die gesundheitliche Betreuung der Wehrmacht	FZ	'40.12.10	Spanish ships to be sunk—an Italian order	MG	'40.12.30
<b>D 佛 國</b>			The Mediterranean fleet—editorial	"	'40.12.21
The French Possession in the Pacific	AR	'40.10.	French prisoner of war—editorial	"	'40.12.21
The French Fleet	MGW	'41. 1. 3	Moral aggression—editorial	"	'40.12.23
<b>F 其他諸國</b>			Pacific raiders—editorial	"	'41. 1. 3
Zur Eingliederung der baltischen Staaten in die Sowjetunion	R. J. Robinson	OCM 20.-9-10 '40.10. 9.	The Mediterranean—editorial	"	'41. 1. 3
War the Stabilizer of the Dutch Empire	AR	'40.10.	<b>III 法 制</b>		
Schweizer im Dienste Churchills	FZ	'40.12. 2	<b>A 英 國</b>		
Verhandlungen in Moskau	"	'40.12. 2	Emergency powers (Defence) Industrial Registration (Amendment) Orders, 1940	MLG	'40. 9.
Spanisch-argentinische Freundschaftskundung	"	'40.12.14	National Service (Armed Forces) Act, 1939—Preamble of Evasion (Amendment) Regulations (1940)	"	'40. 9.
Die Konsolidierung im Südosten	"	'40.12.14	Trade Boards Acts and Holidays with Pay Act	"	'40. 9.
<b>G 世界一般</b>					
The Mediterranean Problem—suggested control after the war	H. J. Fleure	MG			'40.10.10



Action to stop rent acuse—powers of local authorities	LT	'40.10. 2	Trade Board Acts and Road Haulage Wages Act	MLG	'40.11.
Why cotton licences are required	Cotton Controller TM	'40.10.11	The insurance bill	LT	'40.12.12
New paper control orders—maximum price	MG	'40.10.26	Indirect compulsions—editorial	MGw	'40.12.13
Police search—right to have a friend present	"	'40.10.31	War damage insurance scheme	"	'40.12.13
The cotton dust bill— or the Workmen's Compensation & Benefit (Bysstos-s) Bill	"	'40.11.13	War damage bill	LT	'40.12.13
Effect of the increased civilian allocation on the yarn market	TM	'40.11.22	The compensation bill	MG	'40.12.17
National Service (Armed Forces) Acts, 1939 and 1940	MLG	'40.11.	War damage—editorial	MG	'40.12.18
Emergency Powers (Temporary employment in agriculture)	"	'40.11.	War Damage Bill—explanation and reception	MGw	'40.12.20
Contributions Regulations	"	'40.11.	Various articles on pp. 320 and after	MLG	'40.12.
Approval of Arrangements Regulations, 1940	"	'40.11.	The courts (Emergency Powers) Act Interpreted	Bank	'40.12.
Industrial Courts Act, 1919 and Conciliation Act, 1896	"	'40.11.	Mr. Morrison's statement	LT	'41. 1. 1
Conditions of Employment and National Arbitration Order, 1940—National Arbitration Tribunal Awards	"	'40.11.	Lights at a colliery—legal intelligence.	ICTR	'41. 1. 3
			War measures in India	LT	'41. 1. 9
			Defects of war damage bill	"	'41. 1.10
			Criticisms of war damage bill	"	'41. 1.11
			(ompuhsion in fire watching	"	'41. 1.16
			Compulsory fire fighting	"	'41. 1.20
			Practic powers for government	"	'41. 1.20

Compulsory fire-fighting	LT	'41. 1.20	Zum Steuerrecht der Kartelle und Syndikate nach der neuern Rechtsprechung des Reichsfinanzhofes	Dr. W. Friedrich KR	38-12' '40.12.
The war damage bill	"	'41. 1.23			
Fire-prevention orders	MG	'41. 1.24			
War damage	LT	'41. 1.24			
War damage	"	'41. 1.24			
Payment for war damage	MG	'41. 1.24			
Rationing and conservation of British oil supplies	LT	'41. 1.25	II Codice	M. D'Annello Cds	'41. 1.17
Trade control methods	MG	'41. 1.25	F 其の他諸國		
Fire prevention order in force in Manchester	"	'41. 1.25	Die Kivilerkarte der Schweiz	FZ	'40.12. 2
Solicitors in time of war	LT	'41. 1.27	IV 國 防		
Solicitors in war-time	"	'41. 1.29	A 英 國	RT	'40. 6. 6
War damage	"	'41. 1.30	The Strategy of the War—III		
The factories act	MG	'41. 1.31	Great arms speed-up - - eight into four	MG	'40. 8.23
Cottons trade and control—editorial	TM	'41. 1.31	Manchester people and the shelters—the declaration for company	"	'40. 9.21
C 獨 逸			Shelters (for the air raid)—editorial	"	'40. 9.21
Kartellvertragsbestimmungen, Satzungsbestimmungen und Lieferungsbedingungen in Inhalt und Fügigkeit	Dr. Verneburg KR	38-8 '40. 8.	Basement shelters in Manchester—better equipment	"	'40. 9.23
Zur Abzugsfähigkeit von Ordnungsstrafen und Vertragsstrafen im Steuerrecht	Dr. Linschtrink "	38-8 '40. 8.	New shelter policy—editorial	"	'40. 9.24
			Mr. Lloyd George and shelters—editorial	"	'40. 9.25



Comfortable shelters — deep underground	David Lloyd George	MtG	'40. 9.25	Air trainings in Canada —Br. school transferred	LT	'40.10.14
Evacuating the soldier — in Northern Command	"	"	'40. 9.30	The civil defence—editorial	MtG	'40.10.13
Conditions in raid shelters —plans for improvement	"	"	'40. 9.30	Western hemisphere defence—editorial	"	'40.10.16
National Service Act, 1938—Appellate Tribunal for conscientious objectors	MLG		'40. 9.	Soundness of the army—B. E. F. experience	L/T	'40.10.16
The Strategy of the War. IV	RT		'40. 9.	Watchers of the skies—expert and constant vigil	"	'40.10.17
Double task of a nation in arms—the demand for educations	LT		'40.10. 8	Air raid defences — editorial	"	'40.10.17
Protecting factories in raids—fire bombs and explosives	MtG		'40.10. 9	Health in the war—parliamentary	"	'40.10.18
Steps to counter German bombing—parliamentary	L/T		'40.10. 9	Blackpool's black-out—editorial	MtG	'40.10.18
Re prepared—ventilation and black-out	Elect		'40.10.11	Taking the war strain—preparation for winter	LT	'40.10.19
Basement shelter provision to be expedited—parliamentary	MtG		'40.10.11	The navy's part editorial	MtG	'40.10.19
Shelter and sleep — editorial	"		'40.10.11	Medical work in modern army—blood transfusion and supplies	"	'40.10.19
Singapore base and fortress—defences and planning	LT		'40.10.14	More shelter quickly—editorial	"	'40.10.21
Animals and air raids — editorial	"		'40.10.14	Home Guard training—new center & equipment	L/T	'40.10.21
				Australian War Council —half the seats for Labour	"	'40.10.23

War supplies east of Suez —self-supporting India	LT		'40.10.23	Reservation age raised —printing workers affected	LT	'40.11. 1
The development of the home guard—fixed factory units	"		'40.10.23	A boy home guard—wearing battle dress in vanity	MtG	'40.11. 1
Arduous life of coast defence—massing the guns	"		'40.10.23	Mined ship that sail again —navy's protective guns	"	'40.11. 2
Blackout in winter — a valuable defence	"		'40.10.24	The blackout faith — editorial	"	'40.11. 5
Defence of the coast-line —control & mobility	"		'40.10.24	Training for war and peace—youth's neglected needs	L/T	'40.11. 5
Training school for Home Guards—enemy tanks and bombs	"		'40.10.25	A spreading war—editorial	MtG	'40.11. 6
Needs of city youth — a Manchester survey	"		'40.10.26	Home Guard reorganization—commission and arms	"	'40.11. 7
Parachute troops—Training Schools in Canada?	MtG		'40.10.26	Officers of the Home Guard—position cleared	"	'40.11. 7
National Planning	St		'40.10.26	Future of Home Guard —finance & equipment	L/T	'40.11. 7
Railwaymen beating raiders—rapid repair work	MtG		'40.10.26	Future of Home Guard —editorial	"	'40.11. 7
Auxiliary Territorial Service keen—criticism and suspensions	"		'40.10.28	The home guard—editorial	MtG	'40.11. 7
Protection of windows —blast, ventilation, and shutters	L/T		'40.10.29	Help for families of servicemen—through royal family	L/T	'40.11. 7
Training for home guard —editorial	"		'40.10.30	Civil defence service—controllable to forces	"	'40.11. 9

Armeds of freemen—editorial	LT	'40.11.9	The guards in a new guise—lessons from Flanders	LT	'40.11.23
Winter billets for the army—in the Northern Command	MG	'40.11.11	The army's nervous system—Royal Corps of Signals	MG	'40.11.26
Military labour—new discharge at the War Office	〃	'40.11.13	War output—statement by Mr. Greenwood (Min. without Portfolio)	〃	'40.11.28
Meeting house for troops—Quakers' social work	〃	'40.11.13	Duties of Home Guard—only to fight invaders	LT	'40.11.30
American arms for the Home Guard—editorial	〃	'40.11.14	Home Guard's duties—work comes first	MG	'40.11.30
More munition workers—big training plan	LT	'40.11.15	The auxiliary firemen—Bradford's force	〃	'40.11.30
The soldier's welfare—editorial	MG	'40.11.19	(Continued)—security of vital targets	〃	'40.11.30
Training for arms production—a new auxiliary scheme	Labour Minister	'40.11.20	Binoculars national appeal for 125,000 pairs	〃	'40.11.30
Task of Home Guard—ready to meet invasion	〃	'40.11.20	Billets in private houses—dealing with complaints	〃	'40.11.30
Home Guard's future role—Parliamentary	MG	'40.11.20	Training for war-time work in the emergency industry	MLG	'40.11.
Part-time civil defence work—no compulsion	〃	'40.11.20	Winter quarters for the army—compulsory powers	LT	'40.12.2
The Home Guard in 1941—important role	〃	'40.11.20	Winter quarters for army—the public burden	MG	'40.12.2
War production—more women needed	Labour Minister	'40.11.20	Advice to Manchester—Pinergery revives	〃	'40.12.3
Reduction of infection in air raid shelters—advertizement in page 3	LT	'40.11.22			

Troops in billets—few complaints from householders	MG	'40.12.3	Prohibited area—A change of scene	MG	'40.12.17
Binoculars—Manchester's response to appeal	〃	'40.12.3	The compensation bill	LT	'40.12.17
Civil Defence in Salford—shelter facilities	〃	'40.12.5	Protection from bomb blast	〃	'40.12.17
Army maps by wire—commercial systems adapted	LT	'40.12.7	A naval anniversary	〃	'40.12.17
Prisoner of war—an officers' camp	MG	'40.12.10	Quality and variety of army meals—waste avoiding	〃	'40.12.17
Security of the state—parliamentary	LT	'40.12.11	War damage sit k. wood on the new bill	〃	'40.12.18
Reserved jobs—changes in the schedule	MG	'40.12.12	Devoted work of hospitals	〃	'40.12.18
Civil defence in big cities—too much reliance on the government	〃	'40.12.13	Good reception to War Damage Bill—Parliamentary debate	MG	'40.12.18
Sechzehn Millionen Pfund täglich	FZ	'40.12.13	Allowances and pensions for every adult	LTV	'40.12.19
War damage bill	LT	'40.12.13	New contracts for United States—or ships first	MG	'40.12.20
Science and war	〃	'40.12.13	Work of the Women's Voluntary Services—North-West region	〃	'40.12.21
Costing of arms contracts	〃	'40.12.14	Fire defence—editorial	〃	'40.12.21
War on merchant shipping	〃	'40.12.16	Compensation for war injuries—civilian scheme extended	LTV	'40.12.25
Australian home defence	〃	'40.12.16	Rapid expansion of military schools	LT	'40.12.27
War pictures from great heights	〃	'40.12.16	Manning roofs—editorial	MG	'40.12.27
A new ship for the Navy	MG	'40.12.16	Health in the shelters	LT	'40.12.28

Convoying our ships — shortage of escort vessels	MG	'40.12.28	Increasing war effort — work of Area Board	MG	'41.1.2
Against fire—editorial	"	'40.12.30	Fighters of fire bombs enrol	LT	'41.1.3
War supplies from the east	LT	'40.12.30	Drawing the blinds in trains	"	'41.1.3
With a convoy at sea — usefulness of former American destroyers	MG	'40.12.30	Fire-bomb fighters	MGw	'41.1.3
Italy's weakness in the air—poor machines and equipment	"	'40.12.30	Guarding against the fire bomb	"	'41.1.3
Fire raids—editorial	"	'40.12.31	Fire-watchers limit damage in London raid	MG	'41.1.3
Training for arms works—reserved schedule	"	'40.12.31	Painting the town—editorial	"	'41.1.3
Schedule of Reserved Occupations	MLG	'40.12.	New body to combat the incendiary bombs — motor patrols	"	'41.1.3
New duties of fire watchers	LT	'41.1.1	Registration for service—enlistment notices	"	'41.1.3
Censoring air raid reports	"	'41.1.1	The engineer in war-time	Engi	'41.1.3
Guard for factories, shops and offices	"	'41.1.1	Fire watching and fighting—police officer's notebook pump	MG	'41.1.4
Compulsory self-defence	"	'41.1.1	The fire watch—appeal to cotton mill owners	"	'41.1.4
Changes in reserved jobs	MG	'41.1.1	Cotton's part in war — a Lancashire exhibition	"	'41.1.4
Fire-bomb fighters—editorial	"	'41.1.1	Raid shelters Changes in plans for control	LT	'41.1.4
Fire watching for all by compulsion	"	'41.1.1	Good news for shelters	"	'41.1.4
More volunteers wanted for fire watching	"	'41.1.2			

A small town standing ready	MG	'41.1.6	Air Raid Precaution discussed—editorial	MG	'41.1.9
Raid precautions in Manchester—fire pickets	"	'41.1.6	Feeding the guns—editorial	"	'41.1.9
Help for almoners' dependents	LT	'41.1.6	Lessons of the bombing	LT	'41.1.9
Escape from city fires	"	'41.1.6	Fire watchers for churches	"	'41.1.10
Raid damage to property	"	'41.1.6	The tank in modern warfare	"	'41.1.10
Loan of u. s. arms	"	'41.1.6	Domestic fire pickets—a start—editorial	MG	'41.1.10
Whistle warning of fire bombs	"	'41.1.6	Conscription for civil defence?—fire watch difficulties	"	'41.1.10
Sunday cinemas for the services	"	'41.1.6	Sickness in the A. F. S.—pay anomalies	"	'41.1.10
Fires soon put out	"	'41.1.7	Air Raid Precaution Organization at collieries	ICTR	'41.1.10
Purchases abroad	"	'41.1.7	Defects of war damage bill	LT	'41.1.10
After the city fires	"	'41.1.7	Hospitality for A. R. P. workers	"	'41.1.11
A city of fire-fighters—Regional Commissioner's call	MG	'41.1.7	New r. u. f. training scheme	"	'41.1.11
Incendiary bomb precautions	LT	'41.1.7	Buckets	"	'41.1.11
Requests into Air Raid Precautions—editorial	MG	'41.1.8	After the city fires	"	'41.1.11
Fire-fighting as a National Service—Auxiliary A. F. S. and Union	"	'41.1.8	Gas mask drill for all	"	'41.1.11
Manchester City Council's "Inquest" on the raids	"	'41.1.9	New air training camps—widespread interest	MG	'41.1.11

附 録 防 防

Fire watching—compulsion in Manchester	MG	'41. 1.11	Men and women who defied bomb and fire	MG	'41. 1.18
Fire-watchers' order—fine in a town	"	'41. 1.11	Compulsory fire-fighting	"	'41. 1.18
Good cover—editorial	"	'41. 1.11	Schoolboys' chance	"	'41. 1.20
Recruits for munition factories—Manchester trainees' center	"	'41. 1.11	Compulsory Fire-watchers	"	'41. 1.20
Women's Auxiliary Air Force 'phone operator's gallantry	"	'41. 1.11	Compulsory fire-fighting	"	'41. 1.20
'Lend or lease' Bill—air and naval bases	"	'41. 1.13	Compulsory fire-fighting	LT	'41. 1.20
Women munition workers	"	'41. 1.14	Compulsory civil defence	"	'41. 1.20
The difficulties of air attack	"	'41. 1.14	Compulsory fire-fighting	"	'41. 1.20
Fire defence	"	'41. 1.14	Service with the wrens	"	'41. 1.21
Air training corps scheme	"	'41. 1.14	New war powers for industry	"	'41. 1.22
Ballloon barrage ailes	LT	'41. 1.15	Defence against fire raids	MG	'41. 1.22
Troop canteens on trains	"	'41. 1.16	Labour for armament work	"	'41. 1.22
London's bedrooms	MG	'41. 1.16	Women tackle fire bombs	"	'41. 1.22
Shorter hours for munition workers	"	'41. 1.16	Compulsory Civil Defence	LTw	'41. 1.22
Compulsion in fire watching	LT	'41. 1.16	Transport of war goods	LT	'41. 1.23
Fire-bomb fighting	MG	'41. 1.17	More men of the wavel school	"	'41. 1.24
Compulsory fire-watching	"	'41. 1.17	Fire-prevention orders	MG	'41. 1.24
			Aircraft output	"	'41. 1.24
			Education an officer	LT	'41. 1.24
			Command of men	"	'41. 1.24
			Fire watch	MG	'41. 1.25

104

Fire prevention order in force in Manchester	MG	'41. 1.25	Fire-watching standards	MG	'41. 1.31
Education for the army	"	'41. 1.25	Air training corps	"	'41. 1.31
More women wanted for munitions	"	'41. 1.25	<b>B 合 衆 國</b>	LT	'40.10.16
Oil and the war	PT	'41. 1.25	Fire American conscripts—plans for training	MG	'40.11.26
Compensating scamen	LT	'41. 1.27	Possible new American aid—naval and financial	LT	'40.12. 9
Factory war output	MG	'41. 1.27	Problems of U. S. rearmament—solid progress	"	'40.12.16
The war workers	"	'41. 1.28	The U. S. arms drive	"	'40.12.18
Fire-watch plans	"	'41. 1.28	Mr. Roosevelt's new plan	LTw	'40.12.25
Fire-watching in Manchester	"	'41. 1.28	Lending arms to Great Britain—U. S. president's new plan	MGw	'41. 1. 3
Coconut mats for fire fighting	LT	'41. 1.29	Loan of U. S. arms	LT	'41. 1. 6
Fire-watch on houses	MG	'41. 1.29	U. S. defence effort	"	'41. 1. 6
Allowances for dependents	LT	'41. 1.29	Self-defence of America	"	'41. 1.16
Training for war industry	MG	'41. 1.30	U. S. defence weakness	"	'41. 1.17
Men up to 46 to register	"	'41. 1.30	American economic prospects and the defence programme	MGw	'41. 1.21
Trap for incendiary bombs	"	'41. 1.30	<b>C 獨 逸</b>		
Six more groups to register	LT	'41. 1.30			
Service men after the war	"	'41. 1.31			
Twelve city firms sunnounded	"	'41. 1.31			
City basements as reservoirs	MG	'41. 1.31	Bewährung der Wehrwirtschaftsorganisationen	DBZ	'40.12. 1
Fire-watchers	"	'41. 1.31			

General der Infanterie  
Johann von Schott  
Nationalität  
und Wehrwirtschafts-  
gesellschaft

主要記事月報

防 防

104

Reichsminister Hr. Goebbels	FZ	'40.12. 2	India's Mineral Resources and the War	AR	'40.10.
Der totale Bombenkrieg	"	'40.12. 2	Die Verlängerung der Mißwirtschaftszeit in Finnland beantragt	FZ	'40.12. 1
Ein Deutsch-rumänischer Zehnjahresplan	DBZ	'40.12. 6	Ein neuer Rüstungskredit in Bulgarien beantragt	"	'40.12. 1
Deutschi-italienische Zusammenarbeit auf dem Gebiet der Landwirtschaft	"	'40.12. 6	Erziehungsaufgaben in der Sowjetarmee	"	'40.12. 2
Zusätzliche Alters- und Hinterbliebenen-Versorgung	"	'40.12. 6	G 世界一般	SI	'40.12.28
How Germany trains her war workers—Compulsion an employers	MG	'41. 1. 1	V 總動員一般		
Germany's armed strength and its distribution	"	'41. 1.29	A 英 國	MG	'40. 9.24
D 佛 國			The total war—editorial	"	'40. 9.25
France and the French Army	RT	'40. 6.	The dimorphism of thought—editorial	RT	'40. 9.
„Rit-In.“ in Frankreich	FZ	'40.12.11	The British Commonwealth at War	MG	'40.10. 7
E 伊 太 利			The problem of plenty—editorial	"	'40.10.14
Der Italienische Wehrmachtbericht	FZ	'40.12. 2	The new order in Africa—editorial	"	'40.10.14
F 其他諸國			Mr. Bevin and war forces—a new orientation	"	'40.10.14
Indian Nationalism and the War	AR	'40.10.	Co-operation in Australia—Labour views and moves	LT	'40.10.15
The Indian States and their Constitution to the War	"	'40.10.	War supplies east of Suez—Delhi Conference	"	'40.10.22

Canada's war effort—raw materials, food, air training	MG	'40.10.25	Canadian arms and munitions—arsenal and training	LT	'40.11.15
Empire east of Suez—more help for Britain	LT	'40.10.26	British resources east of Suez	BIN	'40.11.16
East of Suez—editorial	"	'40.10.26	Production Council—London and South-Eastern Area Board	BTJ	'40.11.21
Industry and the war effort—message to Works Management Assn.	MLS	'40.10.	Premier on our war effort—growing strength of the Empire	MG	'40.11.22
Canada's war effort—production and export	MG	'40.11. 1	India's war effort—abundant man-power & material	LT	'40.11.23
“Collaboration”—editorial	"	'40.11. 2	Industrial link with India—better standard of living	MG	'40.11.25
Prime Minister surveys the war—naval efforts & Near East	LT	'40.11. 6	Supplies from east of Suez—report of Delhi Conference	LT	'40.11.26
Mr. Churchill's survey (of the war effort)—editorial	"	'40.11. 6	British war efforts—parliamentary	"	'40.11.28
Indian helps in the war—money, men, & material	"	'40.11. 6	Britain's productive effort—shipping losses and raids	MG	'40.11.28
South Africa's part—editorial	"	'40.11. 8	American aid—editorial	MGw	'40.11.29
South Africa in the war I—trade & American relations	"	'40.11. 8	Planning for plenty—editorial	"	'40.11.29
South Africa in the war—II—industrial prosperity	"	'40.11. 9	Empire aid in war effort—plan for the east	"	'40.11.29
Mr. Churchill surveys the war—condemns speech	"	'40.11.11	More compulsion (for war effort)—editorial	MG	'40.11.29

Contribution of individual countries in production and industry	BIN	'40.11.30	A diary of the war in 1940—second six months	MG	'41. 1. 2
Need War Mean Improvement?	Bank	'40.11.	The arsenal of democracy	MGw	'40. 1. 3
M. P. Surge more compulsion—land, chaffeur, training for munitions	MG	'40.12. 5	Real strength of Britain	LT	'41. 1. 4
"Wasting man-power and ships"—parliamentary	?	'40.12. 5	The nation's strength—editorial	MG	'41. 1. 6
Home front—call for stronger effort	?	'40.12. 5	Greater war effort	LT	'41. 1. 7
Useful help from Canada—editorial	LT	'40.12. 5	Unused resources	?	'41. 1. 7
The home front—call for stronger effort	MGw	'40.12. 6	Greater war effort—New government executive formed	LTw	'41. 1. 8
Ordered planning—editorial	?	'40.12.13	Rebuilding of Britain	LT	'41. 1. 8
The Delhi conference—IV	BIN	'40.12.14	War measures in India	?	'41. 1. 9
—(contributions of industrial countries in production & industry)	St	'40.12.21	Lack of a central policy	?	'41. 1.10
Consideration for the civilians	?	'40.12.28	Gandhism and the war	?	'41. 1.14
Industrials, Excess profit tax, and Limitation of Supplies	?	'40.12.28	"Millions of envelopes"	LTw	'41. 1.14
War supplies from the east	LT	'40.12.30	War measures in India	LT	'41. 1.15
The arsenal of democracy—editorial	MG	'40.12.31	Warnings of waste	?	'41. 1.17
			Producers of the empire	?	'41. 1.18
			A partly armed nation	?	'41. 1.21
			Economic side of nation's war effort	?	'41. 1.22
			New war powers for industry	LT	'41. 1.22
			New phase of war effort	?	'41. 1.23
			Directing the war effort	?	'41. 1.23

Mr. Churchill's speech	LT	'41. 1.23	Announcers for Britain—American eagerness to help	LT	'40.12. 6
Canada "fall out" in war production	?	'41. 1.23	Speed-up in America	?	'40.12.19
British standard specifications	Eng	'41. 1.24	Mr. Roosevelt's plan	?	'40.12.19
Supplies from east of Suez	LT	'41. 1.28	Roosevelt's plan to help Britain—arms on lease or mortgage	MGw	'40.12.20
Directing the war effort—Mr. Churchill on his task —	LTw	'41. 1.29	Negotiations to go forward	LT	'40.12.20
"New Order" in practice	?	'41. 1.29	South American situation	St	'40.12.21
—lower standard of life	?	'41. 1.29	American aid to Britain	?	'40.12.21
Canada "fall out" in war production	?	'41. 1.29	America's purpose and pledge	LT	'41. 1. 7
<b>B 合 衆 國</b>					
U. S. Supplies for Britain	LT	'40.10.25	Democracy's arsenal	?	'41. 1. 8
—production outlook	?	'40.11.21	How America plans to help Britain	?	'41. 1.11
—"all aid" programme	MG	'40.11.25	Effective aid	?	'41. 1.13
American war credits—naval and merch—antile help	?	'40.11.27	"Aid Britain" bill	LTw	'41. 1.15
How America can help—Econ. Warf. Minister's broadcast	LT	'40.12. 2	How America plans to help Britain	LT	'41. 1.31
How U. S. A. can help—tightened control	MG	'40.12. 2	<b>C 獨 逸</b>		
U. S. help for Britain—loan and convoy	LT	'40.12. 5	The Germans on the Lower Danube	BIN	'40.10.19
			Germonds in Denmark	MGw	'40.11. 1
			Führung in der Kriegswirtschaft	FZ	'40.12. 5



英 文 題 名	出 版 社	日 期	著 者	日 期
War-time life in Bremen	LT	'41. 1. 8		
Larger Soviet supplies for Germany	"	'41. 1. 13		
<b>D 佛 國</b>				
The Gold coast's plight—too much cocoa, and too few ships	MG	'40.12.17		
<b>F 其他諸國</b>				
Reawakening of Denmark—hostility to invader	LT	'40.10.15		
Sweden and the "new order"	"	'40.12.19		
Sweden and the "new order"	"	'40.12.20		
<b>VI 經濟一般</b>				
<b>A 英 國</b>				
Financial and Economic Realities	RT	'40. 6.		
Piece-goods and Made-up Goods (Cotton, Rayon and Linen order, 1940: Limitation of Supplies (Miscellaneous) Order, 1940)	BTF	'40. 8.29		
Economic mobilization measures in Canada	MGG	'40. 9.		
War Economy and Finance	RT	'40. 9.		
Prices and Wages, Trade and Employment	LCE	'40.10.		
The economic front—editorial	L/T	'40.11.29		
Economic warfare—how U. S. A. can help	MGW	'40.12. 6		
U. S. law and U. S. credit	L/T	'40.12.13		
Russ nach einem Plan	FZ	'40.12.14		
Economic policy in colonies	L/T	'40.12.18		
Economic policy in Colonies	L/Tw	'40.12.25		
Strange economy	Elec	'40.12.27		
A crisis in Production?	Bank	'40.12.		
True savings	L/T	'41. 1. 2		
The economic front	"	'41. 1. 2		
The selfridge scheme	"	'41. 1.10		
Production	MG	'40. 1.16		
A programme for economic mobilization	MGW	'41. 1.21		
Various articles	"	'41. 1.21		
Directing the economic front	MG	'41. 1.24		
Changes the better	L/T	'41. 1.24		
The war savings campaign	"	'41. 1.27		
Paying for the war	"	'41. 1.29		

英 文 題 名	出 版 社	日 期	著 者	日 期
<b>B 合 衆 國</b>				
Kontrolle plus Lenkung	FZ	'40.12.15		
Amerikanische Inflation-fürdungen	"	'40.12.15		
Alaska-Korridor?	BB	'41. 1. 7		
<b>C 獨 逸</b>				
Das Problem der Konzern Publizität	KR	9 '40. 9.		
German Economy	St	'40.10.26		
Die Bewährung der Wehrwirtschaftsorganisation	FZ	'40.12. 1		
Volkswirtschaftliche Rentabilität	"	'40.12. 1		
Reichsminister Dr. Franks Um die Auflockerung der Aktienmärkte	"	'40.12. 2		
Die Wiener Börse	DBZ	'40.12. 3		
Aufgabe der Ostmärkten Banwirtschaft	"	'40.12. 5		
Der Wirtschaftsaufbau im Osten	FZ	'40.12.12		
„Mit der deutschen Arbeitkraft schlage jede Macht der Welt.“	VB	'40.12.12		
<b>總統演說</b>				
Betriebswirtschaft in der Energieversorgung	DBZ	'40.12.12		
Metallbeschaffung und Metallersparung und Elektroinstalltionen	"	'40.12.12		
<b>70% des rumänischen Exports für Deutschland</b>	DBZ	'40.12.13		
Aufgaben der Großen deutschen Wasserwirtschaft	"	'40.12.15		
Volkliche Wirtschaftsgestaltung und nationalstaatliche Wirtschaftspolitik im deutschen Osten	Hans-Jürgen	'40.12.		
Wirtschafts aufbau und Finanzen in Mitteleuropa mit 2,000 bis 50,000 Einwohnern	L. Drost	152-6	'40.12.	
Hitler's new economic order for Europe	C. W. Sülleband	EJ	'40.12.	
Nationalsozialistische Kriegswirtschaftlich	Landpried	BB	'41. 1. 7	
<b>E 伊 太 利</b>				
La disciplina della distribuzione e del consumo dei prodotti industriali	CDS	'41. 1. 1		
Le norme per la disciplina delle requisizioni	"	'41. 1. 3		
La disciplina dei consumi	"	'41. 1. 5		
Disciplina totalitaria nella distribuzione dei prodotti	"	'41. 1. 7		
I razionamenti — Riso e pasta nell'alimentazione nazionale	"	'41. 1. 7		

I rifornimenti di carbone vegetale	CAS	'41. 1.10	Die Wirtschaftsstruktur der UdSSR	H. Schmuicker	OEM	20.7-8	'40. 7. 8.
La denuncia delle gemme degli autoveicoli	"	'41. 1.10	Die griechische Wirtschaft und der Krieg	VB	"	"	'40.10.16
Prodotti di prima pesca sista sottoposti a censimento	"	'41. 1.11	Volkstum und Wirtschaft in Nordislandungen	WTK	13.26	'40.10.19	
L'accerimento delle disposizioni di alcuni generi alimentari	"	'41. 1.14	Economic Strategy in the Balkans—I	St	"	'40.11.30	
La disciplina degli approvvigionamenti	"	'41. 1.23	Die Schweizerischen Inflationbesorgnisse	FZ	"	'40.12. 5	
Severo controllo dei consumi nelle singole province	"	'41. 1.24	Aktive Wirtschaftspolitik in Argentinien	"	"	'40.12. 5	
Prezzi, servizi e affitti—il blocco prorogato per tutta la durata della guerra	"	'41. 1.26	Einschränkung des Kohlenverbrauchs in Ungarn	DBZ	"	'40.12. 5	
Le assegnazioni della benzina per gli autoveicoli nel mese di febbraio	"	'41. 1.26	Ein rumänischer Zehn-Jahresplan	FZ	"	'40.12. 6	
Il razionamento nei pubblici esercizi	"	'41. 1.29	Der Wirtschaftsaufbau Rumäniens	DBZ	"	'40.12.13	
Produzione e distribuzione delle farine e del grano duro	"	'41. 1.30	Rumänians Wirtschaft im legendären Staat	FZ	"	'40.12.15	
<b>F 其他諸國</b>			<b>G 世界一般</b>				
Die Wirtschaftsverhältnisse der UdSSR zu den baltischen Staaten	K. L. Robinson	OEM	20. 5-6	'40. 5. 6.			
			Aufbaupläne der Wirtschaft Finnlands	W. I.	OEM	20. 3-4	'40. 3. 4.
			Der Balkan in der neuen europäischen Wirtschaftsordnung	R. Baier	"	20. 7-8	'40. 7. 8.
			Die Türkische Republik Iran als Wirtschafts- und das Kaiserreich partner Gross Deutschland	C. Zimmernann	"	20. 7-8	'40. 7. 8.

Die wirtschaftlichen Grundlagen des asiatischen Ostracmus	E. Thiehl	OEM	20. 11-12	'40. 11. 12.	The purchase tax—editorial	MG	'40.10.22
Staatliche Wirtschaftsführung in Bulgarien	BB	"	'41. 1. 3	Purchase tax—Manchester shopping	"	"	'40.10.22
Aufbau der Rumänischen Wirtschaft	G. Streier	"	'41. 1. 4	Purchase tax in operation—stocks and Xmas Savings and the means test—editorial	LT	"	'40.10.22
Axis economic talks	LT	"	'41. 1.20	Retailers and the purchase tax	"	"	'40.10.25
<b>VII 財政</b>				The incidence of Excess profit tax—disruption and hard case	"	"	'40.10.31
<b>A 英國</b>				Sources of British Treasury Borrowing	LCB	"	'40.10.
Finances of war—editorial	MG	"	'40. 9.24	Purchase tax and wool exports—West Ribing complaint	MG	"	'40.11.22
British finance after a year of war—'Buoyant' review	J. M. Keynes	"	'40. 9.24	Australia war effort—drastic in come tax increase	LT	"	'40.11.28
Purchase Tax—In Force on 21st of This Month	"	"	'40.10. 4	Paying for the war—Gaps to be filled	MGw	"	'40.11.29
Purchase tax date—regulation still possible	LT	"	'40.10. 4	Canada helps Britain to pay for war goods—edition & rayons duty	MG	"	'40.12. 4
Saving and the war—editorial	"	"	'40.10. 8	England's Furcht vor wirtschaftlicher Überforderung	DBZ	"	'40.12. 7
Date of purchase tax—parliamentary	"	"	'40.10.16	Excess profit tax under fire—unfairness and inflexibility	LT	"	'40.12. 9
Nation's savings for victory—Premier's message	"	"	'40.10.21				
Purchase tax to-day—shopping rush	MG	"	'40.10.21				
A war tax—editorial	LT	"	'40.10.21				
The purchase tax—editorial	MG	"	'40.10.21				

Financial burdens on manufacturers—Excess profit tax complaint	LT	'40.12.11	Die Grenzen der Lohnsenerziffern	FZ	'40.12.12
Financial policy—editorial	MG	'41. 1. 2	Die Steuern in der Kriegswirtschaft	DBZ	'40.12.12
Watching the expenditure	LT	'41. 1.14	Stärkste Förderung der Unternehmungslust im deutschen Osten		'40.12.12
Urgent problem of war finance	MGw	'41. 1.21	Gesunde Finanzgrundlagen	VB	'41. 1. 1
Compulsory savings or overall rationing	MG	'41. 1.21	Nazi war finance	LT	'41. 1. 4
Heavy tax inflow	LT	'41. 1.24	D 佛 國		
Larger timber supplies	#	'41. 1.25	Deutsch-französische Finanzverhandlungen	FZ	'40.12.15
Higher treasury bill rate	#	'41. 1.25	E 伊 太 利		
National revenue and expenditure	MG	'41. 1.29	Il bilancio di previsione per l'esercizio finanziario 1941—42	Gas	'41. 1. 8
Growing cost of war	LT	'41. 1.31	VIII 全 融		
Further thoughts on 100 percent E. P. T.	Tin	'41. 1.	A 英 國		
B 合 衆 國			Small Savings	EJ	'40. 6. 9.
Financial machinery adjusted to war needs	MGw	'40. 1.21	Rubber and Foreign Exchange	#	'40. 6. 9.
C 獨 逸			"War weapons"—Manchester and Liverpool rivalry	MG	'40.10.11
Die wertelständige Reichsmark	FZ	'40.12. 1	Finance & Banking in the Third Quarter of 1940	LCE	'40.10.
Die Zukunft des deutschen Kapitalexports	Von Dr. R. Arzel	'40.12. 1	Finance of Co-ordination in the Gas Industry	Bank	'40.10.
Die künftigen Finanzierungsaufgaben im Prozeß	#	'40.12.10			

Lending Policy in War time	Bank	'40.11.	Aktienkäufer ernüchtert	FZ	'40.12. 1
Progress Certificates as a Banking Security	#	'40.11.	Verkehrsgumban in der Slowakar	#	'40.12. 4
Die neuen englischen Devisenschänkungen	FZ	'40.12. 3	Mit dem Blick auf Deutschland	#	'40.12. 8
Currency war in far east	LT	'40.12.24	Neue Bestimmungen über den Wertpapierverkehr	#	'40.12.13
Marine Insurance in War time	Bank	'40.12.	Der Jahresultimo bei der Reichsbank	BB	'40. 1. 7
Life Assurance—After Fifteen Month of War	#	'40.12.	Die Arbeit der Deutschen Reichsbank	#	'41. 1. 9
Evacuation Areas and the Banker	#	'40.12.	D 佛 國		
B 合 衆 國			Die Wiedereinschaltung der Französischen Börsen	FZ	'40.12. 5
American Gold Policy and Allied War Economics	EJ	'40. 6. 9.	F 其他諸國		
Die Kapitalkonzentration in U. S. A.	FZ	'40.12. 3	Palestine Banking in War Time	Bank	'40.10.
Der Kapitalstrom nach U. S. A. hält an	#	'40.12. 3	Die ungarischen Anleihepläne	FZ	'40.12. 4
Politische Anleihen der Vereinigten Staaten	#	'40.12. 5	Eine „Sachwert-Anleihe“ in Ungarn	#	'40.12. 4
Die Gewinnkonjunkturen in U. S. A.	#	'40.12.10	G 世界一般		
C 獨 逸			The Position and Prospects of Gold	EJ	'40. 6. 9.
Berlin as International Finance Centre?	Paul Biazing	'40.11.	A 英 國		
Das Ausland kauft deutsche Börsenwerte	Bank	'40.12. 1	Wholesale Prices in August—Board of Trade Index Number	BTJ	'40. 9.12

Retail prices overseas (changes in retail prices and cost of living)	MLDS	'40. 9.	The standard of living	LT	'41. 1.15
War and the cost of living—in graph	MG	'40.10. 4	A wages policy	"	'41. 1.15
A question of prices—edi- torial	L/T	'40.10.15	The standard of living	"	'41. 1.15
Agricultural price—edi- torial	"	'40.11. 4	Markets and prices	"	'41. 1.18
Iron and Steel Control	BTJ	'40.11. 7	Rise in rayon prices	"	'41. 1.18
New Maximum Prices	MG	'40.11. 9	Price policy and consump- tion	MGw	'41. 1.21
The cost of living in the war—shown in graph	"	'40.11. 9	Cost of living	MG	'41. 1.22
British wholesale prices still stable—1% up in October	"	'40.11.15	Food prices	"	'41. 1.22
Changes in retail prices and cost of living	MLG	'40.11.	Municipal officers	"	'41. 1.27
Cost of living in the war —in diagram	MG	'40.12. 4	Excessive charge for eggs	"	'41. 1.29
Retail Trade in October Comparison of 1940 with 1939	BTJ	'40.12. 5	Increasing cost of produc- tion affects the price of wool	TM	'41. 1.31
Wholesale prices in Oc- tober	L/T	'40.12. 7			
A wages policy	"	'41. 1. 4	<b>C 獨 逸</b>		
Wages in war-time	"	'41. 1. 4	Verschlärft Preisaufsicht	FZ	'40.12. 5
Engineering unions' wages claim	"	'41. 1. 7	Die Kalkulation für neue Erzeugnisse	"	'40.12. 7
Farming policy	"	'41. 1.13	Verschärfte Preisaufsicht	"	'40.12. 8
			Unsichtbare Preiswellen	JNS	152-6 '40.12.
			Die Preise im Dezember und im Jahre 1940	WS	21 1 '41. 1.
			<b>F 其他諸國</b>		
			Preisstop und Preisüber- wachung in Dänemark	FZ	'40.12.10
			Preisstop auch in Bulgari- en	"	'40.12.10

<b>G 世界一般</b>					
Die Lebenshaltungskosten in der Welt im 2 Vier- teljahr 1940	WS	20. 16 '40. 8.	British standard specifica- tions	Engi	'41. 1.10
Die Lebenshaltungskosten in der Welt im 3. Vier- teljahr 1940	"	20. 21 '40.11.	British share of U. S. output	L/T	'41. 1.11
Die Grosshandelspreise im Ausland	"	20. 24 '40.12.	Production and man-power	"	'41. 1.16
<b>X 英 國</b>			Women's place in industry	"	'41. 1.16
Britain's productive effort —Mr. Greenwood's statement	MGw	'40.11.29	Standards of living	Engi	'41. 1.17
Starke Zinkverknappung in Grossbritannien	DBZ	'40.12. 7	Safety first	MGw	'41. 1.21
Individual output in in- dustry—Br. result better than German	L/T	'40.12.11	Various articles	L/T	'41. 1.22
Veterans of industry	"	'40.12.16	Rallying man-power	"	'41. 1.22
U. S. production record	"	'40.12.30	Full use of powers	"	'41. 1.22
Salvage in the city	"	'41. 1. 4	Man-power in industry	"	'41. 1.22
Post-war industry	"	'41. 1. 6	Registration of industry	"	'41. 1.23
War production and im- ports set up—Executive Committee of Ministers	MG	'41. 1. 7	A register for industry	"	'41. 1.30
A production Executive— post war reconstruction Production—editorial	"	'41. 1. 7	<b>B 合 衆 國</b>		
			Tägliche Rohseidenge- winning der U. S. A. erreicht 147000t	DBZ	'40.12. 7
			The U. S. arms drive	L/T	'40.12.16
			<b>C 獨 逸</b>		
			Das Deutsche General- gouvernement Polen	OEM	20. 7/8 '40. 7.
			Die Wareneinfuhr nach dem Generalgouverne- ment	VB	'40.11.17
			Zellstoff aus Elefantengras	DBZ	'40.12. 6
			Zuwachs oder Ballast?	FZ	'40.12. 8
			<b>H. Gauweiler</b>		

Kartellfrage in der Druckindustrie	DBZ	'40.12.15	Destruction of rabbits—the spooning process	LT	'40.10.28
Die natürlichen Ertragsfaktoren—Boden, Klima und Geländegestaltung—in ihrer Beziehung zur Verteilung der Betriebsgrößenklassen in 26 Landkreisen	BL	Sender 151 '40. Morgen	Recent research of Empire products—agriculture and forestry	BIT	'40.10.
<b>F 其他諸國</b>			Allotment in Manchester—more tenants wanted	MG	'40.11.1
Die Rohstoffvorkommen der UdSSR	OEM	20. 3/4 '40. 3.	Rais or the farm—enemy of the food campaign	LT	'40.11.18
Niedergang der Baumwollausfuhr der U.S.A.	DBZ	'40.12.4	Farming profits—effect of higher valuations	MG	'40.11.25
Gummi und Opanken	FZ	'40.12.3	Agricultural policy—editorial	MGw	'40.11.29
Die Rohstoffgrundlage der Schweiz	"	'40.12.7	Agricultural policy—editorial	LT	'40.11.30
Leistungssteigerung in der Sowjetrussischen Eisenindustrie	DBZ	'40.12.8	Farms and beech woods.	MG	'40.11.
<b>XI 農林、畜產及水產業</b>			Unemployment in agriculture—review of persons unemployed for a month or more	MIG	'40.11.9
<b>A 英國</b>			Cropping for next year—the choice before farmers	LT	'40.12.16
Produce prices and costs effect of excess profit tax	LT	'40.10.14	Special subsidy for bill sheep—to cost £700,000	MG	'40.12.13
Farming under control—the act of 1920	"	'40.10.19	Working of clay soils—drainage and lime—editorial	"	'40.12.14
Uneven prices & distribution	"	'40.10.22	Farming notes and comments	LT	'40.12.16
The farmers and his needs—stable conditions	"	'40.10.24	Farm workers in the forces	"	'40.12.16
			Women on the land	"	'40.12.23

Agriculture in the future	LT	'41.1.6	Achsenzusammenarbeit in der Landwirtschaft	YB	'40.12.6
Plough moorlay	"	'41.1.6	Langfristige Planung in der deutsch-italienische Arbeit auf diesem Gebiete	FZ	'40.12.10
Agriculture in the future	"	'41.1.9	Die Käferfreie Kartoffel Das häuerliche Arbeitsprogramm	"	'40.12.15
Egyptian cotton—government the sole importer	MG	'41.1.9	Allgemeine agrarpolitische Massnahmen	BL	26. 1'40.
Farming notes and comments	LT	'41.1.13	Der Investitionsbedarf der deutschen Landwirtschaft nach dem Kriege	WIK	14. 1'41. 1.24
Farming policy	"	'41.1.13	Die Viehhaltung in den landwirtschaftlichen Betrieben	WS	21. 1'41. 1.
Unrilled land	MG	'41.1.13	Der Anbau von Gemüsen in Jahre 1940	"	21. 1'41. 1.
More land under plough	LT	'41.1.14	<b>D 佛 國</b>		
More wheat to be grown in cere	MG	'41.1.18	Die Organisation der französischen Landwirtschaft	FZ	'40.12.10
The pruning of fruit trees	"	'41.1.25	<b>E 伊 太 利</b>		
Fruit in the garden	"	'41.1.25	Estate unida e produttori alimentari cospicue	CAS	'41.1.1
Seeds or plants for waste places?	"	'41.1.27	Il favorevole bilancio dei raccolti agricoli del 1940	"	'41.1.15
Agricultural prices	LT	'41.1.27	La disciplina dei consumi Il grano curco e la nostra	"	'41.1.31
Work of the land girls	MG	'41.1.27			
Ugly spots	"	'41.1.29			
Home-grown timber	"	'41.1.30			
Shilled men on farms	LT	'41.1.31			
Horse's rations	MG	'41.1.31			
<b>C 獨 逸</b>					
The deutsch-italienische Zusammenarbeit	FZ	'40.12.6			
Agrarpolitische Zusammenarbeit	"	'40.12.6			

空 鐵 鋼 鋁

11111

<b>F 其他諸國</b>						
Die Entwicklung der Baumwollzweigung und des Baumwollensort Handels in der UdSSR	K. Kerkow	OEM	20.3-4	'40. 3.	VB	'40.11. 7
A new rubber survey of Tropical America		BIT		'40.10.	LT	'40.12. 7
Die Lederwirtschaft in der UdSSR	H. L. Kz.	OEM	20.11-13	'40.11. 11.		
Die Bedeutung des Waldes für den bedrohten Wärsorhanhalt der russischen Ebene	Buechholz	"	20.11-12	'40.12. 11.	MG	'40.12.17
<b>G 世界一般</b>						
Identification of animal fibres		BIT		'40.10.	"	'40.12.31
Anbau und Ernte im Anstand		WS	20. 21	'40.12.	Engi	'41. 1. 3
<b>XII 礦 業</b>						
<b>A 英 國</b>						
Safety in mines—proposed new inspection procedure		MG		'40. 9. 3	ICTR	'41. 1. 3
Canada's mineral resources in relation to the war effort	R. S. Marrindale	BIT		'40.10.	MG	'41. 1.17
Progress in colonial mineral industry		"		'40.10.	ICTR	'41. 1.24
Abstracts and notes—(on various mineral articles)		"		'40.10.	MG	'41. 1.28
<b>B 合 衆 國</b>						
Die Erzwirtschaft des Generalgouvernements		S-m		'40. 9. 21	PT	'40. 9.21
<b>C 獨 逸</b>						
Ol, das nicht mehr nach England fließt ff.						
Miners for the forces—South Wales protest						
Miners for the forces—reservation age and tribunal task						
Freeing miners for the army—Tribunal chairman		MG		'40.12.17		
The Durham miners and the war—editorial		"		'40.12.31		
Various articles		Engi		'41. 1. 3		
Various articles		ICTR		'41. 1. 3		
The Durham miners and the war		MGw		'41. 1. 3		
Wages in war-time		LT		'41. 1. 4		
Various articles		Engi		'41. 1.10		
Various articles		ICTR		'41. 1.17		
Mexico's mercury		MG		'41. 1.17		
Various articles		ICTR		'41. 1.24		
A tydesley pit closing		MG		'41. 1.28		

Die Umschulung bei Langenbrunn	EZ			'40.12. 1	Imp. Jns.	'40. 7. 9
Erläuterte Einfuhr von Koll aus Holland	"			'40.12. 1	MG	'40. 8.24
Die Sanierung von Langenbrunn	"			'40.12. 3	"	'40. 9. 3
<b>D 佛 國</b>						
Die Eisenbewirtschaftung in Frankreich	FZ			'40.12.13	LV	'40.10. 7
<b>E 伊 太 利</b>						
Steigende italienische Erzeinnung	DBZ			'40.12. 4	"	'40.10.10
<b>F 其他諸國</b>						
Die UdSSR als Mangenerzeuger	H. Baum	OEM	20. 5-6	'40. 5.	TM	'40.10.11
Spanische Bergwerke unter Staatskontrolle		DBZ		'40.12. 4	"	'40.10.11
Unfallpläne für die äthiopische Strom- und Brennstoffversorgung		"		'40.12.17	MG	'40.10.14
Kohlenförderung der bulgarischen Staatlichen Kohlenruben		"		'40.12.17		'40.10.16
Mangenerzförderung in Jugoslawiens Kohlenförderung auf Hochtstand		"		'40.12.17		'40.10.18
<b>XIII 工 業</b>						
<b>A 英 國</b>						
Various articles	Alm			'40.7-9		'40.10.21
Chicle, Jelutong and allied materials						
Training for work—more instructors wanted						
Men and machines—editorial						
Textiles in the war—cotton and wool						
Building for the future—new ministry						
Workers' health in winter—prevention & epidemics						
Wool goods for home use—editorial						
Will the British government buy the South American clip?						
Factories at war—editorial						
Lancashire goods for United State						
Architecture after the war—town—planning policy						
Textiles in the war—control, material						
19 standardised colours—lingerie industry						
Plain and plaid wool for the American market						

空 鐵 鋼 鋁

11111

Need for bricks — a thousand means shelter for four	MG	'40.10.22	Engineers' wages-increase refused	MG	'40.11. 6
Woolen stockings again? —No. —hosiery industry's	"	'40.10.24	Ex-service men's handicraft—exhibition in London	L/T	'40.11. 8
Factory lighting—Labour Ministry Regulation	Elec	'40.10.25	Textiles for export—Cotton Board's work	MGw	'40.11. 8
Task of new ministry (of Works and Buildings) —priority and buying	LT	'40.10.25	Mass-produced ships — British plan in U. S.	MG	'40.11.11
Building to-day and tomorrow—editorial	"	'40.10.25	Engineers' high wages —turners & machine-men	LT	'40.11.13
Courage in the workshop —equipment essential	"	'40.10.28	Versatility in leather production	MGw	'40.11.15
Factories at full speed —editorial	MG	'40.10.28	Advance of mechanization	"	'40.11.15
Cement and bricks to be controlled	"	'40.10.28	Textiles in the war —cotton, hosiery, rayon, silk	MG	'40.11.15
Cotton fabrics and fashions	"	'40.10.29	Training for war work —North-west plans	"	'40.11.16
Alternative for flax can. —was—a big gain	Shirly Institute	'40.10.30	Central rayon office —for new export drive	"	'40.11.31
Building and the war —the first task of the new Ministry	"	'40.10.31	Industrial wage claims —a special tribunal proposed	L/T	'40.11.22
Tung oil in Cyprus	Bill	'40.10.	Crossbred wool in wartime	TM	'40.11.22
Too many rubber plantation companies—competition of synthetics	MG	'40.11. 1	Importance of rayon	"	'40.11.22
Machine tool week—a new census	L/T	'40.11. 5	Trend in Indian cotton industry—responding to war conditions	"	'40.11.22

A new rayon from seaweed	TM	'40.11.22	Industrial power—editorial	L/T	'40.11.28
Management of English worsted drawing and spinning—21	"	'40.11.22	Purchase tax and the electrical industry	Elec	'40.11.29
Contracts open—war-time factory design	Elec	'40.11.22	New factory lighting legislation	"	'40.11.29
Cotton industry and coal delays—irregular arrivals	MG	'40.11.22	100% rubber quota—editorial	L/T	'40.11.29
Buildings of merit—record of war damages	L/T	'40.11.23	Stocktaking in textiles —editorial	"	'40.11.29
Protection of glass in factories—the use of substitutes	"	'40.11.25	Skilled aliens to help Britain —release from internment	TM	'40.11.30
Labour for cotton industry—inquiry into difficulties	MG	'40.11.26	A test case on wages—editorial	"	'40.11.30
Working after the series—Trade Union Cong. & roof watching	"	'40.11.27	Various articles	MLG	'40.11.
Cotton shipments—Manchester trading scheme	"	'40.11.27	More cement for shelters —Parl. Sec. to Min. of Home Security's concern	MG	'40.12. 4
Cotton export problems—by Executive Committee of the Export Council	"	'40.11.27	Canada helps Lancashire —editorial	TM	'40.12. 6
125,000 linocutlers—Manchester's part in new effort	"	'40.11.27	Use of wool in war-time	"	'40.12. 6
Rising tide of production —reply to critics	L/T	'40.11.28	The future of textile workers—provisions for years of retirement	Tn	'40.12. 6
			British engineers' export field—steps to maintain business	MGw	'40.12. 6
			Electricity for industry—the "grid" system	L/T	'40.12. 6

Electricians' war work— reservation age raised	LIT	'40.12.7	National importance of rayon	TM	'40.12.20
Working during "alerts" Manchester committee	MG	'40.12.10	Considerable variation in machinery activity in different sections—total output increased	"	'40.12.20
Competition in industry— Minister against it	"	'40.12.11	Textiles in the War—con- trol and home trade	MG	'40.12.20
Return to the factory—in- dustrial welfare	"	'40.12.12	War and the engineer	Elec	'40.12.20
British textiles need help—editorial	TM	'40.12.13	Wool	St	'40.12.21
Wool position after the war—editorial	"	'40.12.13	Proposed rubber contract Amendments	"	'40.12.21
Holidays as usual—cotton trade decision	MG	'40.12.14	Future of tin control	"	'40.12.21
British lubricating oil trade's contribution to national economy	PT	'40.12.14	Cotton allocation	"	'40.12.21
The cotton trade and Christmas—editorial	MG	'40.12.16	London's night workers	LIT	'40.12.23
Sheffield's quick recovery foreseen and self-reli- ance	"	'40.12.16	War-time street lighting	Elec	'40.12.27
Marine war risks—Mar- chester & insurance difficulties	"	'40.12.16	Lighting conferences	"	'40.12.27
Glass roofs—fabric pro- tection for cotton mills	"	'40.12.17	Rubber prices	St	'40.12.28
Glass roofs—fabric pro- tection for cotton mills	"	'40.12.17	Future of tin restrictions Tin restriction scheme under discussion	MG	'40.12.28
Treating air-raid wounds —plaster-cast methods	"	'40.12.18	Finness for industry	"	'41.1.1
			Trade and industry	LIT	'41.1.2
			British textile overseas— editorial	TM	'41.1.3
			The danger of ill-assort- ed stocks of raw ma- terial—new wool control	"	'41.1.3

Air-raid shelter warming	Elec	'41.1.3	Textiles in the war	MG	'41.1.17
Industrial light condition- ing	"	'41.1.3	Rise in rayon prices	LIT	'41.1.18
Various articles	ICTR	'41.1.3	Limited supplies of dyes- tufts	MG	'41.1.18
Various articles	Engi	'41.1.3	Cotton industry short of coal	"	'41.1.18
Various articles	ICTR	'41.1.10	Chemical control Board	"	'41.1.20
Civilian wool trade pro- blems	TM	'41.1.10	Textile industries under control	MGw	'41.1.21
Production and imports	Elec	'41.1.10	Various articles	"	'41.1.21
Electricity Supply—nica industry in Canada	"	'41.1.10	Lan-shine's coal problem	MG	'41.1.21
Various articles	Engi	'41.1.10	New steps to increase war production	"	'41.1.22
Centric committee ap- pointed	LIT	'41.1.11	Engineering and ship- building	LIT	'41.1.22
Woolen designs for ex- port	MG	'41.1.16	Various articles	ICTR	'41.1.24
Egyptian cotton buying	"	'41.1.16	Various articles	Eng	'41.1.24
Plan to aid textile trade	LIT	'41.1.16	The raw cotton position	TM	'41.1.24
Engineering	GM	'41.1.16	Aircraft output	MG	'41.1.24
Hosiery and knitwear industry	"	'41.1.17	Shortage of cotton labour	"	'41.1.25
Various articles	ICTR	'41.1.17	Knitting and crochet	"	'41.1.27
Factories and their can- teens	Elec	'41.1.17	Factory war output	"	'41.1.27
Factory canteens	"	'41.1.17	Training for war indus- try	"	'41.1.30
Electricity in agriculture	"	'41.1.17	Mobilising the country's British woollens	"	'41.1.30
Wool and other fibres	TM	'41.1.17		"	'41.1.31





Development in Alberta oil fields—hopes of rising	PP	'40.11.2	Coal coming to Lancashire—difficulties explained	Nine Minister	MG	'40.11.28
Coal shortage mild in Manchester—cooperation may buy	MG	'40.11.6	Preservation of our (de-critical) industries	Elec	'40.11.29	
Coal—editorial	"	'40.11.6	Oil for Japan	MG+W	'40.11.29	
London's coal stocks—transport problem	"	'40.11.6	Warlike development of gas traction in Great Britain	PT	'40.11.30	
Coal shortage—canals way out?	"	'40.11.7	Wrongful use of "litre" petrol—fine of £30	MG	'40.12.3	
Lancashire's coal shortage—handicap to industry	"	'40.11.9	£30 fine for misuse of petrol lifts an journey	LT	'40.12.3	
Coal and transport—editorial	LT	'40.11.11	Coal on sidings—parliamentary	MG	'40.12.4	
Oil and the axis—editorial	"	'40.11.12	An appeal to the petroleum industry	PT	'40.12.14	
Civic coal-buying—Manchester awaiting authority	MG	'40.11.14	Sirena Romana under present conditions	"	'40.12.14	
Oil and the war	PT	'40.11.16	Rationing and conservation of British oil supplies	"	'40.12.14	
Diesel engine and full progress in 1939	"	'40.11.16	Export policy controversy	St	'40.12.14	
Trade notes and literature	"	'40.11.16	Problems of coal distribution	LT	'40.12.19	
Need for united action	Elec	'40.11.22	Electricity in government building	Elec	'40.12.20	
Trade Union Congress to investigate coal troubles	LT	'40.11.28	The coal levy scheme	St	'40.12.21	
Coal to mobilize labour—parliamentary	MG	'40.11.28	Recent developments in internal combustion engines	PT	'40.12.28	

News in the (oil) industry	PT	'40.12.28	Oil and the war	PT	'41.1.11
Oil and the war	"	'40.12.28	Higher coal prices—increase in wages	MG	'41.1.13
An appeal to the petroleum industry	"	'40.12.28	Various articles	ICTR	'41.1.17
Rationing and conservation of British oil supplies	"	'40.12.28	Bire's supplies	MG	'41.1.17
Coal war levy	St	'40.12.28	Cotton industry short of coal	"	'41.1.18
Various articles	ICTR	'41.1.3	Public electricity supply	MG+W	'41.1.21
Various articles	Engi	'41.1.3	Lancashire's coal problem	MG	'41.1.21
Restricted coal supplies	LT	'40.1.6	Various articles	ICTR	'41.1.24
Cardiff "front line courage"	"	'41.1.9	Petrol coupons	PT	'41.1.25
Petrol coupons— theft and receiving	MG	'41.1.9	Helpyour neighbour with coal	LT	'41.1.28
Various articles	ICTR	'41.1.10	Petrol-coupon theft alleged	MG	'41.1.29
News in the (oil) industry	Engi	'41.1.10	Immobilised wagons and idle pits	"	'41.1.29
An appeal to the petroleum industry	PT	'41.1.11	U. S. defence programme and oil company disintegration	PT	'40.11.16
Further evidence of co-operation in British labreating oil trade	"	'41.1.11	Notes on the U. S. oil situation	"	'40.11.16
Bire petrol supply difficulties	"	'41.1.11	Notes on the U. S. oil situation depicted graphically	"	'40.12.14
Rationing and conservation of British oil supplies	"	'41.1.11	U. S. statistical situation	"	'40.12.28
			Some notes on the tanker types of the American Great Lakes	"	'40.12.28

Notes on the U. S. Oil situation	PT	'41. 1.25	Motor und Maschine in den Tropen .	PZ	'40.12. 8
<b>C 獨 逸</b>			The changing face of Rumanian oil industry	PT	'40.12.14
Erdwirtschaft des Generalregiments	S-M	OEM 20. 5 <sub>g</sub>	Sowjetrussische Cellulose	PZ	'40.12.15
German oil needs—coming shortage.	MG	'40.10. 8	Does Middle East really mean oil for the Axis?	PT	'41. 1.11
Germany's oil supplies	MGw	'40.11. 1	Political and oil conditions in Rumania to-day	"	'41. 1.25
German use of Rumanian oilfields—lack of staff & equipment	LT	'40.11.12	<b>G 世界—般</b>		
Germany's oil supplies—a coming shortage	MGw	'40.11.29	Europe's liquid fuel supplies	BIN	'40.10. 5
Growing weight of R. A. F. offensive against Nazi oil plants	PT	'40.11.30	Bombing Rumanian oilfields as a policy?—varied views	PT	'40.11.30
The Rumanian oil industry vis-à-vis the Axis—the Tinea-Libesti field	"	'40.11.30	World crude oil output in September	"	'40.12.28
Wasserwirtschaftliche Aufgaben in Ost-Oberschlesien	DBZ	'40.12. 1	World crude oil output in October, 1940	"	'41. 1.11
Windkraftwerke für die holländische Landwirtschaft	"	'40.12. 3	<b>XV 商業及外國貿易</b>		
<b>F 其他諸國</b>			<b>A 英 國</b>		
Verstaatlichung der Oelkettingen in Rumänien	FZ	'40.12. 6	Export of rayon goods—organized campaign	MG	'40. 8.22
Auftakt im rumänischen Oelgewerbe	"	'40.12. 8	Pressure of our blockade—looted oil stock	"	'40.10. 3
			Success of the blockade—neutral's stock	LT	'40.10. 3
			London exporters carrying on—in spite of bombs	"	'40.10. 7

Compulsory war insurance—editorial	LT	'40.10. 9	Retail Trade in September comparison of 1940 with 1939	BTS	'40.11. 7
Encouraging the export trade—"all in" insurance policy	MG	'40.10.10	The branded knitting-wool associations and its aims	MGw	'40.11. 8
Insurance against war damage—compulsory and voluntary	"	'40.10.17	Export trade in cotton yarns	"	'40.11. 8
The outlook for exports—Russia as importer	LT	'40.10.23	A better outlook for cotton piece goods	"	'40.11. 8
Oversea Trade in September	BTS	'40.10.24	The place of research in textile export policy—some suggestions	"	'40.11. 8
Export Drive	"	'40.10.24	Export trade in woollens and worsted	"	'40.11. 8
Insurance against war risks—premiums & credits	LT	'40.10.29	Commodity war risk fund—rate of premium	LT	'40.11.11
War Risk Commodity Insurance Scheme	BTJ	'40.10.31	Anglo-Spanish - Payments Agreement	BTJ	'40.11.14
Wartime Export (Tuanan) Leases	Bank	'40.10. 40.10.	Export Group	"	'40.11.14
Export Policy Reviewed	"	'40.10. 40.10.	More discriminating export drive	MG	'40.11.14
The Scope for Overseas Trade Expansion	"	'40.10. 40.10.	Britain's export policy—mobilized three fold plan	"	'40.11.14
Steel import cost	LT	'40.11. 1	Slippers for export	MGw	'40.11.15
Compulsory commodity insurance	MGw	'40.11. 1	Research in the leather trade	"	'40.11.15
Lamshawe exports in the war—textile goods: shown in graph	MG	'40.11. 2	Helping leather goods exports	"	'40.11.15
Fall in retail trade—Purchase Tax & peoples shift	LT	'40.11. 7			



Boots and shoes for export—manufacturer's reductions	Mtiw	'40.11.15	Practical Difficulties in the Control of Export Proceeds	Bank	'40.11.
Supplies to the home market to be halved	MtG	'40.11.16	Rubber for dollars—Intern Rubber Committee's decision	L/T	'40.12. 2
Home trade—restrictions, luxuries, & "near necessities"	"	'40.11.16	England's Zaklungseröven in U. S. A.	EZ	'40.12. 3
An export policy experiment—to surmount the U. S. tariff	L/T	'40.11.18	The blockade and after—editorial	L/T	'40.12. 3
India's trade and Japan—editorial	TM	'40.11.22	Export of rubber—profit and producer	"	'40.12. 3
England's Zufuhrwege unter deutscher Kontrolle	VB	'40.11.26	Road Machinery Export Group	BJJ	'40.12. 5
Credit restrictions—trade under war conditions	MtG	'40.11.12	Blockade working wool—Economic Warfare Minister's declaration	MtG	'40.12. 5
Exports down—in October 1940	"	'40.11.28	Trade with Turkey—new agreement	L/T	'40.12. 5
Severe export reduction in October	"	'40.11.28	Export markets, XVI—Iraqi War-time lighting	Elec	'40.12. 6
Plan to aid cotton export	L/T	'40.11.29	What hopes of export recovery?	St	'40.12. 7
Wool goods for U. S. A.—editorial	TM	'40.11.29	Limited foreign markets	"	'40.12. 7
Lancashire's exports in the war—expressed in diagram	MtG	'40.11.30	"Coal-free" imports	"	'40.12. 7
The United Kingdom Commercial Corporation	Bank	'40.11.	Canadian import policy	"	'40.12. 7
			The insurance bill	L/T	'40.12.12
			Three schemes for war damage insurance—plan to cover personal casualties	MtG	'40.12.12

Insurance against war damage	L/T	'40.12.12	Trade and industry	L/T	'41. 1. 2
War insurance	MtGw	'40.12.13	Lancashire's exports in the war—in graph	MtG	'41. 1. 2
Enterprise of export houses in maintaining export trade	TM	'40.12.13	Exports & imports of textiles January—October, 1940	TM	'41. 1. 3
Boots and shoes for export—Britain's lead	MtGw	'40.12.13	Cotton and rayon exports	"	'41. 1. 3
Home export	St	'40.12.14	British imports and exports of coal, iron and steel, machinery hardware, etc. in November	ICTR	'41. 1. 3
Growing trade with Turkey	L/T	'40.12.19	The cotton trade	MtGw	'41. 1. 3
Export markets—XVII—Eire	Elec	'40.12.20	Round the shops	L/T	'41. 1. 6
Textiles for exports	MtGw	'40.12.20	Export trade as a british weapon	"	'41. 1. 6
Australia wants export trade—editorial	TM	'40.12.20	Principal importers	"	'41. 1. 7
Post-war trade problems—avoiding unemployment	MtG	'40.12.21	Piece goods for Egypt—still no quote	MtG	'41. 1. 9
Wool goods labels for U. S. A.	TM	'40.12.27	Exports	Engl	'41. 1.10
Difficulty in fully replenishing retailers' stock of wool goods	"	'40.12.27	Export markets—XVIII—Br. West Indies	Elec	'41. 1.10
(City notes)	L/T	'40.12.27	Textile goods lost by bombing	L/T	'41. 1.10
Shop hours in winter	MLG	'40.12.	Commodity pool claims	"	'41. 1.11
Cancellation of bank holidays	"	'40.12.	Restocking textiles—clearing scheme	MtG	'41. 1.11
The Proceeds of Invisible Exports	H. C. F. Bank	'40.12.	Greatest blockade in history	L/T	'41. 1.13
			Woolen designs for export	MtG	'41. 1.16

International trade	L/T	'41. 1.16	Die Absatzziele der USA— Baumwolle	BB	'41. 1.10
Engineering	MG	'41. 1.16			
Alleged trading with enemy	L/T	'41. 1.18			
Markets and prices	/	'41. 1.18	<b>C 獨 逸</b> Die Entwicklung der deutsch-mandschurischen Handelsbeziehungen	ORM	20. 7-8 '40. 7.
Knitting wool—supplies and exports	MG+w	'40.11. 8	Zukunftsaussichten im Aussenhandel Deutsch- land—Europa und Per- sien	H.	Hellner / 20. 7-8 '40. 8.
Fire on short commons? <sup>2</sup>	MG	'41. 1.18	Der Erfolg der Zollingh- oderung Staatssekretär- Dr. Landfried in Prag	FZ	'40.12. 1
Various articles	MG+w	'41. 1.21			
Manchester's free trade hall	MG	'41. 1.21			
Alleged trading with enemy	L/T	'41. 1.21	Der Aussenhandel gut ge- halten	/	'40.12. 4
Copper for allied use	/	'41. 1.22	Wareverkehr mit dem Protektat	DBZ	'40.12. 6
Wool goods overseas	TM	'41. 1.24	Befriedigender Geschäfts- gang bei den Essener Steinkohlenerzwerken	/	'40.12. 6
Trade control methods	MG	'41. 1.25	Vorbereitung für künftige Handelspolitik	/	'40.12. 7
Diplomacy and trade	/	'41. 1.27	Handelskammer in Nord- siebenbürgen	/	'40.12. 8
Cotton and rayon exports in 1939	TM	'41. 1.31			
Recovery in exports	L/T	'41. 1.31			
Higher exports in De- cember	MG	'41. 1.31	<b>D 佛 國</b> Wieder Wareverkehr zwischen Italien und Frankreich	FZ	'40.12.10
Malaya and restriction	Tia	'41. 1.			
<b>B 合 衆 國</b> Der Aussenhandel der Ver- einigten Staaten von Amerika im ersten Jahre des Krieges	WS	20. 22 '40.11.	<b>F 其 他 諸 國</b> Kriegsauswirkungen auf den südamerikanischen Aussenhandel	WS	20. 16 '40. 8.

Der Ausbau der Handels- beziehungen Sowjetruss- lands mit Nord- und Südosteuropa	W. I.	OEM	20.9-10 '40.10. 9.	Winter travel in London —interchangeability of services	LT	'40.10.21
Problems of the South American Markets	Bank		'40.10.	Railway rates increase— workmen's fares ex- empt	MG	'40.10.24
Ungarns handelspolitische Orientierung	DBZ		'40.12. 7	Higher railway fares—war cost and damage	L/T	'40.10.24
Argentine prospects for textiles	TM		'40.12.13	Railways and the spiral— editorial	/	'40.10.24
Russlands Handel auf neuen Wegen	BB		'41. 1. 5	Telephone and telegraph —priority calls	/	'40.10.28
<b>G 世界一般</b> Die Neuordnung des fin- nischen Aussenhandels	W. I.	OEM	20.9-10 '40.10. 9.	Public transport in alert— Manchester & Salford	MG	'40.10.29
International trade	L/T		'41. 1.11	Transport during raid— editorial	/	'40.10.29
<b>XVI 交通及通信</b>				Public transport in alert— Manchester & Salford	/	'40.10.30
<b>A 英 國</b>				The motorist's part—cli- torial	L/T	'40.10.30
Shipping Control	RT		'40. 6.	Higher railway fares—in- flation & food cost	/	'40.10.31
Rail fares inquiry—"in- quitos" request for in- crease	MG		'40. 8.27	The Ministry of shipping —service at cost	/	'40.11. 4
A survey of our position at sea—lendanis on navy	/		'40.10. 8	Night buses for workmen only—compensation for July	MG	'40.11. 4
War on merchant ship- ping—comparison with 1917—8	L/T		'40.10.11	Towns packed by refugees —Ministry's supervision needed	L/T	'40.11. 5
Business firms' complaints —telephone and posts	/		'40.10.19	Getting home from work —editorial	MG	'40.11. 5

Manchester buses and night "alerts"—position yet unclear	MG	'40.11.5	Manchester reply to rail-ways—reserve and gas undertakings	MG	'40.11.22
Manchester buses in "alerts"—situation cleared	"	'40.11.6	Quicker letter delivery—first post next day	LT	'40.11.23
The Empire air scheme—progress & Australia	LT	'40.11.7	Saving vital shipping—German driver back	Shipping Minister	'40.11.27
Railway rates controversy spiral and wages	"	'40.11.9	Shipping losses—editorial	MG	'40.11.28
Piers and harbours—editorial	MG	'40.11.12	England locked out for Auslander-Kristen	FZ	'40.12.1
Manchester to work during "alert" periods—group spitting	"	'40.11.12	Die britischen Schiffver-luste	"	'40.12.4
Railway and coal supplies—no domestic shortage in Manchester	"	'40.11.13	Merchant ship losses—escort problem for the navy	LT	'40.12.4
The railways agreement—nationalization and pro-fiteering	"	'40.11.14	The menace to shipping—test of compulsion	"	'40.12.5
Use of railways in war—the new agreement—parliamentary	LT	'40.11.14	The U. S.'s merchant fleet—British purchase	"	'40.12.7
(Co-ordination of transport—parliamentary	"	'40.11.14	Helping the post office—Liverpool suggestion	MG	'40.12.11
Navicent area extended—African waters	MG	'40.11.14	Christmas posts—editorial	"	'40.12.12
Empire air scheme—Canada's big part	"	'40.11.16	Our shipping needs—American help	MGw	'40.12.13
Delay in unloading wagons—Manchester's coal shortage	"	'40.11.21	Training our air crews—a great speed-up	MG	'40.12.14
			War on merchant shipping	LT	'40.12.16
			Half-crown traffic—technical collections—editorial	MG	'40.12.18

Rising death-rate on the roads	LT	'40.12.19	Reduced fares for soldiers' wives	LT	'41.1.7
Empire air links—new importance	MG	'40.12.21	Wireless sets for the forces	"	'41.1.7
Strenuous year for rail-ways	LT	'40.12.31	Old ports and new ships—war-time excitements	MG	'41.1.7
The mail's delays—editorial	MG	'41.1.1	Interrupted bus journeys	LT	'41.1.8
Fewer trains for passengers—heavy coal traffic	"	'41.1.1	Fewer shipping losses	"	'41.1.9
New vessels denied to shipowners	LT	'41.1.2	Cotton yarn exports—all to be licensed	MG	'41.1.9
Street accidents in 1940—Oldham's record	MG	'41.1.2	Central billeting control needed	LT	'41.1.10
Drawing the blinds in trains	LT	'41.1.3	News of ships by wireless	"	'41.1.11
How the railways carry on—the control centers	MG	'41.1.3	Britain's seaborne supplies	MG	'41.1.14
Traffic accidents—marked improvement	"	'41.1.3	Road accidents in "black-outs"	"	'41.1.17
Long-distance travelling free—hitch-hiker and helper	"	'41.1.3	The position of British shipping	Engl	'41.1.17
Empire ships—building yards in the dominions	"	'41.1.3	Travel dangers in the black-out	LT	'41.1.17
Seahafen Manchester	Ernst Schultze	'41.1.3	Britain's need of ships	MG	'41.1.20
Railway pool's first year	LT	'41.1.6	Road Deaths	LT	'41.1.21
From town to country	"	'41.1.7	Dangers of the rush home	"	'41.1.21
Glasgow decision reversed	"	'41.1.7	For service travellers	MGw	'41.1.21
			Road transport difficulties	"	'41.1.21
			Road and rail	"	'41.1.21



附 錄 社會及勞動

Young workers' welfare—nursery problems	LT	'40.10.25	Looking after the homeless—London's machinery	MG	'40.11.13
Hostels for the homeless—caring for raid victims	"	'40.10.26	Huge labour power expansion women's bigger part	"	'40.11.15
Charges for air-raid victims—editorial	MG	'40.10.26	A conference of shop stewards—war conditions discussed	"	'40.11.18
The war hat—editorial	"	'40.10.28	Health insurance benefits—50% increase demanded	"	'40.11.20
Rehousing—Salford scheme stopped by the war	"	'40.10.29	Training (for workers)—editorial	"	'40.11.20
Worker's cottage—when London evacuate must quit it	"	'40.11.2	A wage policy—editorial	LT	'40.11.23
Supplementary old-age pensions—parliamentary grant for refugees—healthless burden	"	'40.11.7	Wage increase—average 10% since war	MG	'40.11.29
Smothering the figures of the unemployed—editorial	"	'40.11.8	Amalgamated Engineering Union wages deal lack—arbitration	"	'40.11.29
Safety and care of cotton workers—a big problem	"	'40.11.12	Labour supply in Northwest—a new Committee	"	'40.11.29
Trade dispute act—civil servants' request	"	'40.11.12	Earnings of workers—Ministry's inquiry	LT	'40.11.29
More women out of work—unemployment returns	"	'40.11.12	Engineer's wages deadlock—claim to arbitration	"	'40.11.29
The wholly unemployed—editorial	LT	'40.11.12	Youth Service Corps—Haldane's task in 1906	"	'40.11.30
Unemployment figures—more women workless	MG	'40.11.12	Shortage of nurses—Northern hospital for incurables	MG	'40.11.30

1 四 1

Wage policy—editorial	MG	'40.11.30	Rehousing the homeless	LT	'40.12.21
Various articles	MLG	'40.11.	Unemployment in November	St	'40.12.21
The trade unions	ST	'40.12.7	Women on the land	"	'40.12.23
Wholly unemployed down by 32,000—the hard care	MG	'40.12.11	London's night workers	LT	'40.12.23
Ten man power-reserve—editorial	LT	'40.12.11	Labour officers in the colonies	MG	'40.12.28
Further fall in unemployment—November totals	"	'40.12.11	Miners' message to Europe—coming end of Nazism	"	'40.12.30
To save (colleges)	"	'40.12.12	Trade unionise and colonial service—editorial	"	'40.12.30
Board and lodging	"	'40.12.12	Labour for the land	LT	'40.12.30
The unemployed—a better return	MG	'40.12.13	War-time houses of new type	"	'40.12.30
Need for electrical operatives	Elec	'40.12.13	Various articles	MLG	'40.12.
Compulsion or persuasion?—the problem of labour control	MG	'40.12.13	Measurement of real income	A. L. A. C. P. ygon EG	'40.12.
Mobilising man-power—editorial	"	'40.12.13	Working-class expenditure	A. L. Bowley	'40.12.
The unemployed	MG	'40.12.13	Manchester's rest centers—mistakes and short comings	MG	'41.1.2
Kriegsschadenversicherung in England	FZ	'40.12.15	The use of man-power	LT	'41.1.2
Farm workers in the forces	LT	'40.12.16	A man-power policy	"	'41.1.2
Veterans of industry	"	'40.12.16	Fitness for industry	"	'41.1.2
Civilian scheme extended	"	'40.12.19	Raid distress in Manchester—the relief fund	MG	'41.1.3
			People who lost their jobs—many at work again	"	'41.1.3

主要記事月報

社會及勞動

1 四 11





附 錄 社會及勞務

Training for war industry	MG	'41. 1.30	Trade Union Collaboration in South Africa	ILR	'41. 1.
The "daily worker"	"	'41. 1.29	<b>B 合衆國</b>		
Labour for war industries	LT	'41. 1.29	American labour and defence—appeal to avoid delays.	LT	'40.11.27
Suppression of "daily worker" approved by 297 to 11	MG	'41. 1.29	St. Lawrence seaway—Mr. Roosevelt's plan	MGw	'40.12.17
Man-power	"	'41. 1.30	Inter-American Social Security Collaboration	ILR	'41. 1.
Suppression of the "daily worker"	"	'41. 1.30	<b>C 獨逸</b>		
Men up to 40 to neglect	"	'41. 1.30	The Nazi war on trade Union	MG	'40.10.10
Mobilising the country's	LT	'41. 1.31	Die neue Epoche der Wohnbaupolitik	H. W. Aust DV	15. 8 '40.11.22
Economy in man-power	MG	'41. 1.31	Die Stiftung für Opfer der Arbeit	FZ	'40.12. 1
Payments for war injuries	Engl	'41. 1.31	Welche Lohnsteuermässigungen sind möglich?	VB	'40.12. 1
Labour notes	MG	'41. 1.31	Die Freiheit in der Dunkelheit.	FZ	'40.12. 6
Fine work of the women convoy drivers	"	'41. 1.31	Der soziale Wohnungsbau Reichsbürgschaften für Heimkehrer-Kredite	"	'40.12. 6
Communists on war work	"	'41. 1.31	Entschädigungen Kriegsschäden	"	'40.12.10
The effect of the war on the organization & structure of the Canadian employment market	ILR	'41. 1.	Die Vergütung des Lohnausfalls an den Feiernagen	DBZ	'40.12.11
Wage adjustment and economic policy in New Zealand	"	'41. 1.	Der Soziale Wohnungsbau	FZ	'40.12.11
Establishment of an Inward-Department Committee on Labour Co-ordination in Canada	"	'41. 1.			

一四六

Arbeit nicht Gold	FZ	'40.12.14	Faltplatz zwischen London und New York	FZ	'40.12. 8
Der neue deutsche Wohnungsbau nach dem Kriege	WTK	13. 31 '40.12.28	Die Kirche, das binnich Opening of a Workers' hospital in Peru	B	'41. 1. 5
German labour scarcity	LT	'41. 1.10	<b>G 世界一般</b>		
The workers in sudeten germany	MG	'41. 1.16	Cost of living and food prices	ILR	'41. 1.
Reader warns workers	"	'41. 1.29	Statistics and explanatory notes	"	'41. 1.
<b>D 佛 國</b>			conditions of work	"	'41. 1.
Durchgehende Arbeitszeit in Frankreich	FZ	'40.12. 1	<b>XVIII 科 學</b>		
Die Fluchtlinglager in Frankreich	"	'40.12. 4	<b>A 英 國</b>		
Französische Baupläne und Bauanschlässe	"	'40.12.15	Science in aid of war effort—a new committee	MG	'40.10. 3
<b>E 伊 太 利</b>			The war and science—editorial	"	'40.10. 4
L'iscrizione obbligatoria negli olbi dei professori	CDS	'41. 1.22	Science to aid the war—editorial	Elec	'40.10.11
<b>F 其他諸國</b>			Social relations of science	MGw	'40.12. 6
Chinese Consumers' Cooperation in Wartime	RIC	'40.10.	Science and war	LT	'40.12.13
The Co-operative Movement in Argentina	"	'40.10.	How the R. A. F. takes and prints its photographs.	"	'40.12.16
Die neueste Arbeitsgesetzgebung der UdSSR als Massnahme der Produktionsteigerung	Schnucker-Bonstedt	OEM 20.11-12 '40.11. 11.	Children in London—editorial	MG	'40.12.20
Ein schweizerisches Arbeitsbeschaffungsprogramm	FZ	'40.12. 4	Compulsion or persuasion—control problem	MGw	'40.12.20

主要記事月報 社會及勞務 科學

一四七

Help for bombed refugees	LT	'41. 1.13	Government's education plan—editorial	MG	'40.10.18
War-Time progress of science	MG	'41. 1.14	Manchester's cultural life in war-time	"	'40.10.22
People who cannot afford shelters	"	'41. 1.16	Educational policy—editorial	"	'40.10.23
Science in uniform—Royal engineers in modern war	LTw	'41. 1.22	Education in the bombed areas—school shelter trenches	"	'40.10.30
Labour Notes	Engi	'41. 1.24	Wandering scholars—editorial	"	'40.10.30
1940 in retrospect—editorial	Elec	'41. 1.31	Girl's school in country—Salford parents' Action	"	'40.10.31
The Institution of Mechanical Engineers	Engi	'41. 1.31	Education a war victim—"bungled evacuation"	"	'40.11. 7
<b>B 合衆國</b>	MG	'41. 1. 2	Education in bombed areas	MGw	'40.11. 8
United States scientists and the war—reaction against Nazi's	MG	'41. 1. 2	War-time education—editorial	MG	'40.11. 9
<b>G 世界一般</b>	JLR	'41. 2.	University of Manchester—difficulties of war-time	"	'40.11.14
Meeting of the South African Nutrition Council	MG	'40. 9.30	The chaos of the schools—editorial	MiG	'40.11.29
<b>XIX 教化一般</b>	LT	'40.10.12	Public schools and the nation—editorial	"	'40.11.29
<b>A 英 國</b>					
The meaning of the Council for the Encouragement of music and the arts	MiG	'40. 9.30	Looting after the air raid—sentence on soldier	MG	'40.12.31
Council for the Encouragement of Music and the Arts—editorial	"	'40. 9.30	Head masters—a plea for plain instruction from official	"	'41. 1. 3
Objections as teachers—unfair advantages	LT	'40.10.12	Plans for education	LT	'41. 1. 6
			A new order after the war	"	'41. 1. 8
			"B. P."	"	'41. 1. 9
			The Institution of Gas Engineers	Engi	'41. 1.10
			Education for engineers	"	'41. 1.10
			A cultural convention—editorial	MG	'41. 1.10
			Religious education	LT	'41. 1.11
			A cultural convention	"	'41. 1.11
			Workers' Education Association class in war-time—editorial	MG	'41. 1.11
			Music and art in wartime	LT	'41. 1.17
			The arts in war	"	'41. 1.17
			Protection of churches	"	'41. 1.17
			Science in uniform	"	'41. 1.20
			Religious education	"	'41. 1.20
			Schoolboys' chance	MG	'41. 1.20
			School examinations: allowances for war difficulties	"	'41. 1.21
			Women teachers' mantises—children's health	MG	'40.12.28
			Rapid expansion of unit schools	"	'40.12.27
			Costing of arms contracts	LT	'40.12.19
			School hours—teachers and fixed time	"	'40.12.17
			School shelters—non-retrospective grant criticized	"	'40.12.17
			War's effects on the church—many new problems	MG	'40.12.17
			Price changes	LT	'40.12.16
			Government Aid for music—effect of the subsidy	"	'40.12.14
			Workers' Education Assoc. manifesto	MG	'40.12.11
			The threat to education—3 terms residence	LT	'40.12.11
			War decries at Oxford—	MGw	'40.12. 6
			The public schools and the nation—editorial	MG	'40.12. 4
			Must go to school—L. C. C.'s decision	MG	'40.12. 4
			Schooling in London—compulsion and evacuation	LT	'40.12. 3
			Liverpool University	MG	'40.11.30
			War service decries—		

School shelters	MG	'41. 1.22					
A diocesan council of inquiry	LT	'41. 1.24					
Restoration of churches	"	'41. 1.24					
Education on war footing	MG	'41. 1.27					
Education of officers	LT	'41. 1.28					
Adult education in war-time	MG	'41. 1.28					
Day school reform	LT	'41. 1.29					
Food on trains	MG	'41. 1.30					
Education for the services	LT	'40. 1.31					
<b>C 獨逸</b>							
Von der Volksschule in der Beruf	FZ	'40.12. 1					
Die höheren Schulen in Preussen	"	'40.12. 2					
Die Lehrer im Beamtentum	"	'40.12. 3					
Die höheren Schulen in Preussen	"	'40.12. 3					
<b>D 佛國</b>							
Control of French schools—changes made	MG	'40.12.31					
Spirit of french universities	LT	'41. 1.17					
<b>F 其他諸國</b>							
Proceedings of the East India Association—Some Problems of Indian Education	AR	'40.10.					
<b>XX 情報及宣傳</b>							
<b>A 英國</b>							
Government publicity	W. A. Robson	PL	'40.7-9				
Use of posters and circulars—some concession	MG	'40.11. 6					
British Press in war-time—freedom and an up-palling picture	LT	'40.12. 2					
A free press in war-time—editorial	"	'40.12. 2					
Englands verdiente Strafe	FZ	'40.12. 9					
Die Propaganda soll es Schlafen	"	'40.12.10					
The war effort—need for constant publicity	LT	'40.12.11					
A policy of information	"	'40.12.14					
Ministry and press	"	'40.12.16					
A broadcast to Italy	"	'40.12.24					
Verbal offensive	"	'40.12.27					
Propaganda in the Near East	MGw	'40. 1. 3					
Worcester newspapers	LT	'41. 1.11					
Film Institute Society—a Manchester show	MG	'41. 1.13					
<b>B 合衆國</b>							
Versuch zur Multipropaganda	FZ	'40.12. 2					

<b>C 獨逸</b>							
Feitungsberrufe	FZ	'40.12. 1					
How the Nazis control the French press	MG	'41. 1. 2					
<b>XXI 警備及防務</b>							
<b>A 英國</b>							
Fire-fighters in demand—editorial	MG	'40.10. 2					
Firemen in the army—release offered	"	'40.10. 2					
Unensored news—voluntary principle	"	'40.10.31					
Letters and parcels for prisoners of war	LT	'40.11. 7					
National Union of Teachers demands shelter for school children	MG	'40.11. 9					
Detained persons' appeals—parliamentary	LT	'40.11.29					
Aliens policy—editorial	MGw	'40.11.29					
Nearly 30,000 aliens still interned—release of skilled workmen	MG	'40.12. 4					
Interned aliens—reply to criticisms	MGw	'40.12. 6					
Viertausend als „feindlich“ klassifiziert	FZ	'40.12. 6					
Work of fire-fighters—successes and problems	MG	'40.12. 9					
<b>Fire defence—editorial</b>							
Manchester fund for new lifeboat	MG	'40.12. 9					
Prohibited area—editorial	"	'40.12.17					
Parcels for war prisoners	LT	'40.12.17					
Parcels for war prisoners	"	'40.12.19					
Fire watchers—neglect of precautions in Manchester	MG	'40.12.30					
Fire watching enquiry—N. West Conference	"	'40.12.31					
"Secret" british aircraft	LT	'41. 1. 1					
Experiences in a raider	"	'41. 1. 2					
Fire precautions in British towns—steps to meet the German menace	LTw	'41. 1. 8					
Prisoners of war	LT	'41. 1.11					
Interned refugees	"	'41. 1.13					
Alleged trading with enemy	"	'41. 1.21					
"Daily worker" suppressed	"	'41. 1.22					
Alleged trading with enemy	"	'41. 1.24					
Parcels for war prisoners	MG	'41. 1.25					
The treatment of aliens	"	'41. 1.28					
Alleged trading with enemy	LT	'41. 1.28					

Summing-up in trading with enemy trial	T	'41. 1.29	Meals in the shelters—mobile canteen	LT	'40.10.23
<b>C 獨 逸</b>			Food supplies and prices—parliamentary	/	'40.10.23
Vertigung für Luftschutzdienst im Betriebs	FZ	'40.12.10	War and drink trade—harm by failure to control	MG	'40.10.23
<b>G 世界一般</b>			A larger meat reserve—Minister's promise—reducing cost	LT	'40.10.23
Axis propaganda & espionage in the Near East	MG	'40.12.31	Milk sellers' new margins—reducing cost	/	'40.10.23
<b>XXII 露 羅</b>			Renegades for wasteful milk distribution	MG	'40.10.23
<b>A 英 國</b>			The war-time choice of food—a self-defence men	LT	'40.10.26
The shortage of foodstuffs in the Colonial Empire	Imp. Ins.	2 '40.4-6	Vegetation and war diet—a rationing grievance	MG	'40.10.28
School for feeding—editorial	MG	'40. 8. 5	More cold storage depots—drive to build 20 new centers	LT	'40.10.29
Our food supplies—fewer choices	/	'40. 9.26	Wholemeal bread—research and experience	/	'40.10.30
Food control	MLG	'40. 9.	Food supplies from Canada—bacon & wheat	/	'40.10.30
Feeding the people—58 Emergency Centers	LT	'40.10. 2	Salad for a sailor—a scheme in East Anglia—editorial	MG	'40.10.30
Bigger food output—Mr. Ll. George's call	MG	'40.10.15	Maximum price—No cheese rationing	/	'40.10.30
Eggs on the move—editorial	/	'40.10.19	Good food in war-time—cabbage—editorial	/	'40.10.31
Cakes in war-time—editorial	/	'40.10.22			
Britain's improved food situation—parliamentary	/	'40.10.23			

War on rats—25 million pounds a year damage	MG	'40.11. 2	Food and other supplies—Germany's oil position	MG	'40.11.22
More potatoes needed—price difficulties	LT	'40.11. 4	The vegetable plot—production and cultivation	LT	'40.11.25
Milk distribution costs—the Perry milk report	MG	'40.11. 7	The rationing of feeding-stuffs	/	'40.11.25
Milk prices—North-western traders' conference	/	'40.11. 9	Lord Woolton on food questions—not controlling luxuries	MG	'40.11.27
Scarcity of eggs—poor yields	LT	'40.11.11	Food in raids—organization for every town	/	'40.11.27
Communal meals for sixpence—the first in Liverpool	MG	'40.11.12	Home food supplies—parliamentary	LT	'40.11.27
Growing our own food—a year's lessons—editorial	/	'40.11.13	A substantial offer (of food-stuffs)—editorial	/	'40.11.27
Enforcement of food control—post agst. petty interference	Food Minister	'40.11.14	Price pledge to farmers—bigger home crops vital	/	'40.11.27
Less fruit and fewer eggs—editorial	/	'40.11.19	Sparing use of milk—a temporary measure	Food Minister	'40.11.27
Good food in war-time—useful dishes—editorial	/	'40.11.21	No more banana imports: No milk for ice-cream	MG	'40.11.27
Meals for the workers—importance of proper diet	LT	'40.11.21	Essential food staple—helping home yield	LT	'40.11.29
Feeding the war workers—appeals to employers	MG	'40.11.21	Condensed milk and milk powder—further reduction	MG	'40.11.29
Food for the liberated—or new committee	LT	'40.11.22	Cut in milk supplies—no fear but more rationing	/	'40.11.29
Christmas tea and sugar—increase expected	/	'40.11.22	Effect of banana import ban—critical to retailers	LT	'40.11.29
			More food from the farms	MGw	'40.11.29

附 錄

Category	Author	Date	Page
Food supplies—Sir F. Lath-Ross's new task	MGW	'40.11.29	154
No ration—coupon cutting—2 weeks' supplier may be bought	MG	'40.11.30	
Rationing to be simpler—no coupon cutting	LT	'40.11.30	
Food control	MG	'40.12. 2	
Sugar prices low—cutting down the milk	MG	'40.12. 2	
New ration-book arrangements today	MG	'40.12. 2	
Increased food production—prices and markets	LT	'40.12. 2	
Winter milk supplies—editorial	MG	'40.12. 2	
Adequate sugar supplies from sterling area—tea share prospects	MG	'40.12. 2	
Paid too much for eggs—a "vicious circle"	MG	'40.12. 2	
Home-produced eggs—equitable distribution	MG	'40.12. 2	
Hard living but no hunger—meat rations and X'mas turkeys	LT	'40.12. 3	
Cutting down food imports to save shipping space	MG	'40.12. 3	
Christmas food rations—new type of loaf	LT	'40.12. 3	
Bread prices—"enriched" (whole meal) loaf	MG	'40.12. 4	
Extra Christmas rations of sugar and tea-bacon and fruit outlook	MG	'40.12. 4	
Helping to fill overseas larders—export development scheme	MG	'40.12. 6	
The nation's food	Elec	'40.12. 6	
Communal meal centers—for homeless and workers	MG	'40.12. 7	
Victuals in our times—editorial	MG	'40.12. 7	
The vegetable plot—preparing for the spring	LT	'40.12. 9	
Food in tube stations—staff of 1,000 engaged	MG	'40.12.11	
Bread prices—no sugar for marmalade	MG	'40.12.11	
6d. lunch—standard for communal feeding	MG	'40.12.12	
Importation of bananas	LT	'40.12.12	
Milk puddings—a change from rice—editorial	MG	'40.12.12	
Coupons for food "eaten out"—point being considered	MG	'40.12.12	
Fortified bread—premier to ask M. P. to withdraw motion	MG	'40.12.13	

Victuals in our time	MGW	'40.12.13	
Animal feedings—stuffs—the new ration scales	MG	'40.12.13	
Meat supplies	LT	'40.12.14	
A warning to hoarders—"ruthless" punishment	MG	'40.12.14	
Control of canned fruit demanded—Food Minister criticized	MG	'40.12.14	
Price changes	LT	'40.12.16	
Farm workers in the forces	MG	'40.12.16	
Reduced meat ration	MG	'40.12.16	
More food from the land—security for the farmer	MG	'40.12.16	
Less meat—ration cut, including restaurants	MG	'40.12.16	
Feeding Europe—editorial	MG	'40.12.16	
Advertisement on page 3, by food Ministry	MG	'40.12.16	
Apple prices fixed—Christmas meat supplies	MG	'40.12.17	
Christmas dinner in wartime—instead of a turkey—editorial	MG	'40.12.17	
Fortified bread—parliamentary motion withdrawn	MG	'40.12.17	
Milk scheme in Manchester—steady progress	MG	'40.12.17	
Apple prices fixed—Christmas meat supplies	MG	'40.12.17	
Christmas dinner in wartime—instead of a turkey—editorial	MG	'40.12.17	
Feeding centres essential	LT	'40.12.18	
Price of turkeys controlled—warning ignored	MG	'40.12.18	
Christmas food markets	LT	'40.12.19	
Food outlook	MG	'40.12.20	
Emergency meal service—Manchester's plan	MG	'40.12.20	
Feeding chickens	LT	'40.12.27	
The food front	MG	'40.12.27	
Tea supplies	ST	'40.12.28	
Labour for the land	LT	'40.12.31	
50,000,000 ration books	MG	'40.12.30	
Food control	MG	'40.12. 30	
Factory canteens	MG	'40.12. 30	
Feeding the Nation in peace and war	EJ	'40.12. 30	
Britain's food supplies in peace and war	MG	'41. 1. 1	
Food strategy	LT	'41. 1. 1	



特 錄 要 目

The home-grown potato	LT	'41. 1. 1	Agriculture in the future	LT	'41. 1. 9
Conserving food supplies	"	'41. 1. 1	Winter salads—cooked or raw vegetables	MG	'41. 1. 9
Economical meat dishes—the cheater joints	MG	'41. 1. 1	Lord Woolton—"Eat British" the new slogan	"	'41. 1. 9
Food supply problems—to use more home-grown	"	'41. 1. 1	Meat rations—new catering restrictions	"	'41. 1. 9
Food supplies	LT	'41. 1. 2	Meat ration to be fixed weekly	LT	'41. 1. 9
Food and rest in Air Raid Precaution—editorial	MG	'41. 1. 2	A simpler diet for all	"	'41. 1. 9
Qualified cookery—editorial	"	'41. 1. 2	Food for french children	"	'41. 1. 9
Meat rations cut again—pork and affals	"	'41. 1. 3	Smaller meals in hotels	"	'41. 1. 9
Meat rations—editorial	"	'41. 1. 4	Food for France—editorial	MG	'41. 1. 9
The vegetable garden—editorial	"	'41. 1. 4	Food for birds in war-time	LT	'41. 1.10
Meat ration cut—to send munitions to Libya	"	'41. 1. 4	Food problems	"	'41. 1.10
Week-end meat difficulties	LT	'41. 1. 4	Treacle rations—editorial	MG	'41. 1.11
Meat supplies short	"	'41. 1. 6	The vegetable plot—testing the vitality	"	'41. 1.11
Agriculture in the future	"	'41. 1. 6	Communal feeding—Stocks's scheme	"	'41. 1.11
Plough Monday	"	'41. 1. 6	New ration fooks—retailers and confusion	"	'41. 1.13
Meat shortage—hotel and canteens	MG	'41. 1. 8	Fabring notes and comments	LT	'41. 1.13
Speculators in food—canned price control	"	'41. 1. 8	Farming policy	"	'41. 1.13
Meat still scarce	LT	'41. 1. 8	Utilised land	"	'41. 1.13

1 冊 本

More wheat to be grown in etc	LT	'41. 1.14	Use and abuse of food	LT	'41. 1.24
More land under plough	MG	'41. 1.14	Fruit in the garden	MG	'41. 1.25
Marinade and canned fish	"	'41. 1.14	The making of porridge	"	'41. 1.27
Sugar candy at the turn	LT	'41. 1.15	Seeds or plants for waste places?	"	'41. 1.27
Plenty of good foods	"	'41. 1.15	Redevelopment of raided towns	"	'41. 1.29
Cheese control	"	'41. 1.16	Meat ration still	"	'41. 1.29
Protest to lord woolton	MG	'41. 1.16	Excessive charge for eggs	"	'41. 1.29
"Cash and carry" centres	"	'41. 1.16	More english meat	LT	'41. 1.29
Less meat in sausages	"	'41. 1.16	Skilled men on farms	"	'41. 1.30
Home produce	"	'41. 1.16	Good food in war-time	MG	'41. 1.30
Troop canteens on trains	LT	'41. 1.16	Food on trains	"	'41. 1.30
Meat for a high dinner	MG	'41. 1.17	Horses' rations	"	'41. 1.31
Fire's supplies	"	'41. 1.17			
The uses of oatmeal	"	'41. 1.17			
Cold storage	"	'41. 1.18			
The pruning of fruit trees	"	'41. 1.18			
"Vitamin diplomacy"	"	'41. 1.21			
Canteens on trains	LT	'41. 1.21			
Food prices	MG	'41. 1.22			
This week's meat supply	"	'41. 1.22			
Vitamins for all	"	'41. 1.22			
The meat ration	"	'41. 1.22			
Food production in Canada	LT	'41. 1.24			

主要記事月報

食 糧

一五七

Die Lieferanten für den Lebensmittel-Lebensmittel industrie springt ein	FZ	'40.12.11	Welfare under air attack—policy and action	L/T	'40.10.14
Die Durchführung der Ernährung im Kriege	BL	26. 1 '40.	Physical training of Youth—War Office cooperation	MG	'40.10.17
Die Grundlagen der Kriegsernährungswirtschaft	"	26. 1 '40.	Nation's health in wartime—parliamentary health under fire—editorial	"	'40.10.18
Russian agriculture and Germany's needs—exportable surpluses	MG	'41. 1. 8	(Countering the effects of blast—sponge-rubber armband)	"	'40.10.25
Food supplies for holland	L/T	'41. 1.23	Health problems in shelters—preventing epidemics	"	'40.10.26
Food Supplies for Holland	MG	'41. 1.24	Health dangers this winter—epidemics & shelters	L/T	'40.10.30
Food for French children—to pass blockade	MG	'41. 1. 9	Shelter and health—editorial	MG	'40.11.25
Europe's food—official review from Washington	MG	'40.10.22	"Illegal Immigrants"—editorial	MGw.	'40.11.29
Feeding Europe—editorial	MGw.	'40.12.20	Industrial diseases	MLG	'40.11.
Germany and Food in Europe	MG	'41. 1.14	Interior lighting of factories	"	'40.11.
The danish hallder	L/T	'41. 1.14	Indians Bevormundung	FZ	'40.12.11
Indian self-government	AL	'40.7.9	Egypt—editorial	MGw.	'40.12.13
			The colonies—editorial	MG	'40.12.14
			Diphtheria—editorial	"	'40.12.14
			Diphtheria danger in wartime conditions	"	'40.12.18

Devoted work of hospitals	L/T	'40.12.18	Labour notes	Engl	'41. 1.10
Agreements with the free french	"	'40.12.18	Indian policy	L/T	'41. 1.11
Hospitals of London	"	'40.12.19	Movements of population British and German Youth	"	'41. 1.13
War injury—compensation for all adults	MGw.	'40.12.20	A new hospital service	"	'41. 1.15
Health and safety	L/T	'40.12.20	New hospital service	"	'41. 1.15
Colonial economic policy	SE	'40.12.21	Oversea doctors	"	'41. 1.15
Health and order in shelters	L/T	'40.12.23	Evacuating sick children	MG	'41. 1.17
Shelter dangers	"	'40.12.27	Diphtheria peril	L/T	'41. 1.17
New Herder Committee report—precaution against shelter risks	MG	'40.12.28	A continental Colony	L/T	'41. 1.21
Labour officers in the colonies	L/T	'40.12.28	Welfare in the shelters	"	'41. 1.21
Health in the shelters	"	'40.12.28	The dominions in the war and after	MGw.	'41. 1.22
Ban on immigration into Palestine	"	'40.12.30	The influenza season	L/T	'40. 1.31
Medical supervision in factories	MLG	'40.12.	Cancer research	"	'41. 1.31
The pleasures of patience	L/T	'41. 1. 6	Empire cancer campaign	"	'41. 1.31
Health of the shelterer	"	'41. 1. 8	Hospital scheme of nuffield trust	"	'41. 1.31
Health dangers in wartime	"	'41. 1. 8			
Children's Odyssey to Palestine the few ways still open	MG	'41. 1. 9			
Incubation	L/T	'41. 1.10			



Umfassendes Wohnungsbauprogramm für das ganze Reichsgebiet Stadt und Land in Deutschen Reich	YB	'40.11.20	Altersaufbau und Familienstandsgliederung des deutschen Volkes	WS	20. 23 '40.12.
Neue Bevölkerungszahlen für das Protektorat Böhmen und Mähren und für das Generalgouvernement	WS	20. 21 '40.11.	German colonization—editorial	MG	'41. 1. 9
Tropen- und Kolonialtechnik	FZ	'20. 22 '40.11.	Poland in post-war Europe—An Eastern Commonwealth?	"	'41. 1.10
Zusammenschluss der deutschen Völker	"	"	Administration of countries under German control	BIN	'41. 1.11
Handwerkliche Anstedlungskredite	"	'40.12. 4	Alleraufbau und Berufsbildung der volkdeutschen Umsiedler	WS	21. 1 '41. 1.
Die Kulturarbeit in den Tropen	DBZ	'40.12. 5	Die Bevölkerungsentwicklung im Kriege	"	21. 2 '41. 1.
German tyranung in Poland	MGw	'40.12. 6	Die Ehescheidungen im Jahre 1939	"	21. 2 '41. 1.
Krieg und Volksgesundheit	VB	'40.12.30	E 伊 太 利	LIT	'41. 1. 3
German exploitation of occupied countries—II	BIN	'40.12.31	The Italian colonial empire—points of assembly for aggression	LITw	'41. 1. 8
Die Erwerbspersonen in der Land- und Forstwirtschaft	WS	20. 24 '40.12.	La politica demographica e la guerra	CAS	'41. 1.21
Kreisverteilung und neue Einwohnereahlen der eingegliederten Ostgebiete	"	20. 23 '40.12.	F 其他諸國	WS	21. 1 '41. 1.
			Neue Bevölkerungszahlen des Auslandes	"	20 21 '40.11.
			G 世界一般		
			Die grossstädtische Bevölkerung der Erde	"	20 21 '40.11.

Die Bevölkerung der Erde WS 21. 2 '41. 1.

XXIV 資源調査及統計

A 英 國

The report of the Royal Commission on the Distribution of the industrial population J. H. Jones R.S.S. CIII '40. (III)

The mean test — editorial MG '40.11. 7

British censors—more criticism " '40.11.27

More complaints of censorship—(The Birmingham raid) " '40.11.29

Censorship — editorial MGw '40.12.11

Censorship — editorial " '40.12.13

Censoring air raid reports LT '41. 1. 1

Faults of the censorship " '41. 1.29

A register for industry " '41. 1.30

Various statistics on tin Tin '41. 1.

B 合 衆 國

The United States—editorial MG '40.10.17

American complaints of the censorship—damage by air-raids LIT '40.11.28

C 獨 逸

Probleme der Mineralölforschung DBZ '40.12.14

G 世界一般

Chronological summary of events BIN '40.12.14

Chronological summary of events " '40.12.31









著者	題名	頁数	発行年	発行所
国際事務局と米國の動向	1091 16. 2.15	1901	16. 2.15	國文
極東外交を決するもの	132 16. 2.20	1901	16. 2.15	國文
第七十六議會の印象	132 16. 2.20	1902	16. 2.22	國文
日本關係の動向	11. 3 16. 3. 1	1960	16. 3. 1	東經
公路上のビスマルクの現像	133 16. 3. 1	1901	16. 3. 1	國文
ソ聯の實力	133 16. 3. 1	1901	16. 3. 1	國文
近東に於ける英國と極軸國	133 16. 3. 1	1901	16. 3. 1	國文
投資工作の實現とその限界	133 16. 3. 1	1901	16. 3. 1	國文
ソ聯の實力	9 16. 3. 1	1901	16. 3. 1	國文
危機に直面する米國	9 16. 3. 1	1901	16. 3. 1	國文
國土防衛と地方主義	56 16. 3. 1	1901	16. 3. 1	國文
改正總動員法の解説	10 16. 3. 8	1901	16. 3. 8	國文
ソ聯の國別國家建設	10 16. 3. 8	1901	16. 3. 8	國文
1911年のアメリカ國論	134 16. 3.10	1901	16. 3.10	國文
買付運動の危機	4 16. 4. 1	1901	16. 4. 1	國文
買付會議論議の類	4 16. 4. 1	1901	16. 4. 1	國文
II 精神動員	16	1901	16. 1.10	經濟政
言論統制の方法	2 16. 1.10	1901	16. 1.10	經濟政
新秩序主義の指導理念	19. 4 16. 1.27	1901	16. 1.27	國文
國土計畫と都市文化	2 16. 2. 1	1901	16. 2. 1	國文
時局を變る思想の變遷	797 16. 2. 5	1901	16. 2. 5	國文
敬神崇祖に就て	797 16. 2. 5	1901	16. 2. 5	國文
大亞細亞主義の科學性	311 16. 2.10	1901	16. 2.10	國文
極東の人口	132 16. 2.20	1901	16. 2.20	國文
青年學校の躍進	230 16. 3. 5	1901	16. 3. 5	國文
國民學校について	4 16. 4. 1	1901	16. 4. 1	國文
經濟新體制と國民の自主的	4 16. 4. 1	1901	16. 4. 1	國文
活動	4 16. 4. 1	1901	16. 4. 1	國文
III 労働動員	713 16. 1.21	1901	16. 1.21	國文
職業選擇の理論と實際	173 16. 1.25	1901	16. 1.25	國文
滿洲の労働力問題	2 16. 2. 1	1901	16. 2. 1	國文
労働動員と職業訓育	401 16. 2.10	1901	16. 2.10	國文
新體制と雇率の向上	7 16. 3. 1	1901	16. 3. 1	國文
戦時下の労働問題	9 16. 3. 8	1901	16. 3. 8	國文
大戦と労働力の問題	9 16. 3. 8	1901	16. 3. 8	國文
III 物資動員	12 15.12.30	1901	15.12.30	國文
A 一般	12 15.12.30	1901	15.12.30	國文
英國經濟事情	12 15.12.30	1901	15.12.30	國文
米國經濟事情	12 15.12.30	1901	15.12.30	國文
伊太利の戦時經濟	12 15.12.30	1901	15.12.30	國文
本邦經濟事情	12 15.12.30	1901	15.12.30	國文
本邦水産業に就て(二)	15. 12 15.12.30	1901	15.12.30	國文

著者	題名	頁数	発行年	発行所
日本經濟の基本的動向	1086 16. 1.11	1901	16. 1.11	國文
發展途上の滿洲國	2 16. 1.13	1901	16. 1.13	國文
我國に於ける企業集中の發	4 16. 1.15	1901	16. 1.15	國文
印度の經濟動員	129 16. 1.20	1901	16. 1.20	國文
新體制と經濟の動向	660 16. 1.20	1901	16. 1.20	國文
全體主義經濟の制御	3 16. 1.20	1901	16. 1.20	國文
關税の實踐とその對策	16. 1.20	1901	16. 1.20	國文
高度國庫建設下の日本産業	3 16. 1.20	1901	16. 1.20	國文
(下)	3 16. 1.20	1901	16. 1.20	國文
大戦と世界の動き	19. 3 16. 1.20	1901	16. 1.20	國文
ソ聯計畫經濟の進展(上)	1088 16. 1.25	1901	16. 1.25	國文
日本に於ける工業の發達	1088 16. 1.25	1901	16. 1.25	國文
資本主義と計畫經濟	2 16. 2. 1	1901	16. 2. 1	國文
ソヴェート統制經濟論	2 16. 2. 1	1901	16. 2. 1	國文
アメリカ對外政策の經濟的	2 16. 2. 1	1901	16. 2. 1	國文
基礎	2 16. 2. 1	1901	16. 2. 1	國文
ソ聯の非常時對策	2 16. 2. 1	1901	16. 2. 1	國文
軍用品の原價計算規則	70. 2 16. 2. 1	1901	16. 2. 1	國文
ソ聯計畫經濟の進展(中)	1089 16. 2. 1	1901	16. 2. 1	國文
ソ聯計畫經濟の進展(上)	1089 16. 2. 1	1901	16. 2. 1	國文
國土計畫と工業の再配置	2 16. 2. 1	1901	16. 2. 1	國文
對日戰に備へる對日米國經	2 16. 2. 1	1901	16. 2. 1	國文
濟	2 16. 2. 1	1901	16. 2. 1	國文
ドイツの戦争經濟統制と經	32 16. 2. 5	1901	16. 2. 5	國文
濟	32 16. 2. 5	1901	16. 2. 5	國文
統制經濟の研究(附	32 16. 2. 5	1901	16. 2. 5	國文
註)	32 16. 2. 5	1901	16. 2. 5	國文
出典記号で聯	32 16. 2. 5	1901	16. 2. 5	國文
聯	32 16. 2. 5	1901	16. 2. 5	國文
ソ聯計畫經濟の進展(下)	1086 16. 1.11	1901	16. 1.11	國文
特殊社會統制問題(米國)	4 16. 1.15	1901	16. 1.15	國文
米國の交戰經濟	129 16. 1.20	1901	16. 1.20	國文
英國の保有政策と米國對英	660 16. 1.20	1901	16. 1.20	國文
援助	3 16. 1.20	1901	16. 1.20	國文
米國 1910年の會社事業成	16. 1.20	1901	16. 1.20	國文
績	3 16. 1.20	1901	16. 1.20	國文
昭和十五年下期本邦事業成	3 16. 1.20	1901	16. 1.20	國文
績	3 16. 1.20	1901	16. 1.20	國文
戰前經濟統制と經濟指導	5 16. 2.15	1901	16. 2.15	國文
歐戰中經濟の再秩序	244 16. 2.15	1901	16. 2.15	國文
企業家を活かして使ふ戰時	3 16. 2.20	1901	16. 2.20	國文
の産業政策	3 16. 2.20	1901	16. 2.20	國文
日本經濟戰下の電工業對	3 16. 2.20	1901	16. 2.20	國文
策	3 16. 2.20	1901	16. 2.20	國文
米國戰時經濟の展望	3 16. 2.20	1901	16. 2.20	國文
米國の抗戰經濟(下)	3 16. 2.22	1901	16. 2.22	國文
歐洲經濟新秩序論	9 16. 3. 1	1901	16. 3. 1	國文
戰時經濟と企業集中	3 16. 3. 1	1901	16. 3. 1	國文
近郊農業生産力増進の諸問	3 16. 3. 1	1901	16. 3. 1	國文
題	3 16. 3. 1	1901	16. 3. 1	國文
全國に於ける企業合同進展	3 16. 3. 1	1901	16. 3. 1	國文
の取次(三)	3 16. 3. 1	1901	16. 3. 1	國文
肥料増産の諸問題	7 16. 3. 1	1901	16. 3. 1	國文
米國の交戰經濟(下)	7 16. 3. 1	1901	16. 3. 1	國文

米國戰時經濟の展望	山 下 瀧 郎	20.	7 16. 3. 1	時定克昭經濟體制と經濟可 編成	八木晋次	25.	4 16. 1. 1
世界經濟の分裂と將來	小 穴 毅	22.	9 16. 3. 1	B 鐵 類	森口 静一	35.	2 16. 2. 8
ドイツ國營及國策會社	瀧口初太郎	6.	3 16. 3. 1	府鐵の公定價格と配給統制 に於ける英國鐵鋼業	森 茂 樹	26 16. 2. 15	26 16. 2. 15
臨時農地等管理令	齋 組	425 16. 3. 1	425 16. 3. 1	1940年度世界鐵鋼生產概觀	市川弘勝	16.	3 16. 2. 20
商業對策の根本問題	齋 組	7 16. 3. 1	7 16. 3. 1	膨脹するアメリカ鐵鋼業	千賀 鏡 也	25.	4 16. 4. 1
農業生産協同化の技術的合 理性	山下 瀧 郎	425 16. 3. 1	425 16. 3. 1	鐵鋼統制を決定する諸問題 C 非鐵金屬及非金屬、礦物	收 投 三	27.	2 16. 2. 1
小作料の増進に及ぶ影響	仲原 善一	425 16. 3. 1	425 16. 3. 1	閩印鐵鋼資源の將來	市川弘勝	27.	26 16. 2. 15
企業合同と適限經營	村本福太郎	6.	3 16. 3. 1	發展する輕金屬工業	南洋 鐵 聯	29.	7 16. 3. 1
企業新體制の企業形態	長谷川 安兵衛	6.	3 16. 3. 1	D 鐵 類	市川弘勝	29.	7 16. 3. 1
株式會社の二重ボード制	増地明治郎	6.	3 16. 3. 1	鐵鋼統制に於ける機業整理の 具體的創案	山田 健 介	22.	9 16. 3. 1
マツチ切符制の效果	齋 組	20.	9 16. 3. 3	鐵鋼統制に於ける機業整理の 具體的創案	齋 組	22.	9 16. 3. 1
米國の棉米農業問題	ケラント エルクソト	134 16. 3. 10	134 16. 3. 10	明日の自給鐵鋼資源	山田 健 介	22.	9 16. 3. 1
カナダの戰時經濟	ケラント エルクソト	134 16. 3. 10	134 16. 3. 10	鐵鋼統制に於ける機業整理の 具體的創案	山田 健 介	22.	9 16. 3. 1
日本經濟概観	エルクソト	134 16. 3. 10	134 16. 3. 10	鐵鋼統制に於ける機業整理の 具體的創案	山田 健 介	22.	9 16. 3. 1
ナチスの計畫する新歐洲	S・B・ビー ターヌ	25.	4 16. 4. 1	鐵鋼統制に於ける機業整理の 具體的創案	山田 健 介	22.	9 16. 3. 1
アメリカの戰時經濟の展望	飯田 清三	16.	4 16. 4. 1	鐵鋼統制に於ける機業整理の 具體的創案	山田 健 介	22.	9 16. 3. 1
ドイツ戰時經濟力	小島 裕一	16.	4 16. 4. 1	鐵鋼統制に於ける機業整理の 具體的創案	山田 健 介	22.	9 16. 3. 1
イギリス戰時經濟の一断面	金原賢之助	16.	4 16. 4. 1	鐵鋼統制に於ける機業整理の 具體的創案	山田 健 介	22.	9 16. 3. 1
大東洋の經濟概観と日本經濟 の動向	加田 哲二	25.	4 16. 4. 1	鐵鋼統制に於ける機業整理の 具體的創案	山田 健 介	22.	9 16. 3. 1
戰時經濟と其の根本的對策	大口 晋 六	25.	4 16. 4. 1	鐵鋼統制に於ける機業整理の 具體的創案	山田 健 介	22.	9 16. 3. 1

米國に於ける航空機油製造の動向	堀江不器雄	13.	6 15. 11. 28	石油事業は大合同せん 動向的發展の人造石油	大イヤ 29.	7 16. 3. 1
イタリヤに於ける自動車用 燃料—元統制獨立(石炭)	エモノ	13.	6 15. 11. 28	木炭煉炭の切符制	エモノ 29.	9 16. 3. 3
獨逸に見る石炭戰	エモノ	19.	3 16. 1. 20	G 工業藥品及化學藥品類	大イヤ 29.	7 16. 3. 1
自動車及び航空燃料	下山 輝一	713 16. 1. 21	713 16. 1. 21	K 機 械 類	大イヤ 29.	7 16. 3. 1
東印度洋島の油田事情	大村 一 藏	744 16. 2. 10	744 16. 2. 10	L 食料及飼料	大イヤ 29.	7 16. 3. 1
ロシア石油星嶽の本均値	文 時	744 16. 2. 10	744 16. 2. 10	ドイツに於ける食糧問題	ツグエー ツグエー	16. 2 16. 1. 10
露領東印度(1940年(自1月 至3月)の石油類輸出数量)	石 時	744 16. 2. 10	744 16. 2. 10	ドイツに於ける食糧問題	ツグエー ツグエー	16. 2 16. 1. 10
露領東印度の石油製品	石 時	744 16. 2. 10	744 16. 2. 10	ドイツに於ける食糧問題	ツグエー ツグエー	16. 2 16. 1. 10
ルーマニアの石油製品	石 時	744 16. 2. 10	744 16. 2. 10	ドイツに於ける食糧問題	ツグエー ツグエー	16. 2 16. 1. 10
ル・イ・ベの月別輸出量	石 時	744 16. 2. 10	744 16. 2. 10	ドイツに於ける食糧問題	ツグエー ツグエー	16. 2 16. 1. 10
米國大東洋沿岸地方に於ける 石油類輸送	石 時	744 16. 2. 10	744 16. 2. 10	ドイツに於ける食糧問題	ツグエー ツグエー	16. 2 16. 1. 10
世界主要都市和發油小賣價	石 時	744 16. 2. 10	744 16. 2. 10	ドイツに於ける食糧問題	ツグエー ツグエー	16. 2 16. 1. 10
世界の石油産額	石 時	744 16. 2. 10	744 16. 2. 10	ドイツに於ける食糧問題	ツグエー ツグエー	16. 2 16. 1. 10
世界の石油消費額	石 時	744 16. 2. 10	744 16. 2. 10	ドイツに於ける食糧問題	ツグエー ツグエー	16. 2 16. 1. 10
世界の石油消費額	石 時	744 16. 2. 10	744 16. 2. 10	ドイツに於ける食糧問題	ツグエー ツグエー	16. 2 16. 1. 10
地方鐵道に於ける木炭(カ ス急生鐵精)カソリン(動車 の運動燃料)に對して	今村 成 男	26 16. 2. 15	26 16. 2. 15	ドイツに於ける食糧問題	ツグエー ツグエー	16. 2 16. 1. 10
佛領印度支那の石炭と鐵鋼	今村 成 男	26 16. 2. 15	26 16. 2. 15	ドイツに於ける食糧問題	ツグエー ツグエー	16. 2 16. 1. 10
瓦斯の發展概況	今村 成 男	26 16. 2. 15	26 16. 2. 15	ドイツに於ける食糧問題	ツグエー ツグエー	16. 2 16. 1. 10

M 其他の物資

東亜の農業資源

V 價格統制

VI 貿易統制

VII 科學動員

VIII 財政動員

IX 資金動員

東亜の貿易新體制

東亜貿易の國際通商と我國貿易政策の發展

英米兩國の對日貿易

泰國の産業貿易概況

最近に於ける世界貿易趨勢

貿易の現状と進路

印・緬印の貿易概況

國際貿易の意義は根本的に變化した

VII 科學動員

技術發展の理論

婦人の科學知識向上の重要性

女性と科學教育

ラヂオと科學教育

科學教育の問題

科學日本の建設と國民學校

ミツケル資源と其の技術對策

我國の資源・アソチエーション類金屬資源と其の技術對策

國際の高速度化と技術政策

科學發展と科學教育

技術發展の限界

全體主義下の科學

VIII 財政動員

ナチス財政の批判

地方税法逐條解説

國防國家豫算

ナチスの戰時財政

閉戦後の戰時財政狀態

戰費調達と金融市場

イギリスの戰時財政金融政策

戰費の財源としての公債

起債計畫に關する公社債

大體勃發後に於ける各國の増稅

日銀證券改革の批判

事業の進展と公債の消化

新秩序建設の財政

財政計畫の示すもの

昭和十六年度總豫算

戦後の金問題

百三十億豫算の金融的的重大意義と抜本的對策の急務

國民所得と消費對策

IX 資金動員

我國インフレーションの度

計費資本の状況

國家信用の膨脹

統制經濟と流通問題

中小企業の問題

歐洲戰爭と國際金融

金融界の回顧と前途

時局下の不動産金融に就て

轉換期に於ける事業金融

管理米に對する金融に就て

年々年初の金融情勢

本年度産業資金調達の動向

滿洲國に於ける資本缺乏の問題

英國に於ける農業不動産金融

銀行等資金運用令の說明及

貸付問題(上)

金融は更に統制強化

注目すべき利潤絕對額の低下傾向

游擊の價格維護と英米の援

米國の金流入と過剩準備

金融統制の諸問題

金融基調變動の方向

中央儲蓄の環境の前途







